年前の未就職者が殘つて居り、不景氣風の吹き荒びつゝある今日に際して、此の大量の卒業生を迎ふる餘地を發見するはなか〳〵至難に相違ない。

然らば何故に斯くの如き現象を呈するに至つたか。十七年間に於ける小學生の三割增加は無論自然增加である、それが中等學校に於て三十割を增し、更に大學に至つて殆んど百割を增すといふに至つては決してたゞごとではないのである。第一に人口の增加もあるにはある、第二に文化の進歩による教育の普及もあり、交通機關の發達による通學の便も增進したであらう。だが單にそれ等の理由のみを以てしては斯くの如き異常なる加速度の現象を說明し盡すことは出來ない。曩に臨時教育會議の結果として高等及專門教育機關の擴張が行はれたことも其の一理由に該當すと雖も、それは寧ろ國民の輿論が時の政府を促して實行の任に當らしめたと解するが至當であり、且つ實際上にも大學及專門學校在學生は官公立よりも私立の方が遙に多いのである。それ故に問題は何故に斯くも大學及專門學校を志願するものが激增し、隨つて之を收容する機關の擴張と繁榮とを見るに至つたかに在る。若し眞實に社會が要求し、そして其の要求に適應する教育が施されてゐるならば、其處に卒業生就職難の事實は起らぬ筈である。如何に財界不況を告ぐるにもせよ、眞實の要求による限り、其の要求に教育が合致する限り、假令全部にあらずとも其の大部分を吸收し得る地位職業を見出し得ない筈はない。

悲劇の展開は常に偶然の裏に必然を伏せられてゐる。手短かに言へば現行教育制度は唯だ一枚の卒業證書を賣る爲の機關となつて居る。而して之を買ひ取るか、買ひ取らぬに依つて人間の運命を吉にも凶にも左右し得るやうに仕向けられてゐる。それは實社會が要求したのではなくて、舊き教育家が國家の權能を以て斯くあらしむべく國民に押しつけたのである。中等學校に修學せざれば普通教育の完成者では無いとする。判任にもなれない、小學校の先生にもなれない、一年志願兵も許されない、上級學校には無論進めない、醫者にも高等官にも辯護士にも乃至神官にも僧侶にもなれない。一言には人にして人にあらず。實力の有無よりは一枚の卒業證書が物を言ふのである。それが高級の學校に入り高級の卒業證書を買ひ取れば買ひ取る程、效果的靈能ありとせられ、事實從來の經驗が之を證據立てゝゐるのである。學校卒業者のみに與へられたるかず〳〵の特權、學校卒業者にあらずんば常に下積みにせらるゝ既定的運命、これを社會の罪と言ふは輕率に過ぎる。正確には制度が然らしめたのである。一般社會は國家の制度に追隨し摸倣したのであり、或はさせられたのでもある。

既に學校萬能、否、卒業證書萬能である。故に教育そのものゝ內容が如何に在り、其の實質的效果が實社會の要求に適應するや否かは必ずしも第一義的要素ではない。唯だ學校でありさへすれば宜いとする。卒業證書の取引さへ行はるれば足れりとする。だから制度の改善、實質內容の價値判斷を失

念して專ら學校を起し、擴張し、學校に殺到する。一種の投機である。一枚の卒業證書に依つて富貴功名を購はんとする投機であり、國家の爲政者が各種の特權を學校卒業者のために揭げ、各種の資格制限法を學校卒業者以外に布く。これでは苟くも資力のあらん限り、祖先傳來の田畝を無くしても、或は苦學力行しても、潮の如く中等學校に押し寄せ、中等學校を終れば又上級學校を陷れようとするのが、寧ろ當然ならずとせぬ。さればこそ小學生の增加率よりも中等學校が遙に多い所以であり、高等、專門、大學に至つて益〻隔世的激增率を示すに至つたのである。同時に中等學校の收容力が不足し、高等、專門、大學の抱容力も押し寄せる志望者を消化し切れずして、所謂試驗地獄の相を現出するに至つたのである。

併しながら斯くして與へられたる卒業證書の裏面は白紙である。生活の保證も附けられてゐなければ、就職の裏書も記入されてゐない——師範學校の如き特殊のものを除き——實社會の要求に適應する教育が施されて居らないからである。國民生活の實態に合致する教育機關とはなつてゐないからである。それ故に學校卒業生が多くなればなる程、其の大量生產とは反比例して需要供給の關係が不調和になる、供給過剩になる。兩者の關係が飽和點以上になる。其の代名詞が所謂就職地獄である。知識階級の失業問題である。そして思想國難である。應に知るべし、入學難も就職苦も同一事實の連鎖劇であり、同じ因果に繫がる輪廻の相に外ならざることを。

國民は斯くの如き悲劇的苦難を指し招く爲に、一年一億四千萬圓もの大金を文部省に提供してゐるのではない。更に地方教育費として年四億三千萬圓にも上る巨額の經費を血みどろになつて稼いだ僅かな收入の中から獻納してゐるのではない。だから教育制度の建直しは國民それ自身が持つ最緊最要の事業であることを痛切に自覺せねばならぬ。

(三)　國民の實生活と中等教育

教育の實際化、地方化、劃一主義打破、特權の改廢整理等は既に數年來實社會の各方面、各階級、各地層から廣く呼びかけられつゝある切實なる要求である。この叫びは黎明を告ぐる鐘聲といはんよりは、最早や一世の定論であり、夙に政友會の政策中にも立派に取り容れられてゐることは識者の見忘れざる所であらう。唯だ問題は、如何に之を具體化すべきかに在る。その改造、その實行方法如何が、未だ十二分に世に徹底しないだけである。

根本的には無論教育の實際化が主眼であり、問題の核心である。地方化、劃一打破等の種々の要求は第一に教育の實際化だに行はるれば總てが自然的に解決する。何となれば現制教育の缺陷は悉く國

民生活の現實に卽せざる非實際的施設が持ち來した禍ひに外ならぬのであるから。

茲に於て吾々は再び飜つて國民生活の實態を見直さねばならない。我が國が如何なる教育を必要とするかは、何よりも先づ我が國民が現に如何なる生活を營みつゝあるやを出發點として考慮されなくてはならない。而して之を最も簡明に最も手っ取り早く知り得る方法は國民の職業別人口を一覽するに在る。それは次章に表示せる通り國民の大半が農林業に從事してゐるのであり、工鑛業が二割餘、商業及交通業を合して一割八分、公務及自由業に至つては他の雜業中稍〻類似のものを加へても漸く六分程度にしかならないのである。隨つて國家の施設としては大體此の標準に適應する教育機關を備ふるが當然であるのみならず、假令各人個々の志望は自由であるにせよ、卒業者に對する實社會の需要量が此の標準以外に多くの空地を示すが如き餘剩を持たざるは判り切つたことである。若しも國民の生活實態を無視したる超越的、非實際的閑事業を教育といふべくんば、そは必ずや學んで效なき無用の具となり、生活戰線にも思想狀態にも教育の目的に正反對する破綻を招徠するに相違ない。我が國の教育は果して何うか。

初等教育に屬する小學校は暫く別として、例へば中等學校以上の各種教育機關が、我が國の人口職業別と對照して全然不釣合なる關係に置かれてはゐないか。農林業に必要なる智能を與ふる學校が果して國民の五割以上を占むると同程度に設備されてゐるだらうか。工鑛業の學校が果して各種教育機關の二割餘に該當し、商業及交通の學校が又一割八分の人口と適應するやうに出來てゐるか。殊に公務及自由業の如きは總人口の一割にも達せず、嚴密には五分乃至六分に過ぎざるに拘はらず、全教育機關中、最も多數の學生生徒を此の小範圍の需要に俟つが如き不自然不妥當なる施設を行つてはゐないか。

事實は誠に簡單明瞭である。我が中等教育の半數を占むる現制中學校は農・工・商等の如何なる智能を與ふる機關なりや。高等學校は將來如何なる業務に從事せんとするものゝ豫備機關なりや。各種の專門學校、官公私の大學を通觀して最も多くの學生を收容する學部は何であるか。法律政治の學は國民の五分乃至六分に過ぎざる公務及自由業の志望者にこそ緊要なるべけれ、國民の大部分を占める農・工・商等の何れにも極めて稀薄なる間接的效果しか持たないのである。經濟商業の學は前者に比して效果的範圍稍〻廣しと雖も、それでも尙ほ全國民の一割八分程度にしか待ち受けられてゐない。然るに其の法律や、政治や、經濟及商學に屬する教育機關が寧ろ恐るべき程過大であり、大々的多量生產を行ふに於ては、折角の專門的學能が何等の用を爲さずして若き學士が銀行の窓口に紙幣を數へ、或は記帳係、若くは傳票整理、若くは來客御世辭係等々々、其の行ふ所は多年螢雪の勞苦を重ねたる修

學の目的とは沒交渉なる方面に到着し、忽ち幻滅感を味はざるを得ない境遇に置かれるのである。此の如き事務の擔當は何等專門高等の學術書を讀むを要せず、中等學校卒業者にて充分であり、往時の丁稚小僧と雖も能く其の任を盡し得るではないか。而も是れ尙ほ就職戰術の成功者として羨望せらるる勝者の轉身ぶりである。其の小僧的、使丁的業務にすら就き能はざる多數の法學士、文學士、商學士、經濟學士の群を街頭に見るに至つては、何故の學問、何故の教育機關なりやを疑はずには居られぬ筈である。

この遠因は言ふ迄もなく政治文明の陶醉にある。法治主義の履き違ひにある。だから大學及專門學校を以て官吏及教師の養成所たらしめたのであり、次では大銀行、大會社の幹部をのみ目指しての登龍門、實は形式的履歴書の製造販賣元となつたのである。其の發想が官僚主義の持主又は學問を道樂とする貴族的有產者であり、國民を忠良なる無智者と定義づけてゐた人々の頭から生れた教育機關である。故に一たびは此の如き制度及機關を解きほぐし、國民の實生活に卽する新制度新機關に改造するにあらざれば、教育の實際化は達成され能はず、入學難と就職地獄は永久の連鎖劇とならう。

吾々は單なる抽象論を試むるものではない。今少しく現實の狀態について例示しよう。第一は先づ現在の男子中等學校が如何なる種別より成るかを瞥見せよ。

男子中等學校種別（昭和三年、公私立共）

種別	學校數	生徒數
中學校	五二八	三三一千人
師範學校	一〇二	四九
實業學校（甲乙共）	八七六	二四八
內譯　工業	一一二	三一
農業	三一八	六〇
水產業	一二	二
商業	一七七	一二〇
商船	一三	二
職業	八三	三三

學校數こそ實業學校よりも少なけれ、生徒數に於ては中學校が斷然他を壓してゐる。殊に國民の大半を擁する農工業に對し、農業學校生徒數は六萬人、工業學校は三萬一千人なるに、商業學校生は十二萬人に上り、そして何等實業的豫備意識をも持たざる中學生が三十三萬人を超えてゐるのである。

我が國の教育が如何に産業國策と緣遠く設計されてゐるかは一目炳然ではないか。

中學校の教育目的が、概念的には常識の涵養に在りと見られ、制度の明文にも「男子に須要なる高等普通教育を爲すを目的とす」と規定されて居ることは、今更めかしく論ずるまでもない。問題は其の所謂高等普通教育が何を意味し如何なる實質をそれ自らの內容に持つかといふ點に在る。假りに所謂高等普通教育は極めて結構なものとする。が何故に實業學校に於ては其の高等普通教育を施し能はざるや。且つ又農でもなく工でもなく商でも文でもなき人間の生活、卽ち何等の職業をも將來に要求せず、要求せずとも差支なき程の人間が現實の世界に幾パーセントを發見し得るだらうか。統計に據れば我が國に於ける無職業者は總人口の二%、卽ち百人中に二人しか見當らない。それも恒産ある好運者では無くて其の大部分は氣の毒なる無職業者である。若しも我が國の中學校が僅々二%の無職業者を對象とし、或は『武士は喰はねど高楊子流』の人物養成機關でゞもあるとせば、幾分存在の意義なしとせざるも、それは時代後れである。まことは高等普通教育の名に於て上級學校への豫備教育を施してゐるのであり、施すが爲に作られた機關である。上級學校の中には法・文・經・商・醫・農・工・理等の種々の學部がある。しかし其の何れにも共通せしめ、何れにも支吾せざることを條件としての豫備機關である。故に無特色、無個性となるのであり、豫備機關なるが故に實生活と抽離し職業意識を不必要とする灰色的存在ともなるのである。

茲には又假りに此の種の豫備教育機關があつてもいゝとしよう、然らば何程の人間が此の豫備機關を經由して上級學校に進むか（文部當局發表、新聞紙記載に據る。）。

昭和二年度中學卒業者總數　四四、二六九

內
- 一、高等學校及大學豫科入學者　四、四七二（約一割）
- 一、實業專門學校入學者　四、九一三（約一割餘）

概算的には中學校卒業生の約二割餘りしか目的地には進み能はぬのである。更に精密には是等上級學校入學者中實業學校の出身者も少からず含まれて居り、專檢及高檢出のものもあり、別に公私專門學校もある。故に中等學校の全部と中等學校以上の各學校全部の入學者を計算すれば左の通り。

各種中等學校卒業者總數　一七一、八六四

- 高等學校入學者　五、六三九
- 大學豫科及專門部入學
- 內
  - 專門學校入學者　八、七七〇
  - 實業專門學校入學者　二七、一三七
- 合計　七、一六二　四八、七〇八

官公私立男女各學校全部を合算す。別に公立師範より約一萬七千の卒業者を出し、高師は男女兩校にて約一千百名を採用す。他に臨時教員及實業教員養成所等もあれど少數なり。

本表に徴するも大體より見て、中等學校卒業生の三割五分だけしか上級學校に進まないのである。尙ほ右の入學者中には中學四年終了者及前年度乃至數年前の卒業者をも包含するを以て、新卒業生限りの實數は上表よりも更に一割内外も少い。然るに此の二割乃至三割の爲に全部の生徒が高等普通教育てふ概念の犧牲に供せられる。斯かる不經濟、不妥當なる制度に何の保存價値があらうか。

姑息なる二種中學案の如きは寧ろ問題外である。それよりは現制中學校を全廢し、地方事情に依り必要あるものは宜しく之を實業學校に改造すべきである。上級學校への豫備機關として尙ほ幾分其の形を存置すべくんば公立は一府縣一二校を限り名實共に純然たる豫備校——大學又は專門學校に直接連絡する機關——に取り改めれば足るのみ。全國五百三十餘の中學校中、四百二十に上る公立中學校は斯くして五十乃至七十校に減少せしめ、他は主として農工方面の教育機關たらしむるを可とする。

世上或は現時の實業學校卒業生を以て學問能力共に甚だ備はらずと爲し、特に農學校の如きは殆んど實益を爲さずといふ。或る程度までは事實である。而かもそれは我が國の制度が中學校を以て中等教育の正系とし本體として之に重きを置いた結果であり、隨つて其の設備の不完全なるは言ふまでもなく、教師も生徒も言はゞ皆繼子扱ひを受けて來たのである。加之我が國の農業の如き、從來未だ概して原始的方法以外に出でず、故に學校出を利用する途を知らなかつた點もある。今後の農業は之に異りて大に科學化し機械化すべき機運に在る。商工業方面に於ても無論同樣であつて、古來の徒弟制小僧丁稚制は時代と共に衰滅する。そして相當の準備知識あるものを要求する。故に中學校廢止に依つて生ずる財源を活かし實業學校の改善充實を圖るが宜い。

同時に女子教育に就いて一言する。昭和元年度の現計に據るに、

種別	校數	生徒數
高等女學校	六六三	二九九、四六三
實科女學校	一九九	二六、七四五

卽ち名ばかりの高等女學校が壓倒的多數を示してゐる。然るに其の高等女學校が如何に非實際的傾向の弊に流れつゝあるかは、夙に識者間に顰蹙せられてゐる事實であり、例へば西洋音樂を歌ひ、舞踏式體操を摸し、洋食を尙び、刺繍造花を學べども、米を煮、味噌汁を作る心得は全く零、折角の裁縫も裕衣一枚すら滿足には調製し能はざる實狀に在る。そも〳〵農村の家庭にピアノが何の用ぞ、海邊の漁嬢に刺繍造花が何の教養ぞ。女子の任務は家庭を整へるが根本要件であり、殊に生活改善の急務に迫られつゝある現代の日本に在つては、衣食住の現實問題に關し應用的經濟的智見を修得せしむる

が何よりも緊切である。故に今後の女學校は從來の教科に大改善を加へて育兒、衞生、看護、裁縫、炊事、洗掃等より榮養學一斑、實用的理科等に關する常識的教養を與ふると共に、農村に在つては養蠶、畜産、園藝、農作の大體を見習はしめ、都會に於ては市民の實生活に適應する實用本位の家庭學を主目とすべく、そして高等女學校の全部を實科女學校に改造すべきである。其の專門教育に於けるも亦女子本位に實際化さるべきを當然とする。

(四)　高等教育機關の改廢

次には高等學校及實業專門學校に就いて其の現情を見る(昭和四年度)。

	生徒總數	四年度入學	同入學志願者
高等學校	一七、三一二	五、五〇〇	三六、七〇七
實業專門學校	二二、〇七二	五、六五七	三四、六二四

全國中學生の憧憬の標的は高等學校と實業專門學校とである。隨つて此の兩機關が如何に苛烈なる試驗地獄の相を呈するかは右表に明瞭であるが、それは既に世人の熟知する所である。今吾々の考察を要とする事實は、高等學校の生徒總數が一萬七千數百人なるに對して實業專門學校全部の在學生が漸く二萬二千人餘に過ぎざることである。

抑〻高等學校は何を目的とし、如何なる教育を施す機關であるか。法令には是れ又高等普通教育の完成と打ち出されてゐるが、斯かる抽象的用語が畢竟概念の戯れに過ぎざるは中學校の場合に之を指摘した通りである。形式的には如何に辯ぜらるゝにもせよ、實質的には單なる大學の豫備門に外ならない。しかも大學への入學を保證せず、豫約もせざる曖昧なる豫備門である。高等學校を卒業して後若し大學に進まず、進まんと欲するも入學し能はざる時は如何なる境地に立たねばならぬか。中學校時代なりせば年齢少きを以てまだしも融通が利くでもあらう。高等學校卒業時代となつては既に一個の成人である。其の大部分は丁年を過ぎたる壯年知識階級の一人格である。國家は彼等に對して如何なる職業的準備を與へてゐるか。社會は彼等に向つて如何なる業務を提供すべく待ち設けてゐるか。何にもない、全くの無資格者である。百人に一人乃至數名だけが運善く中等教員の免狀にありつき得としても、それは寧ろ特殊的除外例である。此の如き抽象的概念の産物、曖昧無效果なる機關が國家として何の必要があらうか。若し大學の準備知識を與ふるが目的なりとせば——事實は其の通りであるが——當然に官公私共全部大學豫科制度を採用すべきであり、然らざれば之を廢止する方、國家の爲にも生徒の爲には遙に有利有意義に相違ない。

現に大學の收容力不足のため、中學、高校の二大難關を突破し若人の血を注ぎ盡したるかに見ゆる高等學校卒業者が進むに道なく退くに職なく、空しく放浪するもの毎年三千人以上にも上るではないか。就中、東京帝國大學の如き(殊に醫學及工學部)に在つては高校卒業後實に五回目の入學受驗者があり、二回三回は寧ろ普通である。即ち三ヶ年も五ヶ年もの長き間、高校と大學との空間に足ぶみせしめ、徒らに年齢を重ねしめつゝあるのである。此の間に於ける焦躁、煩悶、精力の浪費、學費の消耗、何人が之を讃美するや。そして其の將來には更に就職地獄の陷穽が築かれてゐるに於て、何が果して教育ぞや。

實社會は職業意識に目醒めたる有能者を要求すると同時に、少壯有爲の若人を求める。然るに現時の大學卒業者平均年齢は二十七歳にもなつて居り、若し帝大醫學部の如きに就いて調査すれば恐らく三十歳近くにもなるであらう。人生二十歳より三十歳頃迄は最も貴重なる意味に於ける青春時代である、智能經驗のすく〳〵と伸張し熟達する成長時代である、孔子は三十而立つと言つたが、それは獨立人格の完成である。社會人としての覺者であることを意味する。實際には三十にして立つは既に遲し、ましてや、其の頃に至つて尙ほ業務見習ひであり、職業上の新參者たるに於てをや。學校生活は特殊のものを除き二十二三歳を以て切り上ぐるやうにしなければならない。之が爲には高等學校の如き無目的の經過的機關を撤廢して、中等學校より直接大學に聯絡せしめる。假りに大學に一二ヶ年程度の豫科を置くとも、高校及大學の門前に足ぶみせしむることだになくなれば、入學試驗てふ地獄の關所が取除かるゝに於ては、滿二十一二歳には立派に大學の業を終へ得るのである(眞實一生を學問に捧げんとする篤實者は大學院に踏み留まつて研究を深める。社會は毎年二萬も三萬人もの所謂專門的學者を必要とせぬ)。約言するに高等學校は全廢さるべきであり、現狀のまゝに放置せば、啻に教育界の癌たるのみに止まらず、少壯年に取りての盲腸炎たらねばならない。

廢止されたる高等學校を如何に活用するかは次の問題であるが、吾々は主として之を實業專門學校に改造するが妥當と信ずる。其の理由は前に述べたる中學校の實業學校化と同じである。現制の如く無效果的なる高校と、卒業後直ちに用途に就き得る專門實業學校が殆んど同じ程度に存在するは國民經濟を理解せざる閑人の意匠に追隨してゐるのである。殊に高校の一半を形成する文科の如きは單なる中學校の延長であり、中途半端の外國語學校と異らない。現代の日本は切に實學を要とする。實學にあらずんば以て國民生活を豐かにし能はぬからである。故に實業專門學校こそ、其の多數の入學志望者を包容し得るまでに益〻增設擴張さるべきである。

更に進んで之を大學及各種專門學校に見るとせよ、其の制度が現實の社會と對照して如何に甚だし

く一方に偏倚し不調和に歪めるものなるかは、左記官立大學の學生收容數を一瞥しただけで判明する。

官立各大學入學者收容數（昭和三年）

文科系		理科系	
法學部	一、〇〇〇	醫學部	七九五
文學部	六〇〇	工學部	六九二
法文學部	五〇〇	理學部	二八三
經濟學部	六〇〇	農學部	四三〇
計	二、七〇〇	計	二、二〇〇

醫學部の中には官立單科醫科大學全部を含む。豫科を有する大學は本表の外とす。

讀者試みに本表を手にして、玆に三たび我が國の人口職業別と對比せよ。國民總數中一割にも達せざる公務及自由業を對象とする法文系が大學生の過半數を占有するに反し、國民の大半を養ひつゝある農業と國民の二割以上を有する工鑛業發展の爲に設備せらるゝ大學の機關は前表の如く貧弱を極めてゐるのである。醫學部が全國民の生命を預れる學問機關であることは說明を俟たないが、あらゆる學術研究の基本學科たるべき理學部の如何に微々たる狀態に置かれてゐることか。苟くも國民生活の全局的觀察眼を失はざる限り、斯くの如き制度、斯くの如き機關の配置が、舊き官僚時代の遺物として、法科萬能主義の殘骸として、貴族的有閑階級の道樂的伽藍として、極めて恰好なる古址舊蹟たるを目擊する以外に、何等の價値をも認め能はぬであらう。少くとも現代の國民生活を知り、產業國家の必要に目醒めたる人々である限り、法文系の三千人を激減せしめて現在の一二割程度に殘し、之に代ふるに農・工・理の各學部機關の增大すべきを痛感せずには居られぬであらう。否、ヨリ强意體には法・文・經の各學部の如きは之を官立大學より除き去りて其の全部を私立大學に委讓し、國費に依る此の種の機關は其の設備經營に困難なる理・工・醫・農に限定しても敢て不都合とはせないのである。

吾々の斯く言ふは空理空論を弄ぶにあらずして確乎たる根據を持つてゐる。そは慶應、早稻田等民間多數の大學が法文系に屬する各學部の機關を夙に具備しつゝありて、假りに官立大學が無くとも此の方面の人材養成には事缺かぬからである。實をいへば法律、政治、經濟及文學方面の各學科は各私立大學及專門學校のみにても既に供給過剩の感を與へる程に多い。殊に法學系に多數を算するのみならず、文學系に於ても、例へば各宗派の大學の如き皆相當の機關を持つて居り、一般に開放して入學者を迎へつゝある。早・慶・明治・中央・日本・法政等の各大學に就いては夙に世間の周知する所なるが故に之を略し、他の專門學校在學生が如何なる學科を修めつゝあるかを左に表示する。

專門學校生徒學科別（昭和元年度）

種別	生徒數	種別	生徒數
法學	一三、二一六	醫學	二、六九二
文學	一二、四四一	藥學	二、三八四
商科	七、四八五	齒科	三、一七五
經濟	三、三五二	數理化學	一、三三三
宗教	一、七九八	農業	五四〇
美術	一、〇五〇	家政	一、九六六
音樂	七〇八	家事裁縫	五三四

◎學校數　八十九校　◎生徒數（其他共）　五萬三千六百九十七人

全國官公私男女各專門學校を綜合し學科別に分類計算す。五百名以下之を略す。

知るべし、專門學校の大多數も亦法學、文學、商科、經濟等に屬する法文系であり、醫・藥・齒・農・數理化學等の全部を合しても一法學の修學生に比し遙に少いのである。假令、官立大學より法文系の各學部を撤廢したればとて、民間各私大及專門學校だにあらば、何等需要供給に不足せざるべきは此の一表を見ても想像に餘りあり。切言せば法學及文學等の研究者は單に專門學校生のみにても敢て國民生活上に左までの缺乏を感ぜないであらう程に、今日の日本は此の方面にのみ多量生産である。それが果して健全なる現象なりや否やは、教育が國家發展の基礎工事である限り、最も嚴肅に考慮されねばならぬのである。

（五）大學及專門教育の改造

我が國の教育現狀が如何に在るかは以上に於て一わたり概觀した。それに依つて判明せる事實は依然たる法學系が最大多數に上り、次には文學系であり、理・工・農等に至つては前者と比較にならぬ程寡少を示してゐることである。この現象は如何に說明せらるべきか。

由來を問へば矢張り制度の罪たらざるは無い。明治の先覺が例へば高等文官、外交官、司法官等を採用すべく規則づけたる科目は悉く法學系學科である。そして、他の一方は技術官と稱して種々の差別的待遇を與へてゐるのである。而して其の高等文官や司法官を作ることのために好都合なるべき制度が大學にも高等學校にも中學校にも首尾一貫的に强行されてゐる。隨つて其の反面には、中學校と實業學校との間にも差別待遇があり、高等學校と專門學校との間にも正系と傍系との別が立てられて

ゐる。全部が法學爲本主義である。實學主義でもなければ無論產業立國主義でもない。其處に官僚主義、形式主義、劃一主義、規則づくめなる繁文縟禮文明が種を播かれ根を下してゐるのである。近來高文試驗制其の他少しく改正せられたりとはいへ、尙ほ姑息不徹底にして其の實體が依然法學部本位の學科であることは益〻此の種の教育機關を繁榮せしめてゐるのである。そして民間の會社、銀行、商店等が其の教養の法科的に偏せるを知りながらも、因襲に引きづられて之を採用する。折角の學業が何等用を爲さゝるは自明の理である。

文學系の多きは同時に學校教師の多產を意味する。明治の教育は官吏と教員との爲に作られたる制度といつても大過なき程に、此の二方面に努力と經費とが集注されてゐるのである。共に啓蒙時代の現象であり、鎖國より開國への道程に要求せられた一時的需求である。故に一巡其の役割を濟ました後は速に改善せらるべきであつたに拘はらず、之を持ち續けたが爲に後には變態的となり、畸形的となり、不自然にも非實際的にもなつたのである。文學は趣味の學問である。政治法律は常識の學問である。元來は二つながら敢て强制を要せずして開發されるものである。殊に文學の如きは例へば世の父兄が何程之を禁遏せんとしても子弟の小說耽讀を抑止し能はざる自然的なる魅惑力を持つてゐる。特殊の研究は別にせよ、文學そのものに學校の經歷は必ずしも必要としない。而もそれが法學に次ぐの現狀に在るは卽ち當初教員養成の意圖に發源する。小學校、中學校、女學校、師範學校、高等學校等の總てが殆んど文科學校の觀を呈すると相照應するものである。こゝに至つて原因が結果を作り、結果が又原因を產みつゝある。法文系學問がいよ〳〵益〻社會を不生產的に導き、多くの青少年をクラーク式人格とリーダー先生式のサラリーマン・タイプに追ひ込みつゝある所以である。

斯くいへばとて吾々は決して法文系學問を輕視するものと誤解してはならない。學術の尊嚴をいへば何れか貴重ならざるものがあらう。政治法律の學が國家及國民の權益を擁護する如く、文學藝術のそれが民心の深化、趣味情操の淸高に裨益することは議論でも問題でもない。唯だ如何なる學問藝術と雖も、實生活を離れては存在せず、如何に藝術の爲の藝術を信條とする人々と雖も、食はずして活き飮まずして生を保つことは不可能である。孔子の如き哲人と雖も、陳蔡の野に餓ゆるや、吾道非耶と歎息せざるを得なかつたではないか。

世には又職業教育と人格教育の別を喋々するものがある。中學に重く實業學校に輕く、高校を正にし、實業專門を傍にせる風習は玆に淵源する。だが人生職業なくして何の用を爲すか。廣く解すれば教育も職業であり、學者も職業であり、僧侶も宣教師も無論職業である。職業に貴賤の別なし、現に學問の神聖を高調する大學それ自らが各種職業の學を教へてゐるのであり、教育的には學部學科と稱

するも、社會的には法律の職、文藝の職等々々に外ならない。少くとも職業觀念を超越して人間生活はなく、唯だ之を各人それ自らに意識するか、意識せざるかの差に過ぎぬ。隨つて職業觀念を無視しての教育は實生活に卽せざる空想的遊戯であり、職業觀念を蔑如しての道德も人格主義も實は小說的談理たるを免れない。人格教育と職業教育とを對立的に取扱ひ、實業學校に於ては人間的教養を與へ能はざるか、又は與ふるに不適當なるものゝ如く考ふるは、寧ろ驚き入つた迷誤である。此の故に實業教育を通しての人格的教養を不利不便とするが如き教育は、一日も早く現實の社會から遠ざけるべきであり、まことは實業教育に卽しての人格的教養にあらずんば、活きたる社會の用を爲さないのである。故に何等實業觀念を持たず、或は申譯的の實科を加味せんとする中學校の如きは撤廢すべく、高等學校も廢絶せしむべきである。

時代は進轉する。既に說けるが如き法科を本位とし又は文科を中心とするが如き教育が、何等の改革を加へられず、永く持ち續けられたとせば、今後の日本は何うなる。その答は現に朝夕の新聞紙が極めて明快に提供しつゝある。卽ち就職難である。知識階級の失業苦である。國家が教育制度を改正するに先んじ、現實の社會が現制教育の行詰りを告知し、其の破綻と崩壞とをまざ〳〵と見せつけてゐるではないか。

大學及專門學校卒業者就職率（內務省社會局調査）

	調査校數	卒業者數	內就職者數	就職率
大正十五年	一一	一五、一五一	八、九五九	五九％
昭和二年	一一六	一三、七九四	八、三三一	六五％
同　三年	一三七	一七、〇一八	九、一七一	五四％

此の調査は大學及專門學校の全部を含まず。昭和三年度に於ける卒業生全部の總數は四萬一千人に上る。隨つて更に本表調査漏れの分を加ふれば實際の就職率は右表よりも遙に低下すべし。

この數字は二年前のものである。然るに昭和四年度の卒業生就職率は同じ社會局調査に據るも四六％となつてゐるのであつて、本年は尙ほ一層の減退を豫想されてゐる。但し學科別よりいへば理工系の就職率は七六％であり、次ぎは高等師範の七〇％、農林の五九％なるに對し、法文經系は三八％に過ぎないのである。

近年官公私各大學及專門學校より送り出さるゝ卒業生の總數は何程あるかといふに、

一、大　學

大學及專門學校卒業生總數（昭和三年三月末現數）

二、四一四（內一五、一三七人は私立）

一、專門學校	二、九四九	（內一〇、七二八私立）
一、實業專門學校	六、五二一	（內九三七私立）
一、高等師範（男女共）	一、二四七	（全部官立のみを擧ぐ）
合計	四一、〇三一	

實に四萬一千人以上の盛況を呈してゐるが、本年は更に四萬三千人を數ふべく、而して其の中の約半數が法經系である。然るにそれが假りに昨年と同樣三八％の就職率を見るとしても、一萬二千人以上の高等浪人が單に法經系卒業者だけに依つて本年も又社會に作り出されるのである。斯くして大學及專門學校卒業生全部の未就職者中、其の六割及び六割五分までも法經系出身者のみにて背負ひ込んでゐるのである。如何に財界不況の爲とはいへ、此の數年來一萬人以上の高等浪人を毎年法經系から輩出するといふに至つては、國家の全局上何としても不經濟の極といはねばならない。

その結果は言ふ迄もなく知識階級の失業問題である。此の憂慮すべき事實が重大なる社會問題及經世問題として寒心措く能はざるものあるは、所謂思想國難の聲が如實に表明してゐる。左は單に全國職業紹介所に於て取扱へる分のみであつて、固より全部的のものではないが參考の爲に掲げる。

知識階級就職率（內務省社會局調査）

年次	求人數	求職數	就職數	就職率
昭和元年	一五、七五五	七六、四六四	七、七〇二	一〇・〇
同二年	一三、六八一	七八、二一八	七、五〇九	九・六
同三年	一三、七七三	七七、六〇六	七、六八六	九・六
同四年	一四、八八二	八二、三〇一	八、四二八	一〇・二

所謂知識階級の人々は概ね自らの矜持を有し、實際に於て職業紹介所の門を潛るものは寧ろ甚だ少きが故に右表の如きは極めて一少部分の事實を物語つてゐるに過ぎないが、それでも八萬人を超ゆる求職數を見、しかも就職に成功したるは僅々一割に止まつてゐるのである。全般的には推して知るべきである。

或は此の種の現象を以て專ら流行性學問病の禍ひに歸するものがある、それも確に一原因に相違ない。併しながら米國に於ける大學及專門學校生の總數は一九二二年の調査に於て既に七十萬人を超えて居るに對し、現在の日本は尙ほ其の五分の一程度にしか達しないのである。又我が國と人口數の略相似たる獨逸と比較すれば、彼れが二十三の大學と八萬五千內外の學生を有するに對し、我れは官公

私を合して三十七の大學と矢張り八萬餘の大學生を收容しつゝある（昭和三年三月現在）。即ち米國に對しては尙ほ及ばず、獨逸とは略匹敵してゐる狀態であつて、單に數の上よりいへば未だ必ずしも大量生產とはいへないのである。隨つて之を流行性學問病として手輕に片づけて置く譯には行かない。眞實の問題は其の數にあらずして其の學科にある。一例を擧ぐれば、獨逸に於て我が工科大學及帝大工學部に該當する高級工學生は二萬三千人に上つてゐるが、日本に於ては官公私全部を合して僅に二千數百名に過ぎないのである——更に高等高工其の他同種の專門學校全部を合しても九千餘にして獨逸の半數にも足りない。但し我が高等工業學校は獨逸よりも程度低く同列に置くは多少適切を缺く——此の一事に照らしても我が國の教育制度が如何に畸形的なるかゞ直ちに推知さるゝ筈である。括言すれば卽ち農・工・理等の實業的機關の未だ足らざるに拘はらず、法・文・經等の學部及學科より成る教育機關が多きに過ぐるのである。それは此の不景氣に押されながらも、實業系統の卒業生は現に法經系に倍加する就職率を示してゐる事實に徵しても極めて明瞭ではないか。

そこで此の結論は既に簡單となつた。法・文・經の教育機關を縮小して農・工・理の各學校及學部を擴張すべし。政府は此の方針を實際化するために官立に係る法・文・經系統の機關を縮小又は民間に委讓し、之に依つて生ずる財源を以て農・工・理の設備を改善し收容力を現制に數倍せしむべし。就中工・理の二者を最先急務とする。斯くする事に依つて就職苦難や、失業問題が少くとも緩和されるだけではなく、其處に初めて我が國民の實生活に適應する教育機關が實現し、產業國策の基本的要素を涵養し得るであらう。

（六）改革の要綱

教育に關して攻究すべき問題は尙ほ極めて多いが、現制教育の缺陷及び之に對する改造方針の要旨は略之を敍述したるを以て、以下簡單に所見を取纒めて置く。

（一）義務教育年限問題は今日既に全小學校の三分の二以上が高等小學を併置し、且つ尋常科卒業生の約七割が高等科に進みつゝある狀態なるを以て、地方事情の許す限り八箇年制度を採用せしめる。但し該高等科に在つては簡易なる實業的知識を實習的に修得せしむべく制度を改善する。

（二）實業補習學校は丁抹の國民高等學校及獨逸に於けるケルシエンシュタイナーの補習教育案を參酌し、職業的教育の普及を圖ると共に公民的教養を與ふべく努力する。

（三）前記二項を充實整備する爲には相當多額の經費を要するが故に、一方に於て現制中學校及師範學校を撤廢又は改造する事に依り地方財源を緩和し、他方地租委讓及地方財政の整理を促進し

て漸進的に設備の完成を計る。

（四）**公立中學校は既述の理由に依り一旦全廢する。**そして一府縣一二校を限り、純然たる大學及專門學校の豫備教育機關を置き、他は擧げて實業學校又は實業補習學校に改造する。

（五）中等實業學校の修學年限は四ヶ年又は五ヶ年とし、別に小學校高等科卒業生を收容する二ヶ年又は三ヶ年の機關を併設す。

大學及專門學校への入學資格は前項の豫備中學と同一ならしむ。

（六）**公立師範學校を廢止し**、毎年所要の人員を限り、各種中等學校卒業及同一實力あるものより募集選拔し、之に實地の訓練を施したる後各校に配置する。

此の方法に依る時は現に過剩を告ぐる師範卒業生の採用難を防止すると同時に地方教育費を節減し得。訓練方法は大體現制第二部の如くし、校舍は現師範を利用する。

（七）**高等師範制も亦之を廢止し**、前項と同一方法の下に毎年所要人員を限り、大學及專門學校卒業及同一實力あるものゝ中より募集選拔す。中等教員は現在既に供給過剩を告げつゝあるのみならず、本案により中學及師範學校を廢止したる曉に於ては、此の種の教員養成機關は自然無用となる。隨つて文理科大學の如きも、之を帝國大學に併合す。但し中等教員の爲に特殊研究を行ふ機關として、例へば衞生試驗所又は理化學研究所の如く利用することはよいと思ふ。

（八）**高等學校を撤廢して實業專門學校に改造する。**隨つて大學は中等學校より直接連絡すること現制專門學校の如くならしめ、大學卒業者の修學年限を短縮する。

（九）大學及專門學校は總て其の學科の種類に依り修學年限を定むることゝし、總ての差別的待遇を除去す。

必要ある場合は大學に豫科竝に研究科を置くを得。總て此の種の施設は必ずしも劃一的たるを要せず。

（十）專ら學術の蘊奥を究めんとする志望者は大學院に入學せしめる。無論專門學校卒業者にも入學資格を與へる。

（十一）官立大學に於ける法・文・經系統の學部は特殊の必要あるものゝ外、本論所說の理由に基き之を縮小して民間に委讓する方針を執り、理・工・農系統の學部を大に擴張すること。

（十二）學校卒業者に與へられつゝある各般の特權を整理して、能ふ限り國家試驗に依る制度を採用すると共に學校の經歷を條件づけざることに改める。

隨つて現制高等試驗令を初め、前記小學教員及中等教員の選拔試驗の如きも實力あるものは應試

せしむ。其の他之に準じて改正す。

即ち本項の改正に依つて卒業證書萬能主義の弊風を矯正し、實力あるものに對し所謂機會均等を與へること。

（十三）各學校に對する劃一的方針を改め地方事情其の他各校の特色を發揮せしめる爲め、可及的自由裁量の餘地を廣かしめ、煩瑣なる官僚的形式的規則を撤廢する。

（十四）各種學校の全部を通じ**聽講研究の自由を容認する方針**を執り、晝間と夜間とを問はず時間及教室の許す限り學校を開放する。同時に自由講座を設けて特志者の出講に便ならしめる。

この事官公立學校に於て殊に切要であり、斯くする事に依つて學校の收容力を增加し、入學難を緩和すると共に、遍ねく各階級に修學の機會を與へる。

（十五）官公私立間に於ける一切の差別待遇を排除する。既に國家試驗に依りて同一資格を公認せられたる以上、其の待遇に官私の別を設くるは却つて不合理である。

但し文部省直轄學校教職員に對する官吏としての地位官等に就いては之を適當に改廢するか、又は公私立學校職員にも同一の待遇に均霑せしめる（例へば神佛各派管長に對し勅任の待遇を以てするが如く）。

（十六）法律政治を主とする文官資格試驗を更に根本的に改正して法學萬能主義の弊を打破し、技術官との差別待遇を排除する。

（十七）教育制度の變更を頻繁ならしむることは各方面に種々の惡影響を及ぼす虞あるを以て、此の機會に根本的建直しを斷行すると共に、將來に於ては時代の進運に伴ひ自然的に改善せしめ得るやう總ての制規を寛にし、十二分に活用の彈力性を持たしめる。之が爲には枸子定規式の指示命令方針を改め、文部省としては大局高處より善意的指導を與へることを主務とする。

以上は現行學制及一般教育制度に對する所見の大要であるが、幸に此の改革案が實行の運びに進んだならば、現に國民を惱まし朝野識者の胸を痛ましめつゝある總ての難問題は、近き將來に於て殆んど全部的に解決するであらうことを信ずる。

顧みるに歐洲大戰後各國は各〻申合せたるが如く既に其の教育制度を建直し、戰前に比して全く面目一新の觀がある。最も保守的なる英國すらが曩にフィッシャー文相時代に快刀亂麻を斷つ底の改革を加へ、次いで獨逸も亦其の新憲法に於て劃紀的の改造を斷行した。特に露西亞の如きは殆んど極端と見らるゝまでの新意匠と新施設を試みつゝある。曾て丁抹が疲弊の極に達した時、其の國難を救つたものはグルンドヰヒの高等國民學校であるといはれ、又獨逸の工業を今日に持ち來たした殊勳者は

ミュンヘンの一學務課長たりしケルシエンシュタイナーだと稱せられてゐる。前者は丁抹の農民を呼び醒まして世界一の模範的農業國たらしむることに依り國勢を挽回したのであり、後者は獨逸の工場を經めぐりて少年職工に潑溂たる靈氣を吹き込んだのである。共に教育の實業化であり、國民教育の産業化經濟化に依つて國家更生、國運興隆の大勢を作り出したのである。之を思ひ彼れを想ふ時、獨り日本のみ舊時代の制度を墨守することが何の名譽か。山積せる重要問題に直面しつゝ枝葉末節の補綴的小改正に調査審議の日を空過しつゝあることが何の努力であらう。

思想國難の裏は經濟國難である。之を別の語に移せば教育國難であり、産業國難である。それは斷じて相異れる圖樣ではなくて、共通の原因結果を織り出せる裏と表とである。本質的には國民生活の苦難であり、生活を離れて如何なる思想國難も經濟國難もないのである。教育の實業化を以て好ましからざる功利化と同一視し、思想善導の逆路の如く考ふるものあるは、全然取るに足らざる幻覺論に過ぎない。世界各國は今や悉く教育の職業化、善き意味の功利化に努力し、之を以て新制度の基調としてゐるのである。之を基調とするにあらずんば就職難も、失業苦も救はれない。否、國民生活其のものが救はれないからである。誰れかいふ、制度はそも〳〵末なりと。然り、制度は概ね化石的のものである。併しながら今の場合に於て、殊に事の教育に關する限り、其の制度が現在甚だしく禍ひの本源を爲してゐる。制度に伴ふ諸般の誘惑と、誘惑に錯亂せる幾多の迷誤が、社會習慣を不良に導き教育の投機化、卒業證書の取引、試驗地獄、法文系の供給過剰、非實際、不經濟、不自然、不合理、等々々名狀し難き副作用を惹起してゐるのである。

教育の實際化は教育の實業化であらねばならない。それが制度建直しの基礎原理である。之を措きて現制教育改造の針路なく、國民經濟改善の方策なく、國難打開の妙案はあり得ないであらう。

〔追記〕上述の高等師範制、文理科大學及公立師範學校廢止案に就いては世上種々の論あるべきも、之を最近の實狀に徴するに高師乃至公立師範共に今や既に需供の飽和點に達し、本年の如きは官公私各大學及專門學校卒業者にして中等教員志望の有資格者數は實に一萬八百七十七人に上つてゐる。然るに實際の需要數は其の約一割内外に止まり、就職義務を有する官立高師卒業生一千二百七十名の配置にすら苦しんでゐる有樣である。

この現狀は各府縣公立師範に於ても同樣の傾向を示し、現に茨城其の他各府縣を通じて何れも卒業生の供給過剰に惱まされてゐる。而かも高師及公立師範卒業生は入學當初より就職義務を條件づけられ、官費又は公費の給與を受くるものなるが故に、是が非でも之を各地に分配せなければならぬことになつてゐるのである。其の結果として從來在職せる教員を淘汰する事に依り强ゐて新卒業生の爲に地位を與へんとし、之が爲に熟練老巧の先輩は何等罪なくしてその犧牲に供せられる。

斯かるは實に看過し能はざる人道問題であり、教育の名に依りて教職の地位を脅威し不安に投ずるものといはればならぬ。それは卽ち現行師範制の不必要又は不妥當なるを事實的に證明するものであり、制度整理上より見ても速に廢止若しくは現制第二部限りの機關たらしめ、又高師、文理科大學の如きは上記私案の如く撤廢して可なりと思ふ。

第九章　農村振興策

(一)　我が國農民の現境

我が國の農村が、現に甚だしく行き詰りを告げつゝあるは、爭ふべからざる事實である。朝野何れの政黨も頻りに農村の振興を高調し、併せて山村及漁村の開發を其の政綱に掲げつゝあれども、之に對する具體的實際的なる根本方針に至つては未だ確立を缺くの憾みを禁じ能はぬ。最近に至つて政府は財界不況の爲に續出する失業群を救濟すと稱し、何等かの應急的施設を講ずべく調査しつゝあるが如しと雖も、此の種の計畫は常に大都會の勞働者に一時的勞役を提供するに止まり、地方農村に對しては概ね沒交渉である。それのみならず、爲政當局は都會に於ける失業群の聲を聞く毎に、親切めかしく歸農を勸告し、農村に還りだにせば、麗しき山河と共に豐かなる美田が、父兄の笑顏に接する如く、彼等を待ち設けてゐるかのやうに說き諭すを常とする。だが現在の農村、山村及漁村等に斯くの如き餘裕が見出され得るであらうか。

吾々は今日の農村問題、農事農業問題が、我が國民生活上如何なる重大性を有し、それが國家經濟の全局より觀察して如何なる認識を與へられねばならぬかを明かにする爲め、まづ事實を概觀し正視する必要を痛感する。强意體には產業國策の一半が、農村問題の解決を意味するが故である。

順序として我が內地國民が如何なる職業に生活しつゝあるかを一瞥する。

日本職業別人口（大正九年國勢調査）

種別	本業者	從屬者	合計	比例
農業	一四、一四〇千人	一二、八〇三千人	二六、九四三千人	四八・二
水產業	五九七	八九五	一、四九二	二・七
鑛業	四九六	五三五	一、〇三一	一・八
工業	五、二七八	五、五八七	一〇、八六五	一九・五
商業	三、二九〇	四、三五六	七、六四六	一三・七
交通業	一、〇三三	一、四八三	二、五一六	四・五
公務自由業	一、一五八	一、八三四	二、九九二	五・四
其他有業者	四九一	五一九	一、〇一〇	一・八
家事使用人	二五	四三	六八	〇・一

無職業	五八一	七一五	一、二九六	二・三
計	二七、〇八九	二八、七六〇	五五、八四九	一〇〇・〇

右表に示す我が國の農業生活者は四八プロセント餘であるが、實際上に於ては水産業者の大部分も半農半漁民であり、又商工業者中にも地方に在つては農業を兼ねるものが相當多數を算せられる。故に精密には我が人口の過半數に上ることは言ふ迄もなく、現に國際聯盟統計年鑑に據る我が國民の職業別比率は水産業等をも含め％五四・八となつてゐる。卽ち總人口數の約五割五分までは農業經濟の直接的對象と看做し得る。

かく國民全人口の五割以上が農を以て立ち、農に依つて生を營んでゐるからには、農村問題を無視し或は輕視して、如何なる政治も方策も現實的價値を認められない筈であり、隨つて農業家の地位、環境及生産狀態等に就き其の實態を見究むることは、國民經濟建直しの前提として、最も重大なる觀點たらねばならない。然るに我が國に於ける耕地面積如何と見るに、

我が國の耕地面積（單位千町）

	土地利用總面積	耕地	同上比率
大正元年	三八、九二二	五、八一九	一・四九
同十年	三九、一一九	六、一六二	一・五七
昭和元年	三九、四七五	六、〇八九	一・五八

卽ち我が國に於ける耕地は土地利用面積の一割六分弱しか無く、而して之を前表の農業人口數に割り當つれば、農民一人當りの耕地は僅々二段三畝にも達しない――且つ水産業其の他の兼農者を加ふれば更に減少すること勿論である。尙前表の職業別人口數は、大正九年の國勢調査に據るものなるを以て、其の後の人口增加數をも參酌する時は、實際には我が農民一人當りの耕地は二段以內となる――故に之を戶數割にすれば、田・畑兩者を合して一戶當り一町歩未滿にしか該當しない（一戶五人の家族と見て）。最近農林省調査に依れば、內地農家の一戶平均耕作段別田五段六畝、畑四段三畝、計九段九畝となつて居り、大體上述の計算と合致する。

南米や加奈陀の如き未開墾地多き國は別とし之を歐洲各國の現狀と比較するに、英國農業者の一人當り耕作地は約四町、佛國は同二町六段、獨逸は二町一段、白耳義の如き小國ですら二町餘となつて居り、歐洲の農業國といはるゝ丁抹の如きも一人當り五町五段を持つてゐる。列國中最も少なきは伊太利であるが、それでも一人當りの耕地一町三畝にして、平均約五人の家族より成る我が國の一戶當りよりも尙多いのである（尤も前揭職業別人口表中の本業者のみに割當つれば我が農家一人當り耕地

約四段二畝となるが、そは必ずしも實際の狀態と適合せざるのみならず、假りにそれを標準としても尙伊太利の農民が持つところの三分の一より少ないのである）。若し夫れ北米合衆國の如きに於ては、農民一人當りの耕地實に十二町五段に及び、而かも廣大なる未開墾地を殘してゐるのである。

この簡單なる數字に依つても、我が國農家の地位が如何に苦境に在るかは略〻想像されるのであつて、それは要するに土地の面積に比して人口數が多いからである。其處に農村の人口過剩問題も起れば、次男以下の分家難も訴へられ、地價騰貴の說明もつくのである。隨つて都會失業者の歸農を歡迎し得るが如き餘地のあらう筈も無く、少しく氣概ある靑年が何等かの機會又は刺戟に觸れて都會に進出し來るは寧ろ必然の趨勢である。昔は土地と人口との調和を保持する爲に、或る種の人口調節手段を寬大に看過したといふ例もあり、日韓合邦以前に於ける朝鮮の如きも、それ〴〵の階級に應じて矢張り同種の方法が用ゐられたと聞く。しかし斯くの如きは現代に於て廣く容易に許さるべきことで無く、それよりは積極的に農村の耕地を擴大し、其の資源を開發し、其の環境を改造することに依り、年々に增加する人口を活用し消化せなければならない。これ卽ち產業國策の遂行を急務とする所以である。

（二）農家の生產と食料の不足

我が國の農民は上述の如く自然界の制限に餘儀なくせられ、極めて狹き立場に置かれつゝあるを以て、勢ひ耕地の集約的利用法に多大の努力を注ぐに至れるは改めて說明を用ゐない。舊來の耕作法に慣熟することに於て、又如何なる勞苦をも厭はざる點に於て、恐らく世界何れの國にも劣らないであらうことは、其の狹隘なる耕地を以てして、歐洲列國に數倍する如き人口を收容しつゝある事實に照らして疑ふべくも無い。英國農民一人當りの耕地四町なるに對し、我が農民が二段內外しか有せないことは、卽ち平面的數字上一單位の耕地を以て二十倍の人口を養つてゐる證據であり、又佛國が一人當り二町六段となつてゐることは、我れに比して十三分の一の人口收容力しか持つてゐないといふ事實を物語るものである。それだけ我が國の農民は能く耕やし能く努め且つ能く忍んでゐるとも言ひ得るが、しかしそれを以て最善とし、人間の能事既に盡せりと考ふるに於ては今後發展の可能性が消滅する。科學の進步、人智の發達に違反する。子孫の繁榮を自ら見殺しにすることになる。消極的退嬰主義を以てしては到底人口問題の解決も農村の振興も望まれないのである。

こゝに吾々は今少しく我が國農業の現勢を攻究しなければならない。農林省の統計に據れば我が內

地の農産額は年額三十二億圓乃至三十五億圓内外となつてゐるが、其の概略の内譯は左表の如し。

農村生産物價格表（單位百萬圓）

種目	昭和元年	昭和二年
米穀	一、八三六	一、七六四
麥類	三〇二	二七五
繭	六六一	四九七
蔬菜及花卉	二五二	二四九
其他食用農作物	二二九	三二八
果實	六八	七五
工藝用農産物	一一四	一一一
茶	三三	三一
綠肥用作物	三五	二八
合計（其他共）	三、五四〇	三、二五七

此の合計額を以て我が國の耕地總面積約六百萬町歩に割り當つれば、田及畑の兩者を平均しての年産額は一段に付き約五十五圓乃至六十圓に該當する。而して之を我が國の農事從業者卽ち農民二千六百九十餘萬人の頭割りにするとせば、昭和元年度に於ける農民一人當りの生産價格は一百三十圓、同二年に於て一百二十圓餘りである。故に農家一戸平均五人と見ての生産額は年六百圓乃至六百五十圓であつて、一戸當り平均約一町歩の耕地しか持たざる我が農民は主として此の收穫に衣食することになる。

曩に農林省農務局に於て行ひたる農家經濟調査に據れば、我が國農民一人一日當りの勞働報酬は自作、小作及自作兼小作の三者を平均して、大正十三年度は一圓十一錢、同十四年度は一圓二十八錢、昭和元年度は九十三錢であつた。一戸五人の家族中老人小兒を除き、勞役に堪へるものを平均二人とし、一ヶ月二十五日間、一年三百日勞働するとして、此の一家の收入は矢張り年額六百圓内外である——假りに前表生産物各種目以外、尙別種の副業又は餘得ありとしても、他方に公課、肥料代、農具等の支出をも見込まねばならない——これ恰も都市の住民が一ヶ月五十圓の給料に依つて一家五人を養ふと同額であり、其の生活狀態が如何にあるかは推して察すべきである。

若しも農産物の全部を以て、單に其の耕作者たる二千七百萬の農民だけに充當さるゝものとせば、或は前記の收穫を以てしても自營の途は立つかも知れない。原始人類時代に於ける經濟の建て方は卽

ちそれであり、鎖國時代の國民經濟論にも往々此の種の考へ方が見出される。だが現實の世界に於て斯くの如き遊牧人種的存在は寧ろ御伽噺である。我が農家が產出する所の作物は內地國民六千萬の需要品であり、同時に農家も亦自ら製造し能はざる工業生產物なくして一日も生活し能はぬのである。其處に各種生產品の交換利用價値が發生し、そして其の生產の善惡多寡と利用價値の高低と廣狹とが直接的に國民生活の苦樂を分つことになるのである。隨つて問題は單なる農村農家限りの盛衰禍福に止まらずして、國民全般、國家全局の運命問題へと展開する。

そこで我が國の農家が生產者として如何なる利用價値を國民經濟上に占有しつゝありやと問へば、そは前揭の生產價格表が示す通り、繭竝に他の小種目を除きては廣き意味の食料品に屬するものばかりである。之を作付段別よりいへば全耕作地の九割以上が食料品生產の爲に使用されて居り、而かも其の大半は米である。桑、麻、除蟲菊等の如き工業用作物は殘りの一割未滿を利用するに止まり、我が農家は事實上の恒久的總動員に依り、國民生活の兵站部を引受けつゝある尊き戰士である。

それにも拘はらず、我が國に於ける食料品は總括的に見て尙甚だ足りない。足りないだけでは無く之が爲に多き時は二億四千萬圓、少なき時にても一億四千萬圓近くの代價を外國に支拂つてゐるのである。參考の爲に國民全般の食料品輸出入關係を揭げる。

食料品輸出入表（單位百萬圓）

年次	輸入 粗生食料	輸入 製造食料	輸出 粗生食料	輸出 製造食料	差引入超
大正十四年	二九五	九七	五五	九二	二四五
昭和元年	二四三	一〇七	四九	九八	二〇三
同二年	二二三	一〇一	五四	九一	一七八
同三年	一九一	一〇四	五六	一〇四	一三八

この差引入超額が、卽ち我が食料品不足の爲に主として外國の農民に支拂はれるものである——精密には表中の食料品にも糊その他の用途に充てらるゝものがあり、例へば輸入大豆の中から油を搾取して工業に供する（之は極めて少額なれど）が如き事實もあるが今は概括的に記述する——更に其の上に朝鮮から約一億八九千萬圓、臺灣からも約五六千萬圓、合せて二億四五千萬圓の食料品を我が植民地よりする移入に仰いでゐるのである。故に前表昭和三年度の數字を標準として見ても、我が內地食料品の輸移入超過總額は約四億圓に上るのである。加之朝鮮に於ては我が內地に米を送る代りに滿洲より三千萬圓內外の粟を輸入し、臺灣も亦同じく一千餘萬圓の外米を他より輸入してゐる狀態であるから、精密には是れ亦前記入超額に加算されなければならないのである。

我が農業者の涙ぐましき勞役を以てして、現在尙本邦食料品の自給し能はざる實情は斯くの如くである。其の上に我が國には棉花も羊毛も麻も無い。建築用の木材も鐵も足りない。生くべき爲の最初の用具、卽ち衣食住の何れもが海外よりの供給に補充せられずしては立ち行けない。若し現狀のまゝに放任し推移すとせば、稼いでも〳〵追つかぬとは蓋し我が日本の國民、殊に收入少くして而かも人口の過半數を占むる農民の現境ではないか。

(三)　代表命題としての米

我が農業者の地位環境が如何に在るかは既述の通りであるが、更に歩を進めて其の實情を解剖すれば、全耕作地の九割餘までが食料用生產の爲に充當され、そして又其の中の大半が米作の爲であるといふ事實から見て、農村問題の第一要目が何よりも先づ米を主題とせらるべきことは最早や多言を要せない。我が國に輸入せらるゝ食料品としては小麥があり、豆があり、砂糖があり、何れも數千萬圓に上つてゐるが、其の金額に於ても將た國民生活上の要性より見ても米が筆頭である。それは三十五億圓內外を算する我が農作物中、米の一項目だけで全生產額の過半を占めつゝある事實に依つて明瞭である。

所謂農村問題は如上の意味に於て、米を離れて解決することは出來ない。少くとも米を對象として の研究對策を缺如するに於ては、農村問題の焦點を逸する。故に玆には先づ米の問題を以て農村經濟の代表的命題として觀察し、他は別の機會に讓る。

勿論最近の實勢よりいへば、米の生產高は年々に增加し、朝鮮及臺灣よりする移入米を加ふれば自給自足の域に達するの時期遠からずとも認められるのであつて、問題は寧ろ其の價格に在るが如く觀ぜられる。殊に現時の米價は農家に取りて生產費を割る程に低落し、採算不利となりつゝある。隨つて今日農家の立場より見る時は生產增收問題よりも、却つて米價の安定策を要求するであらう。だが吾々の所見を先づ簡單に打ち出して置くならば、米の需要は人口の增加及生活の向上と共に益〻增進する。明治十四年の農務局調査に據れば我が國民の主食料は米五三％、麥二七％、雜穀其の他二〇％であつたが、大正十年調査では米七八％一、麥二一％八、雜穀〇・一となつてゐる。卽ち五十年前の國民中米を主食料とせるは約五割餘であつたが、今は約八割近くが精白米を用ふる迄に進んだのである。而かも國民の主食品の爲に巨額の輸入を必要とすることは國家經濟上堪へ難き痛苦である。隨つて食料品の輸入防遏策として多量生產を望むことは當然であると同時に、他の一面に於ては從來我が國限りの特產物の如く見做されたる米も、今後は國際的商品化すべき趨勢に置かれてゐる。故に其の

價格も亦直接若くは間接に世界的需給關係の影響を被るべき運命から解脱され得ないであらうことを推せしめる。但しそれが我が國の農家に取りて有利に展開するや否やは疑問であり、其處に國家の對策と農民の自覺如何が重大觀點となるのである。別言せば米を主題としての農村の盛衰は、一に將來に對する準備の有無に懸つてゐるのであつて、今は卽ち運命の分岐點に立つてゐるといふ一事を見忘れてはならない。

米の問題に對する眞實の意義は蓋し此の點に横はつてゐるのである。國際的商品としての米は、他の總ての生産物と同樣に價格の低廉化を促す。しかし米價が安ければ農家の生活はます〳〵壓迫を受けねばならない。國家は米の多量生産を必要とする。しかし之が爲に農家をして生産費を割るが如き苦境に陷らしむることを傍觀しては居られない。それを如何に妥當化し、如何に有利に進展せしむべきか。問題の解決は結局此の點に歸着する——吾々は先づこれだけの論點を掲げ置きて以下記述の步を進める——

顧みるに我が國は今より三十數年前までは少量ながらも米の輸出國であつた。それが海外よりの輸入に待たざるべからざる狀況を呈するに至つたのは、明治三十年頃からである。念の爲に左表を一瞥せよ。

米輸出入高（五ヶ年平均　△印は入超）

	輸出量	同價格	輸入量	同價格	入出超
	千石	千円	千石	千円	千石
明治六—一〇	二四七	一、四三七	三	一五	二四四
同　一一—一五	八五五	五、三一〇	三〇	一六五	八三五
同　一六—二〇	三五〇	一、八九八	三九	一六六	三一
同　二一—二五	八五五	五、三一〇	五七三	三、六八五	二八二
同　二六—三〇	六七一	八、三七八	一、五四二	八、六四三	△八七一
同　三一—三五	五四〇	六、六七三	一、八八〇	一八、五六六	△一、三四〇
同　三六—四〇	二六七	四、〇三三	四三、三六七	△三、八四一	
同　四一—四五	三二六	三、九一〇	一、六二七	一八、五七六	△一、四〇一
大正　二—　六	五一六	八、九七六	一、三九八	一七、五五六	△八八二
同　七—一一	一二三	四、七一六	二八七	七、一七六	△一六四
同　一三—昭二	四六	一、八八七	三、二七六	一〇、三三六	△三、二三二
昭和三年度	三五	一、二七八	一、八八九	三三、六七二	△一、八五四

我が國の農業は既述の如く年々に進步し、隨つて米の收穫高も增進してゐるに拘はらず、明治三十年を境として以前の輸出國から一轉著しき輸入國に激變した。爾來歐洲戰爭時代に於て多少輸入の減退を見たけれども、未だ大勢を既往に取戻すことは出來なかつた。斯く米の消費量が生産量を超えて駈足的に增加したのは種々の原因もあらうが、要するに國民生活の向上と人口の增加に由るのであつ

て、此の間、其の數量及價格に變動多きは天候に支配さるゝ作柄の豐凶を主因とする。但し大正年代に入りてよりは、前表の外米輸入高以外、朝鮮米の移入漸增し、臺灣米も亦之に加はりて次第に外米を驅逐し、此の數年來は我が內地不足額の八割內外までも鮮、臺よりする移入米に依つて補充されるやうになつてゐる。左に最近四ヶ年間に於ける我が國の米需給高を表示する。

國內米需給高（單位千石）

	內地生產高	輸入超過高	移入超過高	合計（消費高）	一人當り消費（石）
大正十四年	五七、一七〇	五、〇四七	五、二六一	六七、三七八	一・一二
昭和元年	五九、七〇三	二、〇五〇	六、九五五	六九、七〇八	一・一三
同二年	五五、五九二	四、〇九四	七、二四五	六六、九三一	一・一〇
同三年	六二、一〇二	一、七一九	九、〇六八	七二、八八九	一・一三
同四年	六〇、三〇二	一、〇〇〇	七、四〇〇	六八、七〇二	一・一三
右平均	五八、九七四	二、七八二	七、一八三	六九、〇八二	一・一三

內地生產は大部分翌年に消費さるゝもの故、玆には各前年度の產額を揭ぐ。輸移入超過高は年度內輸移出額を差引きたるもの。但し持越米及再輸移出入は含まず。故に微細には本表合計額を以て總消費額と見做し難きも大約を知るには充分であらう。尙大正十四年は特別に輸入高多く、昭和二年も相當亦多額に上りしも、爾後朝鮮及臺灣の移入米の增加に依り、更に減少の趨勢に在る。

右表平均高に依つて知り得るが如く、我が內地米は其の消費高と對照して年々一千萬石內外の不足を告げてゐるが、其の中大正十四年の如きは別とし、近年朝鮮及臺灣よりの移入高が增加して約八割內外を補充し、他の二割、約三百萬石內外が外國米の輸入である。そして此の數年來輸入米に對して何程の金額を外國に支拂つたかといへば昭和三年度五千一百萬圓、同二年度七千九百萬圓、同三年度三千三百六十餘萬圓——大正十四年には實に一億二千萬圓餘——に上つてゐる。又朝鮮及臺灣よりの移出米に對して支拂つた金額は昭和元年度二億五千五百萬圓、同二年度二億五千九百萬圓である。卽ち年々少くとも三億乃至三億五千萬圓の巨額に相當する米が我が內地國民に不足を告げてゐるのである（尙半面に於て之が爲め朝鮮が粟、臺灣が外米を輸入しつゝあることは前に指示せる通りである）。

量に於て一千萬石、金額に於て約二億五千萬乃至三億圓。それが斷じて輕少なる數字では無いことは言を加ふるを俟たない。勿論大勢より見れば外米の輸入は、大正十四年を峠として漸減の傾向を示し、昨昭和四年の如きは既に百萬石程度にまで減少した。而かも此の百萬石中には飴其の他の菓子や燒酎などの原料として使用せらるゝ碎米を含むが故に、樂觀的には鮮臺を包有する我が國家經濟の全局に於て著しく以前の狀態を緩和せられつゝありと認め得る。然れども年々九十萬人內外を數ふる我が內地人口增加の趨勢を眼前にして、思ひを前途に運ぶならば、果して現狀のまゝに傍觀し、自然の

成行に放任して心を安んじ得べきや否や。

朝鮮及臺灣の產米は尙增加するでもあらう。我が內地米も同じく生產を增すではあらう。それでも今日の農作法、今日の農業經濟のまゝに經過するに於ては、既往の實績より推算し十年の後には朝鮮及臺灣よりする移入米の增加を當込みても、恐らくは約一千萬石の不足を外米に仰がなければならぬ立場に逢着するであらうことを考慮し置く必要がある。而してそれが二十年後には又二千萬石に倍加し、三十年後には益〻累增して更に驚くべき數字を示さずとは何人が斷言し能ふか。且又前に一言せるが如く米の國際商品化は朝鮮及臺灣米の移入と共に益〻米價の低落を誘致し、內地農村をして一層不利なる地位に投ずべき運命を示唆されつゝある。之をしも等閑に附して如何に農村を振興し、如何に國民經濟を建直し能ふか。

（四）合理的方策如何

近時食糧自給に關する列國の施設は、極めて徹底的にして且つ用意周到である。例へば先年英國が砂糖の栽培を奬勵するに方り殆んど原價同額の補助を與へ、近くは又滿洲の大豆の種を移植して自給の計を講じつゝあるが如き、又濠洲が五ヶ年間全然外產砂糖の輸入を禁止する政策を敢行する程の保護主義を執りつゝある如き、何れも國家經濟の大局に鑑みての計慮に外ならない。而かも斯くの如きは、たま〳〵以て農業に關する保護政策の一端を示せるに過ぎずして、廣く之を列國に徵すれば、其の實例は寧ろ枚擧に遑が無い。然るに翻つて我が國の現狀を見れば、姑息不徹底なる彌縫策以外、其處に果して如何の根本方策があり、如何の施設が國家百年の長計として策定せられつゝありや。

そも〳〵我が國の農業、殊に米作は既に天候關係に支配さるゝこと少き迄に進步せりとはいへ、尙若干の豐凶を告ぐる每に價格の暴騰暴落を惹起し、之が爲に國民の過半數を占むる農業者の立場を甚だしく不安の狀態に放置するが如きは、果して爲政者たるの任務を完うせるものと稱し得るであらうか。暴騰する時は忽ち都市に於ける消費者の生活を脅威し、暴落する時は又忽ち農家の經濟を苦境に沈淪せしむる。之を以て不可抗力とし拱手傍觀するは自ら人間の智能を無視すると異らない。人間には自然を征服し制御し得る能力があり、自然の暴威と人類の生活とを整調し得る叡智と技術とが與へられてゐる筈である。國家の政策、政府の施設は其の征服乃至整調の爲である。現に歐米各國に於ては麵麭肉類等其の他主食品の價格は殆んど一定し、それに變動なからしむることに多大の注意を拂つてゐるのであつて、若しも異常の騰落を惹起するに於ては世論囂々朝野を騷がし、延いては爲政者の責任を問ひ內閣更迭問題ともなるのである。尤も既往に在つては概ね主食品の價格騰貴を防止し、消

費者の生計を擁護する手段として之が調節を緊切とせられたのであるが、近來は生産の方面にも同樣なる注意と努力とが差向けられつゝある。曩に米國大統領選擧戰に際して農作物の價格安定が共和及民主兩黨の重要なる政綱として持ち出されたことは何人も之を記憶するであらう。今や小麥及棉花の市價低落を調節する爲め生産段別制限が高唱せられ、生産消費兩方面に對する合理的調節策は現に列國を通じて大なる關心事となつてゐるのである。

交通機關の普及と耕作法の進歩に伴ひ、我が國に於ても昔時の如き饑饉の慘禍は既に跡を絶ちたりと言ひ得べきが、米價の幅廣き變動は尙之を免れ能はずして、高き時は一石四十餘圓にも上るかと見れば低き時は二十五圓にも下るのである。近年は亦朝鮮及臺灣の作柄如何に依つて其の影響を受け、之が爲に農家は必ずしも米穀の多産多量のみを至上の幸福とはせず、凶年不作の臻るを恐れながらも豐作に依る過度の暴落を憂ひて、其の胸には常に不安が漂うてゐる。其の矛盾せる心理作用、其の複雜なる利害關係、加ふるに大自然の脅威と鮮臺米の影響等一日も暢かな心地はしないのである。勿論消費者としては米價の低廉なるを欲するは言はでものことであり、殊に工業政策上に於ては其の勞銀關係よりしても、成るべく米價の低きを一要件として希望するに不思議は無い。

この利害相反せる生産者と消費者との關係を合理的に調節することに政治及政策の認識價値がある。同時に生活安定、思想安定、國民經濟安定の先提的及基礎的事業が、如何に取扱はれるかに依つて其の國の爲政者及國民の能力が判定されるのである。本來よりいへば國民の主食品は安からねばならぬ。併しながら過度に安きが故に生産者をして多量多産を詛はしむるが如きは絶對不合理である。國民の主食品を生産することの爲に、雨に濡れ風と戰ひて長き勞役に服するに拘はらず、其の結論が貧苦であるとせば、世に是れ程大なる矛盾は無い。

こゝに於て當然に導き出さるべき原則的方策は、低廉にして而かも同時に生産者の立場を快適ならしむることである。消費者にも農業家にも共に安意と滿足を得せしむることである。少くとも其の雙方に脅威壓迫を與へず、相互の生活の安定を期することであらねばならない。然らば現在殆んど反對の立場に在るが如き生産者と消費者とをして相共に其の福祉を增進せしむる方策如何。それは神と雖も或る一つの方法しか指示し能はぬのである。何ぞや、集約方法を科學的經濟的に改善利用して農家の收益を多くし生産單位を豐富にすることだけである。別言せば同一面積よりする生産高を多くすることに依つて、生産原價を低廉にすると同時に、農家の利潤を增加する。例へば從來一段歩當りの收穫平均約二石と假定して若しそれに一割の收穫を增したとせば、卽ち其處に生産者の利得は一割だけ加はる。二割三割乃至五割にも十割にも收穫が增せば、其の生産原價は更に之に伴うて引下げても農

家の利益を減ぜない理である――勿論精密には肥料代及勞力等の增加も之を見込む必要があり、過度の多量生産に陷る時は所謂收益低減法の症狀を呈する。故に總ての場合に於て、科學的及經濟的なるを要するのである――これ卽ち大量生産に依りて需給相互の利益を增進せしむる經濟原理の實現に外ならないのであつて、それは啻に米其の他の農産物とは限らず、あらゆる産業に共通する定則たらねばならない。近時の流行語たる所謂産業合理化なるものは、消極主義の政策に誤られて人爲的に農産物の價格を下落せしむるが如き手段を意味するのでは無い。又消費節約を强調して一般の需要を減退せしめ、生産者を死地に投ずるが如き政策が何うして産業合理化などと稱し得やう。大に生産を增進すると共に大に需要を喚起する。此の外に生産消費兩者の調和と融合法は無いのである。

隨つて問題は又二つに分れる。如何にして一單位當りの生産を多量にするかゞ其の第一であり、如何にして多量生産に依る米價の下落を適度に整調し其の價格を安定せしむるかゞ其の第二である。前者は收穫高の增加、卽ち「量」の問題である。後者は生産の增減に由る暴騰暴落を調節する、卽ち「價」の問題である。そして此の「量」と「價」とが生産者と消費者との雙方の利益を共に確保せしむる點に、有意義なる國家の政策が働いてこそ、初めて我が農家の憂惱と、米を主食物とする國民の胃の腑から屢〻發生する恐怖的心理が取拂はれ得るのである。

それで玆には「量」の問題を說き、次いで「價」の問題に移ることゝする。

（五）農村の科學化と多量生産

既に前に記述せる通り「量」の問題より觀察せる米の將來は、現に內地において一千萬石の不足を告げ、十年後には之を現狀のまゝに放任するに於ては更に又一千萬石內外の不足を累加する。故に國家としては相當の犧牲を拂つても、收穫增加の計畫を遂行せねばならぬ。

その實行方法としては、何人にも先づ考へらるゝことは農業資源の開發卽ち耕地開墾を助成し促進することである。我が國土の狹隘なる新たに鋤を入るべき餘地を剩さゞるが如きも、精密に踏査すれば其の實尙少からざる資源が殘されてゐる。卽ち北海道に於ける未開墾地約一百萬町步、內地にて耕地整理を要するもの約二百萬町步、其の中年々四萬町步を開拓改善するに於ては十年後八百萬石の收穫を豫定し得るのみならず、我が內地産額は明治初年以來每十年間に一割二分乃至二割の增收を示して居り、今後も引續き此の增率若くしはヨリ以上を豫期し得るが故に、是れ又少くとも六百萬石の增收を豫定の中に組込みて可なりである。別に朝鮮及臺灣に於ける開拓可耕地五十萬町步があり、朝鮮は既定計畫の遂行に依り十年後に八百萬石の增收を推定せられてゐる――朝鮮に於ける人口の增加竝

に滿洲より米の代用品として年々朝鮮に輸入せらるゝ數百萬石の粟のことを考慮に入れねばならないが――故に是等の施設を着々進行せしめたならば、必ずしも自給の途なしとはいへない。然かし吾々は更に根本的なる他の方策を考へねばならない。

それは卽ち科學的及經濟的基礎に立脚する增收策である。南北兩米の如き廣漠なる未開拓地を有する國は別として、我が國の如く面積廣からざる地域に於ては、尙ほ開墾可能餘地を殘すとはいへ、其の限界は初めより分明である。眠れる資源を開きて新たに利用價値を與へることは、無用を有用化するものであり、極めて必要なる計畫に相違ないが、其の有限的なる事業と比較して、科學の進歩に依る利用價値の增進は無限的である。アダム・イヴの昔から人口の增殖に定まれる極限性を約束づけられてゐない限り、其の無限的擴大數を現地球に包容し繁榮せしむる可能性は唯だ人間智能の無限的發展力だけである。如何なる國難も、不景氣も、人口過剩も、失業問題も、人智の無限的發展力を打破し得る鐵鎚ではあり得ない。其處に駸々乎として休止することなき現代科學の光が輝いてゐる。

進める科學人が、假りに我が國今日の農業を一瞥したとせば、それは長足の飛躍を示したといつても、實際は尙原始的手法のヨリ多く踏襲反覆せられてゐることを指摘せずには濟まさぬであらう。其の集約的利用法は無論世界に於ても一二位を爭ふ程であることを否むまい。だが其の絕對的效果はまだまだ十が一にも達してゐないことを敎へるであらう。例へば我が國に於ける一反歩當りの米作は、

一段歩當り米收穫高（單位石）

種目	明治三十七―四一	明治四二―大正二	大正三―七	大正八―一二	昭和二	昭和三
粳米	一・六七	一・七三	一・八八	一・九四	二・三	一・九三
糯米	一・五〇	一・五二	一・七四	一・八六	一・八〇	一・八〇
陸米	〇・八九	〇・八九	〇・九九	一・〇一	一・一	一・一三
平均	一・六三	一・六九	一・八三	一・八九	一・九五	一・八八

日露戰爭當時より昭和三年に至る迄に、一段歩當りの平均收穫一石六斗三升の米が一石九斗內外に增したことは確に上表の如くである。だが此の收穫高は伊太利、西班牙などの如き未熟練の試作者の收穫高よりも遙に低く、之を其の勞力及施肥等の點より對比すれば暹羅や、英領印度支那のそれにも及ばない。地味及氣候の關係に由るにもせよ、段一石五斗は德川時代の實質的標準高であり、爾來一世紀を經て未だ二石に達しないのである――實際には現在にても二石以上なりと主張する論者あれども――之を目して原始的狀態を離るゝこと尙遠からずと評する人あればとて、徒らに憤激的態度を以て抗爭するは決して大國民の經濟眼では無い。

吾々の斯く言ふは既に種々の確證が提示されてゐるからである。現に一昨昭和三年には滋賀縣に於

て一段歩七石を收穫せる事實が擧つて居り、更に昨昭和四年には島根縣に於て一段歩實に八石四斗てふ好成績を現はしたのである（之を內地に一般化し得る可能性の有無竝に所要經費の問題等は尙未知數だが）。又福岡縣に在つては一段歩平均三石餘の記錄も出てゐるのである。二石未滿と八石四斗との差は一對四强であり、假りに其の半額よりも少き四石を以て全國的標準と爲し得る迄に立至つたとしても、我が國民に取つては一大驚異であり、國民經濟上の革命的變化であらねばならぬ。勿論此の結果を持ち來す迄には、假りにそれが可能且つ有利にもせよ、尙相當の歲月を要すべく、隨つて此の間に於ける人口の累加と需要の增進をも考へなければならぬが、少くとも從來の輸入を防遏し得る程度にまで生産增加の方法が無いとは決して言はれないのである。

かくて生産の增加卽ち「量」の問題は單なる空想にも幻覺にもあらずして既に現實化の道程に在る。然らば其の方法、其の技術如何。一言以て掩へば卽ち集約に集約を以てせる人間智能の結晶である。我が富民協會は一段歩十石を目標として益〻其の努力を續けてゐるが、之は是非とも朝野力を合はせて其の實驗に依る方法技術を研究し、採算可能範圍に於て全國に普及せしめねばならない。永久的なる農村振興の最良策は積極的なる增收計畫の達成以外、合理的手段なきが故に。

とはいへ、一段三石乃至八石餘の收穫は從來の耕作法そのまゝを踏襲しただけでは素より期待され得るものでは無い。それには種々の條件を要する。殊に深耕と施肥とが其の二大要件である。深耕法を一般化する爲には機械の力を應用しなければならぬが故に、個々の農家に於て其の設備を完備することは至難であり、隨つて組合又は府縣農會等の機關を活かして協力的に利用せしむるを可とすべく、それには政府の指導及必要なる保護政策が當然に發動しなければならない。其の上進んで豐富にして低廉なる電力を應用するに至らば、能率の增進期して待つべきである。農村の電化は既に露國之を計畫し、伊國も極力其の實現を激勵しつゝある。そは米作限りの要具では無く、灌漑、排水等にも利用すべく、同時に養蠶に際して蠶室の換氣と溫度及干濕、桑葉の乾燥等に宜く、又脫穀、精白、製粉等其の利用方面は極めて廣汎である。其の他養禽、畜産、水産等にも直に活用し得べきが故に、農村の電化と機械力の運用は、古來專ら太陽の動きと天與の雨水にのみ運命を託せる農家をして、新世界を發見せると殆んど同樣の效果的活路を開かしむるでもあらう——若し夫れ機械力應用の爲に人間力を輕視し、それだけ勞力過剩、失業群を增加すべしとの說は、最初の出發點に於て鎖國的錯覺に囚はるるものである。積極的に各種産業を起さば勞力の需要は增大する。産業は獨り米作のみでは無く、又國內限りの需給關係を超越せる幾多の國際的産業がある。故に産業發展と勞力消化とは必然的に因果的關係を持つ——

肥料の問題は亦特に農村に取つて切實性を有し、就中米其の他の農作物に關する限り、極めて重要なる內包的意義を含蓄しつゝある。所謂肥料管理法案の發想せられたるも之が爲であり、現消極內閣すらが肥料の配給改善を其の主要政綱として掲げてゐる。但し單に配給改善とのみにては何等具體的價値を有せず、進んで根本的なる自給策を樹つると同時に其の價格を極度に低下するにあらずんば、未だ以て問題の解決點に到達せりとはいひ能はぬ（電力及肥料等の事に就ては次章に述ぶ。參照を望む。）。

農村の機械化は、他の言葉に於て農村の科學化である。其の電氣電力に於けるも、其の肥料に於けるも、皆科學的智能の發達應用たらざるものは無い。耕耘、播種より運搬貯藏に至る迄、結局は機械力の勝利を告ぐる時代である。それが米國に見るが如く大農式なる能はずして我が國特殊の集約法を要するところに確實精緻なる實驗科學の力が働かねばならない。そして交通機關の完備である。道路港灣の改修である。金融機關の充實運用である。わけても治水事業は內務省調査に由る年々の洪水被害高平均約六千萬圓に上るの事實に徵するも、國策の一部面を占むべき重要施設であらねばならぬ。年額六千萬圓は十億圓以上の投資に價ひする事業である。

治水事業は同時に林產增殖事業である。所謂「水を治むるは山に在り」で、昔は森林國を以て目され し我が國が、近年一億圓もの木材を輸入せなければならなくなつたことは、寧ろ驚くべき不用意と無政策の暴露である。過去十五年間に於ける河川改修事業には不充分ながらも、尙ほ六億圓を支出してゐるが、此の間、造林費は僅に八千萬圓に過ぎない。これ素より官有山林のみに對しての費目ではあるが、其の至らざるや察すべきである。若し此の如き趨勢を以てして今後三十年五十年を經過せば果して何うか。或る專門研究家の說に依れば、年々二百五十萬圓を植林事業に投じて四五十年後に約五十億圓の木材を得るは確實であると言ふ。建築材料や薪炭を別としても製紙又は人造絹絲の原料にも行く〳〵少なからぬ木材を要するのみならず、一度支那の將來の需要を考ふる時（彼國が現在及近き將來に於て容易に林業施設等に着手し得ない實情を見て）五十年後の彼我需給關係と更に歐米各森林國の伐採狀況に想到せば、其の五十億圓が四五十年後に至り幾百億圓の價を呼ぶか、測り知れないのである。木曾の檜林、秋田の杉林は今日我が寶庫の一と言はれて居るが、それは當時大名の一家老が創意實行せし賜に外ならない。山國にして而かも石炭の埋藏量僅に九十億噸に止まり將來の工業動力を水力に依賴せねばならぬ日本としては、大に林業經濟を考慮する必要がある。況んや世界の大勢を見るに天然林は今後遠からずして概ね伐採され盡さる運命に在るに於て、我が國に於ける森林は伐る代りに植ゑねばならぬ。治水及林業に對する徹底的施設は、米の問題と共に、農村振興の方策として併行しなければならぬ重要事業である。

上述の如くにして米の增產方法は既に見出されつゝある。一段歩當り八石餘の收穫は尙試驗時代なりとしても、之を三石餘に增加せしむることは恐らく最早や疑問ではあるまい。假りに全國各地の肥瘦及氣候關係等を考慮し且つ漸進的改良を計るとして最少限二石五斗と見積るとも、既往五ヶ年の內地平均總產額五千九百萬石が七千五百萬石以上となるのである。隨つて現在我が內地國民が必要とする六千九百萬石の需要を滿たし、從來の輸移入を全然不必要とするに止まらず、更に六百萬石の餘剩を生じ之を海外に輸出し或は備荒貯蓄と爲し得るのである（勿論之が爲には相當の準備と經驗と歲月を要する。故に一兩年にして直ちにそれだけの增產とはならず。此の間亦人口及消費の增進をも見込まねばならぬを以て、實際には需給關係に急激の變動を惹起せない）。今日農民所得高の三割に該當すると稱せらるゝ公課は一段歩一石八斗の場合も二石五斗の場合も格別の差異なく、農家の日用品卽ち衣食住の費用も何等新たなる負擔を加へず、そして勞力は我れに於て餘りあり。唯だ肥料に若干の支出を增すとしても、そは別に之を低廉ならしむべき施設を見出し得る途がある。而して更に其の收穫を三石以上たらしむるに至つたとせば、十年後の人口增加も將た生活向上に依る消費の增進も亦敢て憂ふるに足らないのである。

前に提出せる「量」の問題——單に米のみでは無い。之を推し擴げて農產物全部に共通するところの具體的根本的產額增加策——は既に以上の說明に依り略ゝ讀者の了解を得たことゝ思ふ。

（六）米價調節策と國際商品化

次には「價」の問題である。率直にいふならば、現時農家の惱みは「量」よりも、「價」の如何に在る。豐作に歡呼することよりは、米價の下落が胸を擊つ。深刻なる恐怖と不安は、天候に禍ひさるゝ凶作よりも、寧ろ生產費を割る「價」の脅威に在る。殊に現時の消極政策のために如何に農產物の價格を下落せしめ、如何に農民の額に愁ひの皺を深く刻ましめつゝあるかは、先きの總選擧後に至り、既に判明せる事實ではないか。それ故に、若しも米の增產が、「價」の問題を考慮すること無しに計畫せられたとせば、我が國の農業家は擧つて之に反對し、或は之を呪詛するでもあらう。何となれば不用意なる米の產額增加は、價格の下落を豫告すると異らないから。國家の力に依る對米價策は、こゝに緊切なる理由を持つ。從來とても原內閣の施設にかゝる米穀管理法あれど、未だ完全なる效果を奏したとはいへず、此の數年間に於ても一石に付大正十四年には四十一圓を突破し、本年は二十六圓臺に下つたやうな狀態であり、其の騰落の開きが屢〻十圓も十五圓もの幅を示しつゝあるは、何人も熟知する所である。それで此の開きを狹め、此の幅を縮めて生產費を割らざる範圍に、同時に消費者の負擔を

重くせざる程度に、價格を安定せしむることは、國民の主食品に對して極めて當然の方策であらねばならぬ。

其の實行方法として當面的には矢張り現行米穀管理法の精神を徹底せしむる趣旨に依り、各年度の豫想收穫高を標準とし、其の過不足を推計する。そして供給不足を告ぐる場合は先づ一定の備囚貯米を以て補充し、更に不足の分は外米を輸入し、過剰と認むる場合は海外に賣り放つ。從來の如く政府の買上米を數年に亙りて徒らに貯藏する結果、其の量が必要以上に過剰を告ぐる場合は常に市場を壓迫し價格の慘落を招くを以て、此の缺點を貯藏米の海外放出に依つて排除するのである。既に上來の記述に依つて明かなるが如く、我が國內地の不足米は朝鮮及臺灣よりの移入を別にして、約二百萬石(昨四年度は百萬石に止まれど)內外なるが故に、之に相當する準備をだに用意せば足るのである。この準備以上に政府が貯藏米を死藏する必要なきのみならず、豐作の場合は何等貯藏の必要は無いのである——但し朝鮮及臺灣の作柄にも常に注意を拂ひ移入米の推定量を參酌すべきは言ふ迄もない。隨つて內地及植民地共に豐作過剰を告ぐる場合は移入米に對しても適當なる統制を行ひ、內地植民地相互間に於ける投機的競爭の爲に市價を混亂し、相互の利益を共殺するが如き弊害なからしむるを必要とする——手短かにいへば政府は作柄の豐囚を見て其の買上米を增減し、豐作過剰と認むる時は特に買上數量を增加して之を海外に輸出することゝする。

此の方法に依る時は、第一に如何なる囚年と雖も豫め準備を整へあるが故に、米價の暴騰よりする消費者への脅威を排除し得る。第二に豐作過剰より生ずる暴落を阻止し、生產者の不安を消滅せしめる。第三は國家が常に國民に必要缺くべからざるだけの米を準備してゐる。第四に國民の主食物たる米價が安定する。第五に生產者も消費者も將た地主も小作人も其の利害關係を調和され、相互間の反撥的傾向を防遏する。故に假りに此の方法を行ふがために國庫の負擔を避くる能はざるにもせよ、米價の激動に依る脅威壓迫を取除き、其の過不足より來る各種の不安と弊害とを消散又は輕減するを得ば、それは國民に取つて寧ろ安値なる負擔といはねばならぬ。

唯だこゝに疑問の眼を差向けらるべきは、上述の如き海外への輸出が果して可能なりやといふ點である。然り、此の一點こそは啻に如上の計畫の成敗如何に關するのみならず、實は我が國將來の米作問題に對し、大なる謎を投げ懸けるものである。若しも米の輸出が絕對不可能なりとせば、一定限度を超ゆる米の增產は寧ろ禁物となり、一段十石を理想とする富民協會の努力も、內地及朝鮮に於ける耕作地の開拓も却つて手加減を要するに至るやも知れない。何となれば過度の增產は勢ひ價格の暴落を招き、遂に生產費を割るに至る虞れあるが故に。併しながら、現に外米が立派なる國際的商品とし

て我が國に輸入されつゝある如く、米は世界的需要品の一つである。我が國民の多くは內地米の不足と古來の嗜好に執着せる結果、全然輸出不可能かの如く考へつゝあるに似たりと雖も、明治の中葉に至る迄の日本は既記の如く米の輸入國にあらずして、却つて輸出國でありたる事實を今一たび其の記憶より喚起せなければならぬ。統計に徵するに現時米の生產地としては蘭貢、暹羅、西貢、支那、日本、瓜哇、比律賓等を主なるものとし、他には米國、ブラジル、伊太利、西班牙等にも少許の產額がある。然るに是等各國を通じて米の輸出國はビルマ、暹羅、印度支那の三國に過ぎないのであつて他は悉く輸入國である——局部的には各國共若干の輸出入があり、就中米國は約百萬石內外の輸出超過であるが——それで試みに上記三國の輸出量及其の仕向先きを見るに左表の如し。

世界各地に於ける米の輸出入概況（單位千噸、昭和四年度）

輸入地	輸出國別 蘭貢	暹羅	西貢	合計
歐洲	七三	二九	二八七	一、〇四八
米洲	一〇八	七二	二四	二〇四
支那	一〇七	三四三	五四四	九九四
日本	九一	一〇四	四九	二四四
瓜哇	二二五	九一	一九五	四七一
印度	一、三三六	—	四九	一、三八五
其他	三四三	五一四	一〇八	九六五
計	二、九四二	一、一五四	一、三五六	五、三五二

乃ち、米は單に亞細亞民族のみならず、歐米に在りても既に相當の需要を有する國際的生產物であり、而かも米の主產地たる亞細亞諸國中に於て輸出力を有するは唯だ緬甸（蘭貢）、暹羅及安南（西貢）三國に止まり、他は四億の人口を擁する支那も、三億の民族を包容する印度も皆輸入國であり、南洋海上に浮ぶ瓜哇ですら日本よりも遙に多くの供給を他國に仰いでゐるのである。

一層通俗的にいふならば今日の國際的貿易品としての米は上記三國より五百三十五萬噸（假りに一噸六石として換算せば三千二百萬石餘）を世界各國に輸出して居り、其の中歐洲が百萬噸餘（約六百萬石）を需要し、印度は約百四十萬噸（八百四十萬石）、支那も亦約百萬噸（六百萬石）を輸入してゐるのである。この事實よりいへば日本の如きは寧ろ少額の外米需要者として見らるゝ程の觀を呈し、隨つて今後假りに我が國に於て既述の米穀調節法に依り二百萬石程度の餘剩米を海外に放出する場合あ

りとしても、現に三千萬石以上を消費しつゝある世界は、其の一割にも達せざる端米の爲に決して消化不能を訴ふるが如き虞れは無いのである。就中我が近域には支那があり、近年國内の騒亂と彼れが國民生活の向上に伴ひ益〻米の不足を告ぐる實情に在るを以て、將來我が國の産米高が增進し、恒久的輸出國の地位に轉ずればとて、其の對策だに宜しきを得るに於ては、敢て消費者なきを危惧するにも及ばないのである。

但し此の場合特に注意を逸し能はざるは其の價格である。米が既に國際商品として取扱はるゝからには其の價格も亦當然國際市場の標準に順應せなければならない。現在我が内地産米質は祖先以來國民の嗜好に慣れ、且つ供給不足の狀態に在るが故に未だ他邦の波動を被らざる觀を呈すれど、上述の私案に依り我が過剰米を處分せんとするに方りては勢ひ國際市場の相場を無視することは出來ない。國庫の負擔は卽ち内地相場と國際相場との差額を意味するのであつて、假りに内地米時價一石二十七圓とし、今日之を輸出せんとするに於ては外米時價十八圓と見て其の差額は九圓である。しかし我が内地米は蘭貢米に比して常に二圓内外の高値を呼び、それだけ實質の優良なるを國際的に認識されつつあるを以て、實際の値開きは一石七圓以下に止まるべく、隨つて百萬石に付き六百萬圓以内の差損を生ずる譯である——現在平年には不足を告げつゝある我が内地米が、たとへ何程の豐作に惠まれたりとしても、所謂過剰米の殘高は寧ろ知れたものである。決して數百萬石に上るが如き奇蹟的大豐作に逢着すとは想定され能はぬ——此の差損は甚だ不利に相違なしと雖も、之に依つて米價が安定し、生産及消費の兩者が共に頭上の壓迫を取除かれ得とせば、それは毫も無意義の損失たらざるのみならず、國民經濟の全局より見て其の效果は至大なりと思ふ。これ余輩が現時の米穀管理法を改正し、その運用を徹底的ならしむることの必要を唱ふる所以である。

以上は主として當面の問題たる對米價調節策について所見を陳べたのであるが、繇つて前段に說きたる量の問題、卽ち米作法の改良に依り、一段歩當りの收穫を增加し、二石五斗以上三石、四石乃至八石にも上るが如き時代に到達せば何うか。それは全然別個の問題であり、隨つてその對策も亦當然に轉換されなければならぬことは言ふまでも無い。此の場合に於ける米は最早や内地需要を對策とする生産物たるに止まらずして一大輸出品となり、國際的商品として評價される。其の結果若しも蘭貢及西貢米との競爭に不利なる時は我が國の農家は自動的に耕地の利用法を變ふると同時に、政府も亦適度の生産調節を行ふべく指導せねばならぬ。しかし今日吾々が直面しつゝある眼前の問題は米の不足を豫想しての方策である。故に玆には現狀に卽して量と價との兩面から當面の對應策を略述したのである。

（七）斯くて農村は甦へる

上來吾々は我が農村及農作物問題に關する代表的命題として專ら米の事を論じたが、其處には單に米の問題とは限らず、一般農業家の將來に對して相當重要なる指針を見出され得ることゝ思ふ。それは所謂農村問題の根本的解決策が結局は科學的、經濟的なる進取的施設に基きて積極的に生産增加を計る以外に方法なきと同時に、我が內地米も亦他の農作物、卽ち小麥や大豆の如く驀ては國際化さるべき趨勢に向つてゐるといふ事である。

この二つの觀點を如何に理解し、此の趨勢に對して如何に善處するか、究竟ずる所、農村振興策の認識價値は其の理解と對應策の妥當なるや否やに在る。之を見忘れたる一切の論議、之を考慮の中に置かざる總ての方策、それは大局に目醒めざる迂見にあらずんば、一種の口頭禪に過ぎない。科學的經濟的なる施設としては例へば低廉なる肥料の供給、農業の電化、機械化、農具及農作法の改良を要求する。又國際商品化の途上に在る農作物は極度の集約法に由る多量生産を必要とし、而して其の價格を國際的水準線にまで持ち來さしむることを豫想的條件たらしめる。幸ひに我が國の農業家が之を早きに自覺するならば、そして思慮ある爲政者が國家の力を善用して此の機運を有利に開導し助成するならば、現に行き詰れる我が國の農村は其處に澄澈たる光明面を展開するを疑はない。

或は言ふでもあらう、斯くの如き積極的方策に依り徒らに多量生産を促すに於ては、さらでだに供給過剩を告ぐる農作物の價格を益〻低下せしめ、却つて農家を苦しむるに至らずやと。此の種の見解は屢〻消極主義者の口より唱へらるゝ說であるが、しかしそれは啻に經濟の通則を無視するのみならず、現に食料輸入國たる我が國の實情に眼を閉づる局少見である（米國の小麥及棉花等が生産過剩の爲に低落せるは事實なれども、彼れは元來が農産物の輸出國であつて、我が國の如く米、麥、豆等食料品の不足に惱む輸入國とは異ることを見忘れてはならぬ）。既に前にも言へる通り再び米の問題に依つて例示するならば、假りに一段步當り二石未滿の米を四石に增すとせよ、一石二十七圓の時價を引き下げて二十圓ならしむるとしても尙農家の所得は一段步に付五十四圓對八十圓の比差を生じ二十六圓の利益を增すではないか。此の場合肥料代其の他若干の費用增加を免れざるにもせよ、公課其の他の諸係りは同一であり、且つ藺貢及西貢等の外米とも對抗し得ることになる——又假りに我が內地米一石の價格を三十五圓と見積りても一段二石當りの所得は七十圓である。然るに四石の收穫を見るに至らば、一石二十圓としても一段步當り八十圓を得るのである。因に大正十二年以來の外米平均價格は本邦受渡し相場十九圓內外の指數を示してゐる。但し日本米の國際市價は外米と比較して二圓高

なること既記の如し――勿論こゝに例示する所は假定的數字であり、實際的には吾々と雖も無限的又は無軌道的に多量生産を主張するのでは無い。世界各國の需要にも自然的制限があり、我が國としては寧ろ内地國民の需給を圓滑にし輸移入を防遏する程度を以て最も有利と考へる。

且つ夫れ科學的及經濟的方法に依り假りに或種の農作物が過剰を告ぐる場合に立至るとせば、土地利用方法を轉換して他の農作物を生産し得るの利益を忘却してはならない。例へば米の代りに小麥を作るも可、豆を植ゆるも可、粟、玉黍蜀等々々に轉ずるも可。水田を變じて畝と爲すことは今日の科學的設備を以てして特殊的地域以外敢て至難とはせないのである。故に一段歩當りの米の收穫が將來四石乃至十石ともなりて需給の飽和點を超え價格の激落を招くが如き形勢に逢着したとせば、米田を變じてヨリ有利なる作物と取換へる。此の理は米以外の他の農産物に於ても同樣であつて、其の實例は古來の茶、麻、棉花を廢して桑園に改めたる農家が夙に自ら經驗してゐることである。之を別の語に移すならば米にせよ、麥にせよ、桑にせよ、他の果實蔬菜類等にせよ、一單位當りの收穫を增加すればする程、土地に餘剰を生じ他方面の利用價値を廣からしめる。從來約六千萬石の米を收穫する爲に假りに三百萬町歩の耕地面積を要したりとせば、其の一單位當りの收穫を倍加したる場合は前者の一半卽ち百五十萬町を以てして同一の産額を擧げ、他の一半はヨリ以上の增收又は別の生産に振向け得るのである。更にそれが四倍乃至五倍して八石乃至十石の收穫を得るに至らば、それだけ我が國の領土が擴張して肥沃なる耕地を增加したると同一の效果を發生する。國土狹隘人口稠密にして一戸平均一町歩以内の耕地しか持ち得ざる我が農家としては、斯くして其の利用價値を增進せしむることに依り、如何に國民生活を多幸ならしめ能ふかは最早や絮說を俟たずして分明と信ずる。

事新らしく繰り返すまでもなく、我が國は主食料たる米の外、昭和三年の貿易は小麥、砂糖及豆類の爲に各〻六七千萬圓にも上る代價を海外に支拂つてゐる。又高粱に約四百萬圓、玉蜀黍に約三百萬圓、採油用種子には二千萬圓、麻に一千四百萬圓等々々、實に巨額の輸入を餘儀なくされてゐる。これ國家經濟上、決して米に劣らざる重要問題であらねばならぬ。然も麥、豆、玉蜀黍の如きは我れに耕地の餘裕だに生ずれば寧ろ容易に生産せらるゝものであり、又若しも我が内地米の增産計畫が實現し、將來植民地よりの移入を不必要とする時機至れば、臺灣に在つては益〻砂糖の增産を圖るべく、朝鮮に於ても麥、豆等は勿論、現に彼れが滿洲より輸入しつゝある粟、高粱等を自給し、或は他の農産物と取換へ得るのである。要するに根本の要件は生産增加である。農村の振興も、國民經濟の充實も、食料の自給、輸入の防遏も、國際貸借の改善も、事の農業に關するに限り、極度の集約法に依る多量生産を措きて別の工夫はあり得ない。而かも之が爲には農業の科學化及經濟化を要求すると同時

に、國家として適切なる積極的施設を講じなければならない。併しながら國家の施設は産業爲本主義に立脚する國策の確立を前提とする。明快確乎たる方策なくして區々の小計に耽り、局部的彌縫に沒頭するが如くんば、斷じて妥當且つ有意義なる徹底的手段は見出され能はぬからである。

說いて玆に來れば、世人又或は如上の方策を遂行するに方り驚くべき多大の經費を必要とせざるかを懸念するかも知れない。されど差當つては集約的生産增加の要素たる肥料を安價に供給すること、農作法の改良に伴ふ機械及電力の普及が其の直接的主目であり、實際は何程の費用を投ずるには及ばないのである（肥料、電力等の事は次章に述べる。）。假りに之が爲に二億乃至三億の資金を要すとしても、國家經濟上に持ち來すところの利益は之に數倍する。例へば現在年産約六千萬石の米が單に一割卽ち六百萬石を增すと見ても一石二十七圓當に計算して一億六千二百萬圓の增收となり、二割の生産を增すに於ては三億二千萬圓以上の利益を國家經濟に齎らすのである。更に河川改修、耕地整理、用排水工事等の爲に國庫より約十億圓を支出する事に依り、毎年三億圓の增收を得る計數も又立派に成立する。米の生産過剩を避くる爲め之を麥、豆等の增産に振向けたる場合も結果に於ては同一の理であり、輸入防遏又は輸出增進の形に於て生産增加に基く所得額は當然國民經濟を潤すに相違ない。故に國家としては毫も此の種の生産的投資を惜むべき理由なきのみならず、農村振興の根本策は這般の積極的計畫に依つてのみ實現化し得るのである。而して他面治水、開墾、道路、交通運輸機關等を整備し、資金の運用を圓滑ならしめ、組合の發達を促進する等、それ〴〵適當なる施設を講ずるに於ては啻に農業に限らず各般の産業も同時に勃興する。斯くして初めて農村は甦へり、國民經濟は如實に建直され能ふのであつて、因循姑息なる他の如何なる手段を以てしても、確乎たる國策の樹立と其の發動とに由らざる其の日暮しの小策は寧ろ無價値に墮する。

尙農村繁榮策として齊しく考究を缺くべからざるは農家の副業である。昔は養蠶及紡織を以て主なる副業とせられたが、今日養蠶は副業以上の重要蠶業であり、紡織も亦夙に工場化機械化の時代に入り一般の副業たる範圍を超えてゐる（此の事第十一章に記述す。）。現に實行せらるゝ眞田、麥稈、カマス等の小手工業の如き、或は家畜、養魚等の如き、何れも更に大に奬勵せらるべきものであり、曩に大正十四年より昭和二年に亙り鷄卵の輸入額三千數百萬圓に上るに及び、農林省は國立種鷄所を設置し、養鷄の奬勵と品種の改良を促進したる結果、兩三年にして早くも輸入を擊退し却つて輸出國たらんとする趨勢に一變せる程に副業の價値は重要である。故に此の方面の調査と指導とは爲政者として特に努力を怠つてはならない。又北海道より東北及北陸地方に亙る寒地の國民は南國と比較して農産物に惠まるゝこと薄きが上に、冬季四五ヶ月間手を空しくして坐食の狀態に在るものが多い。是等の人々の爲に適當

の副業を見出すことは勞力經濟上極めて緊切なる要務であり、例へば時計其の他小機械の部分品の如き、レース及刺繍類の如き、或は進んで電光、電熱及電力を利用して副業的家内工業を起さしむるが如き、政府及町村産業組合等に於て然るべく考案協力すべきである。

本章は我が國農業の代表的命題として米に關する問題に稍〻多くの言を費したる關係上、他の農作物及林業問題等につき詳述の遑なきに至つたが、無論賢明なる讀者は既に農村振興策の如何に在るべきかを十二分に理解され得たるを疑はない。

曾て聞く、英佛海峽の一孤島たるゲルンゼーは其の耕地面積僅に我が四千町歩、人口四萬五千人に過ぎざるに拘はらず、馬鈴薯蔬菜等の純農作物に由る輸出額は實に年額一千百萬圓に上り、一段歩當りの輸出二百七十五圓を下らずと稱せられてゐる。加之四萬五千の人口を以て牛馬及羊を飼育すること一萬頭、之に依つて得る所の收益も亦甚だ少額ではない。而かも同島の土壤は岩石の破片より成り地誌上極めて不良なるを記錄されてゐるのであるが、住民の奮勵努力と耕作法の改良殊に深耕及施肥に精慮を盡し、三十年前に比すれば其の農産物に約九倍の收穫を增加するに至つたとのことである。勿論其の近域に英佛の如き大需要地あるに由ると雖も、之を以て我が國の農業と對照せば果して如何の感を與へるであらうか。我が一段歩當りの生産高は既述の如く一切の農産物を合計して（繭其の他綠肥用作物までも網羅して）漸く五十五圓乃至六十圓に過ぎざるに對し、彼れは單に輸出額のみにても二百七十五圓に上つてゐるのである。假りに此の輸出額を以て彼れが生産高の全部と見做すとも、尙我れに比して約五倍の收穫を擧げてゐるではないか。他が行ふ所、我れに於て不可能なる理なし、其處に科學的及經濟的なる改良進歩の餘地あることを證據立てゝゐるのである。これ吾々が積極主義を基調とする國策の確立を提唱し、依つて以て農村振興、産業發展の根本的要件と爲す所以に外ならない。

第十章　工業發展策

(一)　國民生活と工業

我が國民生活の現狀より見たる農業の重大性は前に述べた通りであるが、眼を轉じて之を產業國策の全局、殊に國際經濟の上より大觀すれば、我が工業の占むべき地位、與へられつゝある役割の重要さは、毫も農業に遜らないのみならず、其處には農業に期待すると同樣、若しくはヨリ以上の働きと發展とを、將來の工業に求めざるべからざる極めて切實なる理由が認識される。

今日我が國貿易上に於ける輸出の大宗が生絲であり綿製品であることは、小學の兒童も知悉する所であるが、同時に輸入品の主なるものに鐵あり油あり機械あり肥料あり、其の他各種の工業製造品を合し、毎年少くとも七八億圓の巨額を海外に支拂つてゐると云ふ事實を無關心に看過するものはあるまい。隨つて我が國の工業を振興し發展せしむることのそれ自體が卽ち輸出增進策であると共に、最も適切なる輸入防遏策に外ならないのである。所謂國際貸借の改善といふも、其の最大要件は貿易の好轉と隆昌に依るの外は無いのであり、國富の增進、國力の充實も、語を變ずれば產業の繁榮を意味し、產業の繁榮は特に工業能力の働きに待たねばならない。故に世界各國を見渡して其の國民生活の裕かなるは農業と共に工業の振興に努力する國である(鑛業、林業、水產業等も無論同樣だが)。就中農工何れが國際的重要性を有するかといへば、概括的には工業に屬するものが寧ろ多く、文化程度の高低遲速も其の國の工業狀態如何に依つてトせられる程である。

又之を人口問題の上よりいふも、其の收容力及消化力の强靭なる點に於て如何なる產業も工業に優るものは稀である。普通に考へらるゝ農業を始め林業、鑛山業等の如きは何れも相當の地域を要し、生產過程上、時間空間の制限を受くることに於て、工業の自由性多きに及ばない。精密には工業と雖も地質及水質等と深き關係を有するもの少しとせざれど、一般的には交通運輸の便を缺かざる限り、小面積を以てして多數の人口を收容消化し得る彈力を持つてゐる。隨つて將來に於ける人口問題解決策は必ずしも所謂歸農政策に見出すべからずして、ヨリ多くを工業の發展に期待すべきである。左表は卽ち此の事實を物語る一證である。

主要列國民の職業別　(百分比にて示す)

國別	工業及鑛業	農林及水產業	商業及交通業	公務及自由業	其の他
英蘭	四七・二	六・八	二〇・九	一〇・九	一四・二

米國	三三・四	二六・三	一七・六	七・〇	一五・七
獨逸	四一・三	三〇・五	一六・四	六・五	五・三
佛國	二九・九	四一・五	一六・六	八・一	三・九
伊國	二四・六	五六・一	一〇・四	六・五	二・四
白耳義	四六・五	一九・一	一八・五	九・一	七・〇
瑞西	四四・四	二五・九	一六・六	六・七	六・四
丁抹	二七・〇	三四・八	一六・七	七・〇	一四・五
和蘭	三七・八	二三・六	二一・三	八・二	九・一
加奈陀	二八・五	三五・〇	二〇・八	九・〇	六・七
濠洲	三四・一	二二・九	二四・三	七・三	一〇・一
日本	二一・四	五四・八	一六・一	六・一	一・六

日、米、白、瑞、和は一九二〇年、獨逸は一九二五年、他の各國は一九二一年の調査（國際聯盟統計年鑑より）。

先に記せる如く現に世界に於て、日本と共に、其の人口密度の高き國に英國、獨逸、白耳義及和蘭等がある（第二章參照）。然るに其の英にせよ、獨にせよ、將た白、和等にせよ、何れも全く人口の最多數を占むるものは、右表に示すが如く工鑛業者であつて農林業者では無い。英の如きは全國民の四七・二％までが工鑛業であり、之に次ぐは商業及交通業の二〇・九％であつて、農林及水産業に生活するものは僅々六・八％しか無い。又統計上世界最高の人口密度を有する白耳義は工鑛業者が總人口の四六・五％を占めて居り、之に次ぐ和蘭の如きも亦三七・八％までが工鑛業者である。獨逸の農業は頗る盛んであるが、それでも工鑛業者が多數であり、農業の模範國と稱せらるゝ丁抹の如きすら、實際には農業の三四％に對して工鑛業が二七％を示してゐる。又加奈陀の如き農産物の豐かなる植民地に於ても、農と工との割合が大いに我が國の現狀と異るものあるは前表に徵して推知し得やう。

勿論工業國と雖も屢〻失業問題の起ることがあり、現に英國にも米國にも同樣の問題が朝野政治家の頭腦を痛ましめつゝある。併しながら是等の各國に於ける失業問題は其の本質的意味に於て我が國の人口問題とは趣きを異にする。それは産業經濟界の不況の爲に勞力の需要が減退し、延ゐて失業群を續出するに至つたのであつて、必ずしも人口過剩の結果ではない。殊に米國の如きは今日尙ほ一方粁の平均人口僅に十三人に過ぎずして、我が國に比すれば十倍以上の收容力を有する餘裕を持つてゐるのであるから、彼國に於ける失業問題を以て我が國の人口問題と同一視するは全然當らない。換言するに我が國の人口問題こそは最も切實なる勞力過剩の事實を反映するものであり、それは他國に見

るが如き一時的現象でなくて、耕さんと欲するも耕すべき土地を持たず、働かんと欲すれども働くべき場所を見出し難き生存上の絶對問題化しつゝある。然るに工業國に在つては失業問題あれども人口過剰問題は殆んど之を耳にせず、否、之を耳にするも決して我が國の如く深刻では無い。これ卽ち工業に依る人口消化力が强靭なる彈力を有するが故であり、隨つて國家の政策だに宜しきを得るに於ては寧ろ多々益〻之を辨じ能ふことを疑はない。

既にいへる如く、白耳義は其の面積日本の約十三分の一に過ぎざるに拘はらず、能く稠密なる人口を消化して富裕を世界に誇り得るは何故か。又瑞西の如き山間溪谷より成る小地域の國家を以てして立派に獨立自主の權威を保ち得る最大の理由は何か。言ふまでもなく工業の力ではないか。獨逸が平均約二十億金麻てふ巨額の賠償金を年々に負擔しつゝ國勢復興の迅速なること、却つて戰勝國を凌駕する程の觀あるも、亦其の一半は工業の力に由るものである。上記列國中、日本の狀態に匹似するは伊太利であるが、それだけに同國の國民經濟は甚だ安泰ならず、隨つて鄕土を後にして海外に移住するもの頗る多かりしは夙に世の知る所である——但し近年に於ける伊太利がムッソリニの勇斷政策に依り、急轉步の工業化に邁進しつゝあるは刮目に價ひする——

かくいへばとて吾々は固より農業を輕視するにもあらざれば、之を產業國策上の第二位に置きて可なりとするのでも無い。農產は概ね食料品を以て主とする。食料は國民一日も缺くべからざる生活必需品たる關係に於て、農は國の本なりといふ語は、平凡陳套なれども永久の眞理である。今日世界各國が頻りに農業を奬勵し、米國の如く自然の天惠に饒かなる地に在つてすら、農業に對する保護政策を執りつゝあるは、決して單なる流行性現象とは思はれない。併しながら各國の農業政策を通觀するに、例へば米國の棉花、同國及加奈陀の小麥等の如き特殊の例を除き、他は概ね先づ其の目的を自給自足に置く。そは歐洲大戰當時に於ける辛き體驗に刺戟されての自覺的又は反動的趨勢とも推せられるが、別の見解よりいへば、風土地味に適する特殊の天產以外、農作物の總てをして工業生產品の如く國際商品化するに不便なるが爲であり、海外に供給するに先ちて自國の需要を滿たすを急務とするが故でもある。別言せば南北兩米の如く肥沃なる處女地を持つか、又は露西亞の如く廣大なる面積を有する場合の外、自國の國民を養つて尙ほ多大の輸出力を剩す程に豐富なる農作物の收穫はなか〳〵に望まれ難い。それよりは工業生產の國際商品化に依つて國を富ますと同時に、國內の過剰人口又は過剰勞力を活用し消化するを有利とするが故である。

世人往々資本少くして而かも生產の豐富確實なる產業は農に如かずといふ。舊き手工業本位の時代に於ては此の言にも一理ありとせられたが、動力の應用、器械工業の時代となつては寧ろ反對の結論

に到達する。土地及勞力の利用價値より見て、地價極めて低き國は別とし、農業は如何に集約に集約を以てしても工業生産力の著大なるには及ばない。少くとも日本の如き地價高き國柄に在つては、極度に農業の經濟化を圖るにあらざれば採算至難であり、我が農村疲弊の主なる一因は其處に在る——現時我が國に於ける土地の純收益は公課其の他諸係りを除けば資本に對し約三分に過ぎずして郵便貯金の利子よりも尙低い。然るに勸業及農工銀行等の貸附利率は最低七分であり、此の一事に徵するも主として土地を財産とする農村の不利は想像せられ得る——それ故に農村の將來は極力農業の經濟化に努力する必要があり、農業の經濟化とは卽ち既述の如く之を科學化し器械化することである。而して其の科學化、器械化を別の言葉に置き換ふれば、それは『農業の工業化』に外ならない。卽ち將來の農業は電力其の他の新武器を利用し、能ふ限り工業的設備と工業的技術とを取入れることに依つて、その發達繁榮を促さねばならないのである。

故に我が國今後の産業は民族自存の根本國策より云ふも、或は人口、貿易、その他あらゆる方面より考察するも、工業及工業的知識の普及と其の發展と高度化を促進せなければならない。國家の富と國民の生活環境が如何に在るかは、工業人口の多寡を標準として判別せらるゝ程に、工業國策は顯著なる重要性を持つ。

(二)　我が國工業の一般的價値

一口に工業といつても其の種類は多い。紡織工業、金屬工業、機械工業、造船工業、化學工業等々々、その範圍は頗る廣いのである。で、我が國の工業が如何なる現狀に在るかを知る爲め左表を一覽に供する。

我が國の工場統計（使用職工五人以上——昭和二年度）

種別	工場數	從業者	生産額
紡織工業	一八、九三四	一、〇五五千人	二、六七六百萬円
金屬工業	三、五〇〇	一三三	四六七
機械器具	四、五〇四	二八三	五二八
窯業	二、六四四	七二	一九二
化學工業	二、七〇一	一三七	八四八
製材及木製	三、九三五	六二	一八七
印刷及製本	二、三三九	六三	一九二

食料品工業	一〇、三四四	一九〇	二六〇	
瓦斯及電氣	四一四	二	一、一三三	
其の他	四、三六五	九六	一四九	
合計	五三、六八〇	二、〇九四	五二八	六、九四七

右は工場工業のみに關する數字を擧げたのであるが、この他に上表に加はらざる工場以外の家内工業もある。全體としての我が工業人口は前に掲げし通り一千八十六萬、内男子約五百七十萬、女子約五百十七萬人である――其の中、本業者のみに就ていへば男三百七十九萬、女一百四十八萬、計五百二十七萬人である――故に若し我が國の全工業をして英國や白耳義の程度にまで發達せしむとせば、既記農工兩者の比より見て尙此の上少くとも一千五百萬人近くの人口を工業方面に吸收し得ることになる。

假りに現在の一千八十六萬人の上に、新たに一千五百萬人を加へたる合計二千六百萬近くの國民が、我が國工業の振興に依つて生活の資を獲得するに至つたとせば、今日朝野識者の頭を惱ましつゝある所謂人口過剩問題は如何に在るべきか。又刻下の失業問題や、學校卒業生の就職難問題は何うあらうか。それは單なる机上の想像に依つて、獨り善がりの痛快味を貪るが爲に之を持ち出すのでは無い。一年二萬人にも足らざる移民、而かも歸國者を差引けば僅々五千人未滿の人口を海外に送るが爲に至大の努力と奬勵とを要し、或は國際關係上種々の問題を起しつゝある他の一方に於て、一千五百萬人にも上る人口消化策が、我が内地に取り殘されてゐるとしたならば、何人か之を以て賢明なりと稱し得やうか。又何人か之を以て爲政者たるの任務職能を盡しつゝありと認め能ふか。其處に産業國策上の重大性が認識されねばならぬのである。

更に前表の工場統計に據つて明かなる通り、我が國に於ける工場工業は二百九萬人の從業者を働かすことに依り、六十九億四千七百萬圓の生産高を昭和二年に示して居り、大正十四年には七十億二千八百萬圓、昭和元年には七十一億五千五百萬圓を同じく二百四萬乃至二百七萬人の從業者に依つて生産してゐるのである。當局の調査計數に隨へば此の數年間に於て從業員五人以上を使用する一工場當りの平均生産額は約十三萬圓であり、其の一職工當り生産は約三千四百圓となつてゐる。勿論此の生産高中には多額の原料費を含むのみならず、工場機械設備等に要する資本配當及借入金の利子償却等を要するものあるが故に、之を以て直ちに農業に依る總生産額三十二億五千萬圓と同一視することは出來ない。併しながら、假りに工場工業の總生産額平均約七十億圓の一割二分を勞銀として推算するも、其の從業者約二百萬人に對する一人當りの所得は四百二十圓となり、男女各半數家族三人とし一

戸五人の收入は八百四十圓であつて、等しく五人の家族より成る農家一戸の平均所得六百五十圓よりも多く、又農に從事する本業者一人當りの所得約百三十圓に比すれば、二割强の增收となるのである——加之工場勞働者の中には家族を支持せざる單獨生活者たる約半數の女工を含み其の上彼等の多くは寄宿舍生活なるが故に——彼比對照し來れば其の勞銀關係に於て、農に薄くして工の優れるは多語を要せずして知るべきである。

斯くの如く工場生產額が假令輸入品たる棉花、又は內地產蠶繭等の如き原料代の多くを含むにもせよ、僅に二百數萬人の從業者を以てして、農業總生產額に倍する產額を示しつゝあることは、之に關聯する商業等の間接利益及先きに述ぶる勞銀の比較よりするも、工業經濟の甚だ有利なるを立證する點に於て最早や何等疑ひなき事實である。それにも拘はらず、農に衣食する人口數は其の生產高に逆比例して二千七百萬人に上るに對し、工は工場從業員及其の他の全部を合するも尙一千百萬人にも達しないのである。假りに兩者の統計調査に難易の差ありて農作物の計數に多少の脫漏あるにもせよ、又一方は生活程度低き農村生活者にして他は概ね都會地若くは都會風の生活環境に置かれてあるにもせよ、其の所得に於て二割强の差は可なりに大きな懸隔といはねばならない。

觀點を易ふれば、それは農業經營の尙ほ原始的狀態を脫し能はざる事實を物語るものであり、工產に比すれば、交換價値の低きを物語るものである。それだけに又農業人口の過多を證據立つると同時に、工業人口の收容及消化力に富めることを推知し得るのみならず、今後の農業經營を改善して之を科學化、經濟化すべき急務を痛感せしめる。

然れども我が國現時の工業を以て、既に假りにも滿足すべき程度に在るが如く解するものあらば、それこそ由々しき謬見である。否、我が國の工業は甚だ遺憾ながら未だ幼稚の域を脫し能はざる地位に在ることを自認せねばならない。農業に比すればこそ稍〻優れりとしても、それは單なる國內限りの比較である。又其の一人當りの所得とても、農業に對照すれば有利なりといふだけのことに過ぎない。我が國工業が國際的に占め得べき地位、その世界的價値如何は無論別問題であり、眞實には全然今後の發展如何に懸つてゐる。隨つて國家經濟上に於ける對工業策如何てふ問題に關しては、更に廣き觀點より考究されねばならない。

だが是等の問題に對する總括的解答は、苟くも常識を失はざる限り、寧ろ簡單に與へられ得るのである。何となれば、それは我が國の貿易表を一目する事に依り直ちに判明するからである（前項及第四章參照）。卽ち生絲及綿絲綿製品の二つを除く外、近世的機械工業方面の生產に屬する殆んど總てのものが輸入超過であり、偶〻輸出するものも尙甚だ少きに徵して如何に我が工業能力が國際的に弱く、國內的に

も不完成未發達の道程にあるかを推知し能ふと同時に、其の輸出に弱きは將來大に成長進出の餘地あるを示すものであり、未發達の道程を歩んでゐることは、更に大に改良伸展の可能性多きを物語つてゐるのである。

疑ふものは少しく米國の工業狀況を見るがいゝ。彼れが工場生産額は一九二五年の調査集計に於て一千二百五十億圓を超え、我が七十億に比すれば約二十倍に近い。其の中、各種機械工業の生産が百億圓を越えて居り、又彼れが化學工業は年額百三十億圓を製出して居る。其の他織物の百八十億圓といひ、鐵及鋼の百三十億圓等其の何れを見ても、殆んど我れに較べて十倍乃至二十倍せざるものは無い。又例へば機械工業中の一項目たる電氣機械類を見ても、米國の生産額は約三十億圓なるに對し、我れは漸く一億五千萬圓程度に過ぎない——獨逸は十億圓、英國は約七億圓——凡そ機械工業及化學工業の如きは必ずしも原料の有無或は其の價格に左右せらるゝ産業にあらずして、主として動力、技術及設備の問題である。技術は教育と熟練の生むところにして我が國民の寧ろ自信に富める事業であり、設備は相當の放資に依つて整へられ得るのみならず、是れ又我れに於て必ずしも難しとせないのである。況んや工業に最も必要なる水動力は他國に優りて豐富である事は誰も知る處である。然らば何が故に彼れが行ふ所に比し、我が國の後るゝこと斯くも甚だしきや。誰れか米國の繁榮を以て神の業なりといふや。假りに米國を別としても英國は如何、獨逸は如何、將た日本よりも遙に小國なる白耳義、瑞西等は如何。又その英國や白耳義が日本よりも人口密度の多きに拘はらず、機械生産の增加に由る勞力過剩を我が國の如く甚だしく悲觀せざる事實を正視せよ。工業政策に力づけらるゝ人口問題の解決について其處に活ける教訓を見出し得る筈である。

詮じ來れば我れに確乎たる工業國策の無いことが大なる弱點である。そは農業に對すると同樣、産業立國主義の國是が未だ具體的實際的に行はれてゐないが爲の缺陷では無いか。それは又政治の經濟化に切念せず、紛々として眼前區々の問題に其の日暮しの政治を行ひ、且つ之を傍觀し或は無關心に經過しつゝある國民それ自らの招く所では無いか。所謂人口過剩も、不景氣問題も、經濟國難も、其の由て來る所は皆産業國策なきの一事に在るのみ。

(三)　原料及資金問題

時人、口を開けば忽ち言ふ、我が國は資源貧弱にして原料に乏しく、工業の基礎たるべき鐵も無ければ、燃料も豐富ならざるを如何せんと。其の語、必ずしも誤らず。併しながら我が國の資源は果して論者の悲觀するが如く殆んど皆無なりや。既に其の乏しき資源を開發し盡して最早や餘地を殘さゞ

るや。又其の鐵にせよ、燃料にせよ、將た他の原料等にせよ、之を他國に求むる能はざる理由、若くは之を求むるとも國際的經濟戰に打ち勝ち難き關係に在りや。

こゝに直言する。吾々は其の何れをも無條件的には肯定する能はずと。

假りに我が國に資源なく原料なしとせよ、然も我れに智能の働きと豐富なる勞力だにあらば、何等悲觀するには當らない筈である。少くとも、事の工業に關する限り、原料の有無多少は決して絶對的の問題では無いのである。

例へば棉花を見よ、我が國產は既に跡を絶ちて殆んど其の全部を海外よりの供給に仰ぎつゝあるにも關はらず、我れは自國の需要を滿たして尙每年四億圓內外の綿製品を列國との競爭に打ち勝ちて海外に輸出してゐるではないか。英國の如きは七億圓の棉花を輸入して十四億圓の商品化し、原料價格に倍加する收入を外國より受取つてゐるではないか。獨り棉丈けではない、毛織物も又同樣の立場に在る。

又例へば鐵を見よ。現今世界に於て其の原料たる鑛石の輸出超過國は佛國と瑞典の二箇國あるのみにして他は悉く輸入超過である。世界第一の鐵生產國たる米國すらが、百五十萬佛噸內外の原料を外國より輸入して需要を滿たして居り、獨逸の如きはアルサス・ローレンを失ひたる結果、需要高の三分の二、一千百三十萬佛噸以上を外國に購ひ、而して之を各種の製品化し海外に販賣してゐるのである（一九二五年度の調査）——獨逸は戰後石炭までも奪はれたる爲め、大に褐炭を活用して工業能力を發揮しつゝある。此の點に於て我が國の石炭が現時尙ほ自給自足的狀態に在るのみならず、別に大量の水力を惠まれつゝあるは寧ろ有利としなければならぬ程である——更に必要に迫らるれば石炭は支那より補充の途もある。

かく實例につきて一考すれば直ちに理解し得らるゝが如く、原料品の輸入は必ずしも憂ふるに足らず、嘆くには當らぬのである。否、寧ろ盛んに輸入し盛んに利用して之を機械其の他に精製加工し、以て輸出貿易の資源たらしむる事に依り、國民經濟を擴充しなければならないのである。況んや我が國には後に說くが如く尙相當の資源あるに於てをや、憂ふべきは必ずしも原料の缺乏にあらずして、實は國家國民の無策よりする工作品の輸入である。本來原料品は概ね天產物であるが、製造加工せられたる商品は無論高價となり、中には原料に數倍乃至數十倍するものもある。而して其の高價となるは資本設備の運用費以外、大部分は勞銀、卽ち製造加工に要する勞力が加はつてゐるからである。故に製造し加工して商品化せられたる高價なる輸入品を購ふといふことは、それだけ外國國民に對して勞銀を支拂ふことになるのである。語を換ふれば、我が國に缺乏する天產物を買つてゐるのでは無く

て、それに加へられたる人間の勞力を高く買入れてゐるのである。然るに我が國には其の勞力が有り餘つてゐる。失業問題や、就職難問題は假りに一時的なりとしても、年々九十萬乃至百萬を增加する人口問題なるものは、卽ち勞力過剩の別語に外ならない。この勞力だに利用消化せられたならば、人口過剩問題は決して發生しない。生活の糧を得べき職なきが故の人口過剩である。働かんと欲するも勞力の買ひ手なきが故の人口過剩である。そして其の現はれが單に都會といはず、農村といはず、國民を擧げての行き詰りであり、不景氣であり、生活不安であり、思想惡化ではないか。

國家の前途、國民生活の現狀について考慮を缺かざるものは、何を差措きても、如上の事實を凝視し正觀しなければならぬ。如何なる政策も、方針も、外交も、財政も、敎育も、國防も、國民の生活權を確保することを離れては絕對に意義を爲さない。國民の生活を平らかにする、豐かにする、少くとも不安を取除く、食ふには困らないやうにする。此の根本義に立脚せざる一切の論議方策は其の全部が遊戯である。故に國家は假令相當の犧牲を拂つても、國民に對して生活の途を開かねばならぬ。生活の途とは則ち勞力を活かすことである。智力、能力、勞働力の總てを適材適處、能率增進の原則に據りて有效に運轉する。それは國家が負ふところの義務である。爲政者の責任である。然るに我が國に於ては一方に人口過剩問題や、失業問題に惱まされつゝ、他方に巨額の勞銀を商品輸入の形に依つて外國に支拂つてゐる。若し我が二十億乃至二十五億圓の輸入額から、眞實日本に缺乏せる原料代のみを抽出すとしたならば、それは恐らく總額の二分の一內外に止まるであらう。他の二分の一卽ち十一二億圓の巨額は外國の國民に對する勞力代の提供であり、而かもその勞力は日本それ自身が餘りにも甚だしき過剩に苦しんでゐるものである。

若し我が國民が未だ何等工業能力なく、製造技術を持合はさゞる非文化民族であるか、又は粗工業以上に頭腦の働きを缺けるものなりとせば、吾人豈何をか言はんやである。だが國民の名譽にかけても、實際の技能に徵しても、日本民族の文化能力は斷じて他國に劣るものでは無い。現に歐洲大戰當時には殆んどあらゆる方面の事業に好箇の經驗を得、不充分ながらも相當の輸出力を發揮したのである。そして其の當時には猫も杓子も手が足らぬといふ程に、國民の勞力が活用されたのである。彼の場合に於ては決して失業問題が無く、就職難が無く、人口過剩問題の叫びをも耳にしなかつたのである。だから我が國の產業だに振興せば、是等總ての難問題は自然に消滅し若くは緩和される。就中工業の發展に依る人口及勞力の消化は、單なる國內需要品を別とし、概して事業それ自らに多量の國際的性質を固有するものなるが故に、殆んど無限的擴大性を見出し得る强味あるを忘れてはならない。

試に我が輸入品中より純然たる原料を差引きたる製品又は半製品を算出すれば、其の金額十億圓內

外である。之を國内にて製作することが我が國際貸借改善の根本要件であり、失業防止も國家繁榮策の基礎も此處にあるとすれば其の實現は絶對的の要求である。世間往々之を以て實行不可能とするものあれど、そは我が工業能力の實質も現前の事例すらも未だ理解せざるものゝ誤れる觀察である。眞實には輸入防止は勿論、やがては進んで大に輸出を增進し得る可能性が種々の點から既に明かに認められる。然るに國家は現に果して何程の努力と經費を我が國の工業政策上に支拂つて居るだらうか。假りに農林・商工兩省の全豫算七千五百萬圓と地方支辨の勸業費一千萬圓内外が、半額宛農工兩方面に支出されるとしても、その額は僅かに四五千萬圓に過ぎない。別に鐵道、道路、港灣等の事業費もあり、間接には産業の發展に助成するとは言へ、産業そのものゝ振興を主務とする國家の支出は、國際經濟戰の重大性卽ち國運の盛衰消長に關する對策から出立して居るとは云ひ能はぬ。語を更ふれば現在の國政及地方行政は産業國策の重大性を適切に理解しての建て前になつて居ないのである。

今假りに當面策として、三億圓程度の輸入を防遏することを主眼として重要工業の國産化を圖るとし、何程の資金を要するかを概算するに、例へば鋼鐵年産百萬噸、化學肥料五十萬噸、機械類、自動車一億圓、金屬類、化學資料等五千萬圓、合計約三億圓の製作を行ふに必要なる資金は約四億圓にて足らう。而も其の中、外國に支拂ふべき機械代は多くとも三分の一内外に過ぎまい、故に國家經濟の見地よりすれば三億圓の製産に對し、一時唯だ一億二三千萬圓の對外支拂を忍ぶ事に依り、假りに是等の製産の内、外國に仰ぐ原料五千萬圓と見積りても國家は年々二億五千萬圓の輸入を防止し得る譯になる。此の數字より推算し輸入工作品全額十億圓を企業すとせば、其の所要資金は約十二億圓となれど、其の重大性と融通力とを考ふれば是將た驚くに當らない。勿論是等の事業を完成するが爲には朝野共に大なる努力を要するは言を俟たずして適當なる關稅政策の施行、金融政策の運用等各般に亙り夫れ〴〵方法をも講ぜなければならぬ。而して若しも絶對必要の場合あらば國家自ら之が經營に當りて不可なしと雖も、原則としては民間に奬勵して其の企業を促進すべきであり、幼稚なる産業を助成する爲には相當の期間適度の保護を與ふるも亦止むを得ざる寧ろ當然の手段と思ふ——假りに十年間十億圓の民間投資に對し平均年五分に相當する補給を爲すとしても、其の金額は一年五千萬圓に過ぎない。十億圓にも昇る生産に對し、そしてそれが國民數百萬人の生活を支持する爲ならば、年々五千萬圓程度の支出の如き、國家としては寧ろ僅少の負擔ではないか。

我が國の消極論者は此の如き企業に對する投資が果して可能なりや否やを危み、其處に大なる懸念を抱くでもあらう。併しながら、資金は元來融通性を有するものであり、苟くも事業そのものゝ確實にして有利なる限り、それは原則として水の流れる如く流轉する。現に我が財界に於ては遊資の聲が

大銀行間に高唱せられ、其の使途を見出し得ずして日本銀行に無利子同樣に預金せらるゝもの二三億圓にも上りつゝある。又此の種國家的事業に對しては單に民間資金のみに限るを要せず、或は郵便貯金を適當なる方法の下に活用するも一策と考へられる。又更に國際經濟の發達せる今日は在つては企業の實質及經營の如何によつては、外國に資金を求め得る途もあり、混亂止むなき支那や、社會狀態の最も不安と目せられるロシヤにすら冒險的投資者が輩出して居るのである。生産の發展卽ち國富增進の根本國策に要する國庫の支出に對しては、國民は喜んで之に共鳴し決して反對する理由なきのみならず、若しも國家直接の財政が其の支出を許さゞる場合ありとせば、之に代るべき方法も一二には止まらない。生産的公債の增加が何等危惧するに足らざるは既に上に說明した通りであつて、所謂非募債主義の政策的價値は、産業國策の急務を解せざる退嬰論者限りの錯覺的理論たるに過ぎない。一方に時代遲れの鎖國的消極政策を固執しつゝ、他方に産業振興を說くが如きは、諺に所謂二足の草鞋を履くものであり、或は産業合理化を唱へ、國産愛用を口にするが如き、假令其の趣旨は可なりとしても、其の前提要件として國內産業の發展を積極的に計慮せずして如何なる妥當價値を認め能ふか。蓋し、難局打開の方策を案出し能はざる無爲主義者が、當面を糊塗する爲の臺詞たらずんば寧ろ至幸のみ。

（四）基本工業の問題

原料難竝に資金難の問題が、何等産業國策の開立を遲疑せしむる根本的障碍とならざることは既に之を略述した。さて然らば如何なる方針、如何なる計畫に依りて我が國工業の發展を具體化すべきか。

精密には固より箇々の工業に就てそれ〴〵特殊の施設、特殊の工夫を要するのであつて、機械工業の知識を以て食料工業に當てはめることは出來ない。其の金屬工業に對すると、窯業、纖維工業、電氣工業、化學工業等々々に對する、何れも亦然りである。だが、吾々は今是等箇々の場合に於ける對策を一々詳述する遑を持たざるのみならず、それは寧ろ各專門家の經營的技術的知識に期待して可なりである。當面に緊切なる問題は、箇々の工業を如何にするかを檢討することよりは、ヨリ全局的、ヨリ綜合的に、我が工業國策の運用如何を考究するに在る。

就中何よりも緊要なる根本方針としては、上來說明せる通り、輸入防遏の爲め、人口問題解決の爲め、そして國民經濟建直しの爲め、我が工業能力を十二分に發揚し得る程度に迄國民が妥當とする方策を講じ、保護、奬勵及指導の任務を遂行せねばならない。其の方法としては既に列國に採用せられつゝある關稅政策もあれば課稅上及運賃等に就いての特殊手段もある。又之に必要なる資金に就いて

は民間の金融を援助する方法として、例へば興業銀行、勸業銀行等の機能を擴充するも善く、又郵便貯金、簡易保險資金の活用、其の他公債の發行や官業及官有財産の整理を行ふも敢て非なりとせぬ。

それで此の方針を實際化するに當り、第一に打着せらるべき工業上の施設を問ふならば、一般的には卽ち基本工業の發展策を講ずるに在る。殊に最も急務と考へられるは、

イ、製　鐵
ロ、製　油
ハ、肥料及化學製品
ニ、機械及自動車
ホ、電力、等々々

であると思ふ。

製鐵業が我が國の産業國策上、如何に緊要なる基本工業であるかは、改めて呶々の辯を勞するにも及ぶまい。歐洲戰爭時代には我が國の製鐵業も內外の旺盛なる需要に促進されて開戰後三箇年間に生産額を倍加する程の飛躍ぶりを示したが、戰後特に近年に於ては、外國品の競爭に壓されて非常なる打擊を被り形勢退轉した。併し其の需要量は敢て減少せず、現に昭和三年度の鐵類輸入額は鑛石及器具を別として尙一億五千萬圓を算し、同二年度に於ても同じく一億三千萬圓の巨額を各國に支拂つてゐる（但し最近の激減は一時的現象と見るが至當で、國民生活の向上に伴ひ今後も適度の需要累進を爲すべきは極めて當然である）。試みに既往數年間に於ける內地生産及輸移出入の狀態を見るに、

鋼材及銑鐵需給高（單位千佛噸）

種別	年次	內地生産	輸移入	輸移出	差引需要	需要對生産%
鋼材	大正十四年	一、一〇一	五三七	九八	一、五四二	七二
	昭和元年	一、三三〇	九二四	一二〇	二、一三四	六二
	同　二年	一、四六九	九〇二	一五五	二、一四七	六五
	同　三年	一、七〇三	九一四	一七九	二、四三八	七〇
銑鐵	大正十四年	六九六	四〇二	六	一、〇九二	六四
	昭和元年	八二五	五〇八	五	一、三二九	四六
	同　二年	九二一	五八〇	四	一、四八七	六一
	同　三年	一、一〇一	七一二	四	一、八〇八	六一

斯くの如く財界不況、事業不振の時機に拘はらず、生産も需要も減退してゐない。而して昭和三年度

に於ける鋼材の輸移入高は約九十一萬佛噸、銑鐵七十一萬佛噸、計百六十二萬佛噸餘である。又、一方內地生產高は銑鐵の復作用はあるが同じく兩種合して二百八十萬佛噸を超えて居り、總需要高に對する內地生產割合は約七割近くになつてゐる——昭和四年度に於ては更に內地生產額を增加し、特に鋼材に於て百八十五萬噸に上り、同年の鋼材需要高二百五十三萬噸に對し約七割三分を自給し得るやうになつてゐる——しかし銑鋼合して尙依然一億圓以上の輸入超過を免れざるのみならず、將來の需要增加を考慮すると共に、經濟的生產と輸移出方面の開拓宜しきを得るに於ては、現時の製產額を倍加しても未だ決して過大といへないのである。

蓋し過去十五年間に於ける我が國の鐵の使用增加率は年に依つて高低の差あれども、大體每年百分の六を下らず、假りに之を低率に見て平均百分の五とするも、十年後の需要高は單に鋼材のみにても四百萬噸を必要とするものであり、實際には無論それよりも多く、恐らくは約五百萬噸にも上るであらう。隨つて其の場合に於ては現在の內地生產額を以てして尙需要額の三割六分しか供給し得ないことになる。更にそれが二十年三十年の後に至らば益〻累進的に增加すべき趨勢に在るを以て、其の不足額(卽ち輸入高)は驚くべき數字を示すに相違ない。

殊に又他方面よりも推計するも、我が國の鐵使用高は主要列國の何れよりも低く、一九一五年の調査に據るに、國民一人當りの鐵消費高が米國に於ては四六八瓩なるに對し、日本は僅に四〇瓩に過ぎない。卽ち米國民に比して未だ十分の一にも達しないのであつて、之を白耳義に比するも六分の一以下である。隨つて將來文化の普及に伴ひ、其の施設だに宜しきを得ば、我が國民の鐵の利用高が躍進的增加を呈するであらうことを推測せしむるに充分である。否、一日も速にこの基本工業の躍進的發展を實現せしむることに依つて、我が國の產業、我が國民生活の繁榮を期せねばならぬのである。

いはゆる製鐵國策の聲は多年屢〻之を耳にせぬでは無い。又八幡製鐵所の如き官營事業もあるにはある。されど實際には未だ適確たる根本的方針が立つてゐるのでもなければ、合理的保護政策が講ぜられてゐるのでも無い。忌憚なくいへば、課稅の負擔なく又政府の低利資金を融通され得る官業が民業を壓迫して却つて其の發達を妨げてゐるとの非難さへ起つてゐる。これでは到底濟まされない。

英にせよ、獨にせよ、鐵の原料輸入國であることは前に一言して置いたが、我が國に於ても其の原料鑛石は從來大部分を支那及南洋から輸入してゐるのである。然るに翻つて廣く之を調査するに、我が領土にはあらざれども事實上我が經濟勢力の範圍內卽ち滿洲に於て、十二分に需要を滿たし得る鐵鑛石が地下に埋藏されてゐるのである。而して其の鑛石の全量は之を概算的に見て十數億噸に上ることは人意を强くするに足ると思ふ——此の計數に關し曩に或る一部に疑問なりとの說があつたが、し

かし大體の推算に動きは無い――我が鞍山の製鐵所は此の鑛石を利用して既に年々二十餘萬噸の製鐵を行ひ、近年相當の成功を收めてゐるのである。

元來我が國民は常に資源の貧弱を喞ち、其の沾渇を愁訴してゐるが、果して精細なる踏査研究の結果に基いての立論であらうか。屢〻問題に上りつゝある鐵が既に調査を經たもののみにても上述の如く十數億噸もあり、假りに一年一千萬噸づゝ掘出すとしても今後百年餘の需要に應じ得らるゝのであり、他にも踏査未了のものが僅少とはいへない。石炭や、石油の如きも內地の鑛床鑛脈は概ね調査濟みなりとしても、未だ決して前途に望みなしといへず、又全く枯渇を告げてゐるのでも無い。現に石炭は大正十年頃迄は相當重要な輸出品の一つであつた程で、今日と雖も敢て埋藏量が缺乏してゐる譯では無い。且つ滿洲には豐富なる撫順の石炭があり、近くは新邱炭も開かれつゝある。更に樺太の石油は人の知る所、其の他工業の原料たるべき鑛產類は必ずしも乏しとはいはれない。否、未だ完全なる調査を了してゐないといふが寧ろ眞實である。又將來最も有望なる工業生產の一として認めらるゝ窒素肥料の如きは無限量の空氣を原料とするものであり、水力電氣に至つては、これこそ大に天惠を感謝すべき環境に在る。

それ故に資源の貧弱を理由として工業國策の達成を不可能とし、或は將來の發展に致命的障碍を爲すものゝ如く考ふるは、極めて幼稚なる臆見に過ぎない。そは恰も原料及資金難を理由として悲歌を奏しつゝあると同じであり、まことは眠れる資源を未だ有效に開發し利用してゐないのである。其處に科學的經濟的なる研究が遺憾なきまでに行はれてゐないからである。而かも其の主なる原因は第一に國の識者が、爲政家が、產業立國主義に立脚する方策を意識的徹底的に運行してゐないが爲の缺陷に外ならない。

(五)　具體的計畫の一例

かくいへば世人或は問ふでもあらう、製鐵始め、基本工業の緊要なるは何人も之を認める。唯だ如何にして其の資源を開發するか、如何にして之を經濟化し得るか、世人の聞かんと欲する所は之が實行方策であり、對內的及國際的に見て、最も妥當且つ效果的なる具體的計畫如何と。

それは確かに眞面目なる提問である。しかも是れ決して實現の可能性なき机上論でも無ければ、採算不可能なる事業でも無いのである。當局の決斷だにあらば、根本的大方策は暫らく別としても、少くとも生產增加に依る輸入の防遏は寧ろ容易に達成され能ふことを疑はない。

豈啻に製鐵の一事業に止まらんや。同時に燃料油、肥料等の問題も解決し得るのである。こゝに余

輩の經驗を語るは聊か心苦しい感じもするが、問題は產業國策の具體化に在る。故に一例として余が前滿鐵當局者として自ら計畫せる實際的方法を提擧することは、敢て余輩一個の興味の爲でも、又一滿鐵限りの問題でも無いと信ずる——卽ち左は昨年八月、大阪經濟會席上に於ける余が講演筆記であるが、單に製鐵事業だけでは無く、燃料油及肥料等の問題に就いても、必要なる概念と其の相互關係を略說せるを以て、玆に採錄するを便益と考へる——

製鐵、油及肥料に就いて

（滿鐵に於ける計畫の概要——昭和四年八月大阪經濟會講演）

（前略）今日の日本の經濟狀態に於て、最も苦痛と致す所のものは一億五千萬乃至二億圓の輸入超過である。此の輸入超過をどの程度まで、滿洲經濟、卽ち其の執行機關たる滿鐵が之を背負ふことが出來るであらうか。更に滿鐵それ自體の利益がどれ程まで增進せられ、其の收入に依つてどの程度まで日本の國際貸借改善の一端に資することが出來るであらうか。而も此の二つのものが現在の經濟事情に處して滿鐵に日本が要求する一番重大なる問題であると考へたのであります。それで着任早々專ら其の點に向つて注意を致し、調査研究を致して見ました所が、私は滿洲が自分の想像いたして居つた所よりも遙に大きな貢獻を日本になすことが出來、而して滿鐵だけの經營努力に依つて、現在吾々が惱みの根柢として居る所の輸入超過の數字は、之を滿洲に於て大體に補充することが出來ると云ふ確信を得たのであります。是れ私が滿鐵に入社いたしまして、新に私の立てました滿鐵の所謂三大計畫と稱するもの丶一端でありますが、其の計畫の內容は第一に

鐵の問題——であります。滿洲に於ける製鐵工業は新しい問題ではございませぬ。現在既に鞍山製鐵所に於て十八九萬噸乃至二十萬噸位の製鐵をいたして居るのであります。併しながら其の成績は今日までは頗る不良でありまして、又之を擴張すると云ふやうな意志は少しも無かつたのでありますが、段々調査して見ますと、滿洲には日本の關係して居る鑛區だけで水平線上に約十億噸の鐵鑛石があるのでございます。吾々は鑛山の專門家ではありませぬが、水準以下の數量は大體五割增しに見るのが普通でありますから、左樣に考へますと、十五億噸の鐵鑛石が滿洲の而も滿鐵の線路に最も接近して埋藏されて居るのでございます。唯だ此の鐵鑛石は今日揚子江流域、若くは馬來半島方面から持つて來る含有鐵分五十五パーセント乃至六十パーセントと云ふものと比較して、三十七パーセント乃至三十八パーセントより無いと云ふ其の品位の低劣なことが稍缺點であるのであります。併しながら此の三四年間の研究に依りまして、之を技術的、經濟的に六十パーセント內外ま

でに引上げることに成功いたしました。私が就任いたしました時の滿鐵の生産費は一噸四十五圓について居りましたのが、今日では鞍山に於ける舊式の小さい鎔鑛爐に依りましても、一噸二十四圓で銑鐵が出來上ることになつたのでございます。そこで此の擴張を計畫いたしまして、先づ五百噸の鎔鑛爐を新設することにし、昨年から着手して本年十月にはそれが完成するのであります。是れが完成いたしますれば、正味の原料代から計算すれば鞍山では恐らく二十圓内外で銑鑛が出來上る譯であります。之は豫想だけではありませぬ。既に四五年間實際について經驗いたしました結果でありまして、確實に二十圓内外で銑鑛が出來ると云ふことを申上げて可いと思ひます。爲替の平價から見たならば、十九圓二三十錢であります。

十九圓二三十錢の銑鐵と云ふものは世界の最低値段でありまして、最も安い値段として日本に輸入されて居ります印度の銑鐵にも立派に對抗することが出來るのであります。私共の取調べました所に依りますれば、ピッツバルグを中心としたる亞米利加の銑鐵の値段は二十八九圓乃至三十圓であります、獨逸のエッセンを中心として調べた銑鐵も同値段の三十圓内外であります。何故に滿洲に於ける鐵が左樣に安く生産し得るかと云ふと、鑛石に次いで製鐵に最も重要な關係のある石炭が世界に稀なる安い値段で得られると云ふことが其の主なる原因であります。

撫順炭は私が申上げるまでもなく諸君が御承知の通り六百尺の炭層であります。而も其の六百尺の炭層を、唯だ上土を剝して露天掘の方法に依つて採掘するのであります。私が就任いたしました時の生産費は、一噸二圓五十錢乃至六十錢でありましたが、私は滿鐵の經營を全部請負式にすることが古い習慣を破つて、生産費を引下げる方法だと考へまして、それを嚴密に勵行いたしました結果、今日では一圓六七十錢で掘れることになつたのであります。諸君、一圓六七十錢で一噸の石炭が掘れると云ふことは、總ての工業に根本的に偉大なる革命を惹起するものであると云ふことは、私が申上げるまでもなく、直ちに解ることであります。唯今撫順の採炭方法は千尺内外の竪坑に依り採掘するものと、露天掘に依るものと各半數を掘つて居ります。これを全部露天掘の計算にしますと、一人の採炭夫は一日二十三噸掘るのであります。僅か一日五十錢の勞銀を拂つて居る採炭夫が一日に二十三噸掘ると云ふことになりましたならば、其の石炭の原價は殆んど無價であります。斯くの如き炭礦は蓋し世界中他には類が無いと思ひます。此の驚くべき富源が滿洲の鐵道線路近くに在るのであります。

銑鐵一噸を造るのに二噸の石炭を要するのでありますが、假りに一噸二圓五十錢といたしましても、五圓で一噸のコークスが出來るのであります。更に鐵鑛石の方から考へましても、唯今の所で

は三圓五十錢乃至四圓で六パーセントの鐵鑛が一噸得られるのであります。此の一噸半の鑛石代卽ち六圓內外に五圓のコークスを結び合したものが、銑鐵の原價になるのでありますが、これを以て見ても、世界中で他にあり得ない安い生產費を以て鐵が得られると云ふことは、極めて明々白々でありまして、何人と雖も否定することが出來ない數字が、こゝにはつきりと現はれて居るのであります。

昨年日本に輸入いたしましたる鐵が二億圓で、鐵具類が五千萬圓、合せて二億五千萬圓でありますが、過去五箇年間の鐵の輸入は平均一億七千萬圓內外であらうと思ひます。若し此の昨年の數字を捉へて、鐵具類は別と致し、二億圓の鐵を日本の勞力日本の資本に依つて造ることが出來たならば、是丈けでも直ちに二億圓の輸入超過を防ぐことが出來るのであります。而も半面に於て政府は鐵の製造に對して關稅政策其の他種々の手段を以て之を奬勵し、其の發達を促進せんと致して居るのであります。それが唯だ一葦帶水、亞米利加などから見たならば湖水と同じやうな對馬海峽を隔てゝ日本の向ふ側に、而かも吾々の勢力範圍內に此の豐富なる鐵鑛石があり、又他に類例を見ないやうな最も良質の、値段の安い撫順炭が全く自然にサイド・バイ・サイドに置かれて居るのに、何故吾々は二億圓の鐵を外國から買はねばならぬのであるか。私は滿洲に赴任して何故に今まで之に手が着いて居なかつたかと云ふことを痛歎いたしたのでございます。

此の意味に於て私は先づ第一歩として鞍山製鐵所の擴張を圖り、五百噸爐の增築を致しましたのは、先刻申上げました通り、今將に完成に近からんとして居るのでありますが、第二計畫と致しまして、更に新義州に於て滿洲より唯今申上げた所の鐵鑛石と石炭を輸入して、五十萬噸の銑鐵を造る所謂

銑鋼一貫作業——を創める計畫を立てたいのであります。新聞紙上で御承知のお方があるかも知れませぬが、私が今回の政變に際して自分の進退を決する前に、此の國家的事業たる製鋼事業だけは後繼者が何人に代られても、是非とも完全に遂行すると云ふことを政府に認めさしたいと考へまして、私は濱口總理を訪ひ、松田拓務大臣を訪うて、此の事業は政黨政派の問題にあらず、現に窮迫して居る日本の經濟上の見地から、最も重大なる國策の一つとして其の遂行の必要なる所以を說き、其の了解を求めたのであります。固より其の了解がなければ職を辭めぬとは言ひませぬが、併しながら其の了解を求むることが聊か國家に盡す自分の職分の一つであると考へて、各方面に對して可なり强く此の意見を主張いたしたのであります。

此の問題に關し工場の位置に就き、或は殊に諸君のやうな事業家の中には、何故に鐵鑛の所在地

たる鞍山なり、炭坑のある撫順に於て企業をせずに、之を特に離して朝鮮に持つて來たのか、譯が分らぬぢやないかと云ふ疑問が起るであらうと思ひますが、之に就ては私も非常に苦心を致し考慮を盡した結果でありまして、滿洲で此の工業を起すとして、先づ以て最も不便に感じますことは、滿洲は帝國の領土ではなく支那の領土がありますから、一朝事有る際に支那が嚴正中立の態度を執りました場合、鐵は直ちに戰時禁制品になるのであります。折角巨額なる資本を投じてやつても、一朝事有る時に是れが用を爲さぬと云ふことでは、國として極めて不利なことであります。更に又輸出稅に就て考へて見ましても、唯今の支那の關稅では、鐵一噸に付て輸出稅が三圓四十錢であります。然るに原料である所の石炭と鑛石を輸出いたしますと、其の稅金は六十錢でありまして、彼是其の間に三圓程の差があるのであります。若し私の第一期計畫に次で、第二期計畫が實行された場合百萬噸の鐵を滿洲で造ると云ふことになりますれば、此の百萬噸の鐵と製鐵に附隨した副產物に對して、一年に約五百萬圓の稅金を支那政府に納めなければならぬことになるのであります。世界中で輸出稅を取つて居る國は支那の他にない。而も支那政府の現狀は收入本位であり、何等かの名義を附けて何時如何なる增稅を課するか知れぬ。百萬噸の計畫で五百萬圓の輸出稅を要するのでありますが、將來是れが二百萬噸となり、三百萬噸となつた場合、其の鐵の輸出に對して今の稅率の儘でも一年に一千萬圓も一千五百萬圓も支那政府に無意味な稅を拂ふことは、日本の國家經濟としては忍びないことであります。

そこで吾々の產業立國の理想から見ても、斯くの如き重大なる工業はどうしても日本の領土內に起さなければならぬ。折角巨資を投じて此の事業を起しても、若し之を滿洲に於てしたならば、其の勞働賃銀の如き悉く支那人に拂はなければならぬ。是れも一つ考へなければならぬことであります。出來るならば、日本の內地、少くとも日本の領土內に此の工業を起し、之に要する總ての用品にせよ、或は勞働者にせよ、日本のものを使用して領土內に其の利益を與へるやうにしなければならぬと考へたのであります。唯だ義州に此の事業を起すに就ての一つの不便は、嵩の大きな原料を運ぶ不利益があります。又港が無い爲に之を輸出するのに不便だと云ふことが當時吾々の最も苦心いたした點でありましたが、幸にして此の鑛石と石炭を運ぶ爲には安奉線がある。卽ち奉天と安東縣との間のあの二百哩の鐵道線路は、一千萬噸の輸送能力があるのに對して、現在二百五十萬噸の貨物しかなく、七百五十萬噸の輸送能力を餘して居るのでありまして、鐵道經濟から見れば、四厘でも、五厘でも、六厘でも構はぬ、實際計算はそれでも損は無いのである。仍ち極めて低廉なる運賃で之を運んでも經濟上利益があるのであります。其の上鴨綠江の下流に多獅島と云ふ島がありま

して、義州から僅か十六哩の鐵道を延ばせば其の不凍港に入るのであります。左樣いたしますと、鞍山で製鐵をいたしまして、大連まで二百哩の鐵道を運んで參るとか、更に近い距離の營口まで七十何哩の鐵道を運ぶのに比較いたしまして、此の多忙の線路を使用する代りに、他面閑散の線路を利用して多量を運送するに比較すれば寧ろ相償つて充分に餘地がある。こゝに於て私共は第一期の五十萬噸の銑鋼一貫作業を義州に起すことを計畫したのであります。

而も此の計算は金解禁後の鐵の下落を見込みましても、私共の調べに依りますれば、全部の機械を十五箇年間に償却いたしまして、約一割五分の利に當るのであります。唯今の八幡の製鐵所で造つて居ります鋼鐵の平均相場から見まして、約十圓乃至十五圓安く鐵が出來るのであります。過去十年乃至十五年間に於ける日本の鐵の使用增加は年々百分の五乃至七の間を往來して居るやうであります。私は此の數字を最も內輪に見まして、將來日本の鐵の使用は年々百分の三分五厘づゝ增加すとして計算いたしますと、將來五十年間に日本の鐵の需要は一億九千萬噸約二億噸にならうと思ひます。百圓の鐵として二百億圓でありますが、是れが總て日本で出來た其の上に、先刻申上げます通り世界に類例のない安い生產費で出來ると云ふことになつたならば、日本のみならず支那の需要を充すことが出來ます。現在支那の需要は一年に四十五萬噸乃至五十萬噸に過ぎませぬが、其の增加の率を見ますと、今後五十年間に少くとも一億噸の鐵を使ふやうになるであらうと思ひます。從つて吾々は啻に日本國內の需要を充すのみならず、其の生產費が安い結果、更に進んで支那方面にまで之を輸出する能力があることを經濟上極めて明かに見得るやうに感ずるのであります。

鐵の原鑛の供給に就ては種々の說がありますが、私共の觀測では、今日日本が輸入を仰いで居る所の揚子江流域の鐵鑛なり、新嘉坡方面等の鐵鑛なりの前途を見まして、五十パーセントの鑛石は今後餘り長い命數がないやうに思ひます。卽ち永久に豐富な供給の餘地は無いのであります。東洋全體の鑛量と需要を概算いたしまして、長くとも約三十年後には鐵の原鑛石に多大の不足が明かであり、又歐米の全體を見ましても、五十パーセントの所謂富鑛と稱するものが無くなるのは、如何なる方面の調査に依りましても二十五年を出でぬと云ふ說に相成つて居るやうであります。現に今日の獨逸の如きは三十四五パーセントのものに、西班牙、諸威から品位の高いものを買つて來て、それを混用して居ると云ふ譯であります。而して其の製品は最も激しい競爭をなしつゝ販賣されて居るのであります。是等の世界的競爭乃至東洋に於ける鐵の需給狀況を見ましても、滿洲に於ける鐵鑛と石炭とは日本の國家經濟、國民經濟の上に如何に重大なる關係があるかと云ふことは御了解下さることゝ思ふのであります。

鐵に附屬いたしまして第二に計畫いたしましたことは

肥料の計畫――であります。最近獨逸で專賣權を得ました方法と設備で計算いたしますと、唯今の鞍山と義州で計畫いたして居ります量だけに依つてコークス爐から出ますガスの中の窒素を利用して約三十萬噸の硫酸アンモニヤの製造が副產物として出來ることになつて居ります。元來私は斯樣に考へて居ります。日本の食料問題の解決と云ふことに就ては二つの途がある。其の一つは所謂未開墾地の開墾乃至既墾地の改良等卽ち農業の發達進步等に依るもの、例へば朝鮮に於ける產米計畫と云ふやうなものがあります。第二の方法は化學的方法に依る解決、卽ち化學に依つて低廉なる肥料を拵へ、之を充分に農家に供給し、集約的に收穫の增加を圖るのであります。而も第一の方法たる未開墾地の開墾若くは干拓事業と云ふやうなことは面積の廣い國にあつては適當であります。最近の例としては埃及に於けるナイル河のダムや、印度のイラワーデー河に於ける灌漑工事の如きは夫れでありますが、我が國の事情は餘程異つて居り、元來の地積が狹いのであるから、差當りはまだ開拓、改良の餘地も殘されてゐますが、其の方は大體限度が極つて居り、餘り多大の望を置くことは出來ませぬ。勿論急迫する失業者を活用する意味と相待つて夫れも當然の一方法であるが、ヨリ一般的應急的には夫れ丈けでは足りない、矢張り同時に科學的の解決に重きを置く必要を認めます。今日日本が輸入する硫安は三十萬噸乃至四十萬噸であり、需要は年々增加するのでありますが、假りに私共が三十萬噸の硫安を造るといたしますと、それは實質的意味に於て米を三百萬石增收するのと餘り違はぬ。而かもそれは二年か三年の間に出來てしまふ。私は日本の今日の經濟狀態としては第一の方法の如き原始的の緩漫な方法のみに賴つて居るべきものでない。もつと急速に今日の經濟狀態の建直しをしなければ、急場の間に合はず、或は吾々が常に唱へる所の眞の經濟國難に陷りはせぬかと云ふ憂を有つて居ります。其の對策として肥料の計畫をしなければならぬと考へたのであります。

硫安の輸入は現在三四十萬噸よりありませぬけれども、其の外に、六七十萬噸の豆粕の輸入もあり、又肥料の中には硝石鳥糞のやうなものもあれば、種々な化學肥料も入つて居るのであります。若し吾々が安い硫安を造れば、是等も悉く其の輸入を防ぎ、更に其の生產費が安ければ單り日本の輸入を驅逐するのみならず、他に之を輸出することも決して難事ではないのであります。唯今（昭和四年八月）硫安の相場は、此處に專門の方もお居でのやうでありますが、百十五圓乃至百二十圓でありませう。それが私共の計算では裸ではありますけれども、四十五圓ならば立派に出來る計畫であります。更に償却金利と云ふやうなものも之に加へなければならぬのでありますが、何として

も百十五圓乃至百二十圓に賣つて居るものが裸の原價にして四十三圓、四十五圓で出來ると云ふことは、日本の食料問題に對しては極めて重大なる問題として私共は其の計畫を進めつゝあつた次第であります。

製油計畫――尙我が國の經濟上の問題、輸出入の問題として考へて見なければならぬことは油の問題であります。唯今日本に輸入せられて居ります油は、私の承知して居ります所では百六七十萬噸、金高にして約一億圓位のものであります。而も日本に於ける油の需要は種々な方面に於て激增しつゝありますので、五年乃至十年の間には是れが二倍になり三倍になるであらうと云ふことは、其の方面の權威者の齊しく認むる所であります。故に此の油の自給自足をして、輸入を防遏すると云ふことは、日本の國家經濟の上から見ても、極めて重大なる意味が含まれて居るのであります。そこで其の途の方はもう既に御承知でありませうが、此の油のことに關聯して私は撫順炭礦と云ふものゝ概要を申上げたいと思ふのであります。

オイル・セール――撫順炭礦は約三十度の傾斜を以て三百尺内外の石炭が地上から下つて居りまして、其の上を四パーセント乃至八パーセントの油を含んで居る所の石の層が二百尺内外の厚さを以て覆うて居ります。此の石の層が卽ち吾々の稱へて居るオイル・セールでありまして、唯今測量いたしました所では、此のオイル・セールの數量が五十二億噸あるのであります。五十億噸で五パーセントの油が採れるといたしますと、數理的には二億五千萬噸の油が採れる譯であります。年に百萬噸づゝ使ふも、隨分長い年數を保つことが出來るのであります。そこで此のオイル・セールの中から油を採ることを計畫いたしまして、其の第一期計畫として七萬五千噸の油を採る計畫を立てたのでありますが、其の工場が本年の十月に完成致すのでありまして、卽ち十月には油を見ることに相成つて居ります。私は此の全部の燃料油を海軍省に賣る契約を致しましたが、私共の採算では充分に引合ふのであります。若しも此の第一期のオイル・セールの計畫が本年中に完成致しまして、其の結果が善いと云ふことになれば、私は之を直ちに三倍に擴張いたす考へで居りました。原鑛は餘り硬い石ではなく、之を適當の大さに碎いて、非常に大きなガス竈のやうなものに入れ、其の石それ自體から出るガスに依つて之を蒸して油を採るのでありますが、恰度大豆より油を採るやうなもので技術としては極めて簡單な問題であります。故に之を擴張することは極めて又容易なことであります。而も此の第一期計畫の七萬五千噸の油の中には、約八千噸の**パラフイン**(蠟)が入つて居りますが、唯今日本で二萬噸輸入して居りまして、一噸五百圓乃至六百圓いたして居りますから、是丈けでも千二百萬圓程の輸入が防げる計數になるのであります。

低溫乾溜――製油計畫と致しましては、此のオイル・セールを離れまして更にもう二つの計畫を立てる段取になつて居ります。甚だ迂遠なことでありますが、撫順炭の素質と云ふものは如何なる風に出來て居るかと云ふことは今日まで學理的に能く分らなかつたのでありまして、普通蝦夷松とか雜草と云ふやうな寒帶植物の變化したものであらうと云ふことになつて居りましたが、昨年私は專門の顯微鏡學者を依賴しまして、細かく調査いたしました結果、撫順炭の一番下層にある百尺內外の炭層は溫帶植物中の蘇鐵等の變化であると云ふことを發見しました。あの寒い滿洲に在る石炭が元は蘇鐵であつて、而かもそれが百尺から百五十尺の間にあると云ふことに就ては甚だ奇異な感に打たれたのでありますが、之を學者の方から云ふと、一點疑の無いことださうであります。そこで私共は之をカバリ・コールと云つて居りますが、其の部分的分析の結果、最も多いのは百分の二十五六迄の油を含んで居ると云ふことを知り得たのであります。從來私共が承つて居りました所では、世界中で一番油の量の多い石炭が二十一パーセントでありますが、其の二十一パーセントの世界のパイエスト・レコードを破つて、吾々は二十五乃至三十パーセントの油を搾出し得る石炭を發見したのでありまして、こゝに於て私は是に對する第二の計畫を立てたのであります。其の方法は所謂低溫乾溜で、之も極めて簡單なものであります。唯だ瓦斯で石炭を蒸せば油が出て來るのでありまして、殘つたものは諸君の御承知の**コーライト**で、世界中何處でも石炭の代りに使つて居るものであります。それで撫順炭を使つて、三割は多過ぎるが、假りに二割の油が採れるとすれば、十噸に對して二噸の油が出來る譯であります。此處には汽船會社の御關係の方も澤山居られますが、今日油は安くも三十五圓か四十圓はして居ります。さうすると、私共が撫順炭を一圓五十錢で掘り、一圓は金利等の償却に充てるとして、十噸二十五圓の石炭から二噸の油が採れるとすれば、今お話したコーライトは相當安値に見積つても、有利な事業になると云ふ計算になるのであります。こゝに於て私は第二の製油計畫として、此の搾油量の最も多いカバリ・コールの低溫乾溜と云ふことに向つて手を着けたいと思ふたのであります。

石炭の液化――尙第三の製油計畫と致しましては、昨今新聞紙上にも能く出て居りますし、又專門の雜誌等には屢〻出て居ります所の石炭の液化であります。是は石炭そのものをそつくり油に變化させるのでありまして、日本の各所の研究所に於て研究されて居りますが、殊に德山の燃料廠に於ては、目下三十何人かの人に依つて研究されて居るのでありまして、其の實驗して居る所では唯今の所百分の四十までは油になる。卽ち百噸の石炭が此の方法により四十噸まで油になると云ふのでありますが、是は只今の所は尙學術上の問題で、まだ迚も算盤には乘りませぬ。併し獨逸では既

に石炭の含有する自然の水分を一割引きまして、其の半分まで液化させるだけに進んで居ります。昨年は確か二萬七千噸程實驗いたしたのでありますが、本年は更に年產八萬噸の大規模の實驗工場が建設中であります。兎に角此の事は世界の各方面とも非常な重大問題として注目され、而して其の經過より視れば、是れが實際問題として經濟化され具體化されることは全く時の問題であらうと思ひます。今日の專門家中には此の石炭液化の方法の具體化に就て、尙疑を有つて居る人は最早やあるまいと思ふのであります。若し此の方法が實現するとすれば、私が今申上げましたオイル・セールより油を採ること、若くはカバリ・コールの低溫乾餾が假りに無いと致しましても、撫順炭現在の採掘高七百五十萬噸の半分を增掘すれば、日本の要求する百五十萬噸の油が出來て、一滴も外國から油を買はずに濟むと云ふ數字が現はれて來るのであります。化學の進步の實生活に及ぼす影響は殆んど革命的のものであると云ふことは、總ての方面に於て今日現實に現はれて居るのであります。此の石炭液化と云ふことも今申した通り學理的には既に德山に於ても出來ると云ふことがはつきり研究されて居るのでありまして、實際に事業化するのも恐らく兩三年位の時の問題であらうと思ひます。又ハーバーの工場と云ひ、獨逸の化學の中堅、技術者中に依て既に屢〻撫順炭が液化に適當するやを試驗し、或は親しく撫順を訪問して實驗し、同炭は其の炭質が液化の目的に對して最も優秀であることが完全に確められたのであります。

斯樣な譯で、唯今申上げたのは新しき計畫に就ての唯三つの問題でありますが、それに致しても先刻も申上げます通り、鐵一品すら日本に輸入するものが一億數千萬圓であります。肥料に致しましても、全部を合せますれば一億圓以上でありますし、更に油は昨年の輸入は稅關の統計では一億圓內外でありますけれども、是れが軈て二億三億に達すると云ふことは明かに見えて居る勢であります。此の三つのものゝ自給自足を達成した丈けでも、其の數字は四億圓乃至五億圓の巨額に達するのであります。是れが唯だ學理とか學者が研究をした問題として解決されるばかりでなくして、眞に經濟上の問題として、而かも企業者に於て利益を擧げつゝ此の事業が成功すると云ふことになりましたならば、是は日本に幸する爲に、天が之を滿洲に於て與へたものと斷じても可からうと思ひ、私は非常に喜びを極めて居るのであります。

其の他、例へば最近アルミニユームの代りに使はれて居りますマグネシユームの如き、滿洲では殆んど數量の計算が出來ない程に山又山、全山悉くがマグネサイトと云ふやうな所があります。是はアルミニユームの倍に賣れる。卽ちアルミニユームが二千圓の時はマグネシユームは四千圓に賣れる。左樣な高價なものであります。世界の需要は昨年は千二百噸と云ふやうな小さな數字であり

ますけれども、若し安い電力が充分に利用され、生産費が安ければ、アルミニユームに代ることが出來ます。今日日本に於て一萬二千噸内外のアルミニユームを使つて居りますが、マグネシユームそれ自體の將來及アルミニユーム代用として、此の事業の如きも前途頗る有望なものと思ひます。是等のものを更に研究いたせば、滿洲には尙幾多吾人の未だ知らざる資源の埋藏は、蓋し餘程面白き大きなものがあると思ひます。（以下略）

右に說明せる事實の中には、昨年來多少形情の變化を示せるものがあり、鐵及肥料等の相場にもかなりの變動があります。又右に述べたる滿鐵の計畫が果して現當局に依つて如何に取扱はれるであらうかは、余輩の知るところでは無い。そは何れにもせよ、我が國に於ける基本工業の發達が決して絕望的でも悲觀的でも無いといふことは、如上の實驗的事實に依つても明瞭であると思ふ。

（六）重要工業の現勢と對策（上）

前段に於て我が國の基本工業として最も重要なる地位を有する鐵、油及肥料の問題に關し、吾々は一應の所見を了した。それは多年特殊の地位と便益を與へられつゝある滿鐵中心の計畫を引證せるものであり、假令一般的の指標たり難き點あるにもせよ、其の方法及施設だに妥當を缺かずんば、優に巨額の輸入を防止し、各種產業の發展を基礎づけ得るのである。そして國際的經濟戰に進出して立派に太刀討ちの出來る筈である。

我が國民の能力と技術とは既に世界的水準線にまで進歩しつゝある。それにも關はらず、何故に其の優秀なる技能の全部を實際上に活かし能はざるが如き狀態に置かれてゐるのであらうか。之が工業國策上の根本問題である。例へば前段に引用せる油の問題は今や列國國民が鐵や石炭以上に關心を深めつゝあるところの重大工業である。モスール油田問題が國際政局を如何に險惡ならしめたかを見忘れざる限り、一日と雖も之を忽にするを許さない。語を强めていへば今日は既に石油時代である。石油なくしてはあらゆる文明の機關も用を爲さなくなる。無論自動車も動かない、飛行機も飛ばない、戰爭は絕對不可能である。卽ち國家及國民の運命問題にまで進展しつゝある。故に單なる經濟戰以外に激烈なる國際的政略戰が石油を中心として渦卷きつゝあることは、小學生の間にすら敎へられてゐる。然るに我が國の實狀如何と見れば、昭和三年度に於ける我が國の產額約一百八十萬石に對し輸入高は實に一千萬石を超えてゐる。卽ち全需要高の八割五分までが海外の供給に依るのである。之を貿易統計表に見るに、

我が國の石油類輸入額

	數量（百萬ガロン）	價格（百萬圓）
大正十四年	二〇六	五七五
昭和元年	二三三	六〇三
同　二年	二六八	六六三
同　三年	五〇五	八九八

その輸入額が一億圓に近く、而かも年々非常なる需要の激增である。こは米國產油の盛況と其の價格の低落に押されて、我が內地採油の採算不引合ひになつた爲でもあるが、先頃吾々同志が招聘したる獨逸の專門家スナイダー氏の實地踏査に依れば、我が國の當業者は實量の八割を棄てゝ僅に二割しか採油してゐない、一石の油を收獲し得べき貴重品の中から僅に二斗だけしか汲み上げてゐないとて、當時列席せる我が國の專門家の面前に其の不經濟極まれる事實を指摘した——事は無論一例を擧げただけであるが、元來生產力の不足の上に其の施設も未だ充分なる努力が拂はれて居らぬのである——斯くては採算の難きこと寧ろ當然であらねばならぬ。固より我が國に於ても夙に海軍燃料廠があり、又商工省にも燃料研究所が設けられてゐるのであるから、其の道の技術家は敢て之を知らなかつた譯ではあるまい。問題は唯だ努力と設備にあるが、設備は資本の運用、新企業に對する政府の指導如何に依つて如何樣にもなり得る性質のものである。而かも是等の種々なる新施設を傍觀し放任して置くといふ點に、國家政策上の缺陷が暴露されてゐるのである。

若しも現在及將來に於ける石油問題の重大性が切實に認識され、一定の國策が樹立してゐるとしたならば、政府として執るべき方法はいくらもある。上述の設備を完成して空しく遺棄つゝある八割の油を活かすことも其の一方法であり、又別に既に滿鐵に於て着手せるオイル・セールの利用もあれば、石炭の液化や、低溫乾溜の方法もある（前節參照）。又現制度以上石油地質調査や、試掘の奬勵法々講ずることは當然なる要務であり、或は稅法の適用を改めるとか、液化及乾溜事業の保護及助成とか、國家として講じ得べき手段方策は必ずしも少きを憂へないのである（吾々が主張する政治の經濟化は卽ち是等の事業に就いて適切なる政策施設を行ふことに依り、國民經濟を豐かにすることを意味する）。

肥料の問題に就いても亦同樣の感を與へる。我が國の農村振興策として、農作物增收策として、最も適切なる方法の隨一ともいふべきは、前に說ける通り低廉なる肥料を十二分に農家に供給するに在る。然るにその肥料の爲に我が國が支拂ひつゝある金額は實に左表の如く至大である。

我が國の肥料輸入高（單位百萬圓）

年次	豆糟	油糟其の他	硫安	燐酸石	硝石	骨粉	硫酸加里	骸骨（其他共）	合計
大正十四年	九三	一四	三三	七	五	五	三	四	一六九
昭和元年	一一〇	一四	四五	九	八	四	三	三	二〇三
同　二年	八八	一一	三五	一〇	六	三	四	三	一六四
同　三年	七三	一三	三六	一二	七	三	四	三	一五八

備考――上表中油糟その他の肥料を合して年百萬圓乃至三百萬圓内外の輸出がある。

表に示せる如く我が國の肥料輸入高は年々一億五千萬圓以上二億圓内外に及んでゐるが、其の中最多額を占むるは豆糟と硫安である。然るに硫安は全部日本に於て生産可能なるものであり、豆糟と雖も其の性分を化學的に分解すれば大部分は窒素なるが故に、硫安を代用することに依り、豆糟の七割内外を節約し得るのである。故に我が國の硫安生産額だに増加せば前表の輸入額中より、少くとも八千萬内外を減少することになる。

近年我が國に於ける硫安事業は、民間企業家の手に依り着々生産を増加し來り、主として英獨よりする輸入品に對し應戰の形に在るが（最近には外國品の廉賣に攻め立てられ意外の苦境に置かれてゐる。其の結果として硫安一噸の價格は昨年四月の最高値段百三十餘圓から、今は九十圓内外にまで低落し、そして外國のダンピングに對抗する爲め當業者間には既に關税政策に依る保護論なども唱へられてゐる）。併し乍ら我が農家の立場よりしては成るべく肥料の安きを要求するのみならず、國民經濟上に於ても亦食料政策其の他の關係より言つて、能ふ限り肥料の低廉なるを利益とせなければならない。故に事業者としては最新式の設備を整へ生産費の切り下げに努力すべきは勿論であると共に、國家として當業者を保護するに必要なる方策を講ずるを至當とする――既記滿鐵に於ける計畫に在つては最新式の設備に基き一噸當り原價四十五圓内外、之に包裝費を加へても五十圓にて足ることになつてゐる。隨つて此の種の事業が實現したとせば、今日傳へらるゝ英獨のダンピングの如きは未だ必ずしも恐るゝに及ばないことになる――但し茲に吾々は既に問題となりつゝある保護關税案を持出さうとするのでは無い。さりとて又能率の低き官營論を主張せんとするものでも無い。それよりは經濟國策の全局より考察したる徹底的施設を急務とするのである。

例へば我が國に於ける窒素肥料全部の輸入總額を以て、之を化學成分に換算する時は硫安約百五萬噸に該當するのである。而して之が製造に必要なる企業資金何程かといへば、約一億圓を以て足れりとする。即ち此の一億圓を適當なる方法の下に企業運用すれば、我が内地に於ける輸入肥料一億圓の

代用生産を擧げ得べく、隨つて同額の輸入品を驅逐し能ふのである。これ寧ろ餘りに易々たる事業と解せらるゝ程に簡單にして而かも有利なる肥料自給策ではないか。

この方策は製鐵の場合に於ても同樣である。我が國に於ける鐵鋼類の輸入量を假りに百萬噸と見積り、之を標準としての概算的計畫を數字に現はせば、之に要する企業資金は約一億五千萬圓である。其の中、約七千五百萬圓內外を建設材料購入の爲に外國に支拂ふとしても、それは一回限りに過ぎない。而して此の資金に依つて一億圓の鐵鋼を生産するに於ては、その五分の四に該當する八千萬圓は燃料、勞銀及利子等の形に依りて國內に落ち、唯だ殘りの二千萬圓だけが鑛石原價及其の他の形に依りて外國に流出するだけである。故に國際貸借關係よりいへば、最初の建設材料購入の爲に支拂ひたる七千五百萬圓は一年以內にして償却し得ることになる——この計算は前述滿鐵の計畫とは全然別である——假りに一億五千萬圓の資金を倍加して三億圓と見るも、年々百萬噸、一億圓の輸入を擊退し得るに於ては國家經濟上至大の利益たるは言ふ迄も無い。何となれば燃料勞銀等の形に依りて國內に落つる金額は悉く國民各階級間に流通循環するのであつて、外國に流出するのでは無い。そして之に依つて國內過剩の勞力は新たに吸收の途を得、國民經濟を賑はすからである。

從來とても製鐵事業に對する國家の保護奬勵が相當に行はれてゐないとは言はぬ。他の産業に對しても關稅その他の保護策の講ぜられてゐるものもある。だがその方法が或は不徹底であり、若くは妥當を缺いてゐる點が少くない。之が爲に大量生産主義の外國品に對抗し難く、巨額の輸入を餘儀なくされるのである。その事業の小規模なる、その設備の不完全なる、施設の統一連絡なき、皆産業國策の基本が立つてゐないからではないか。

鐵の需要が——假令一時的には消長あるにもせよ——大體に於て將來益〻增加の趨勢に在るは前に陳べたが、肥料も亦然りである。現時世界各國に於ける窒素固定事業は既に生産過剩を告ぐる迄に發展を遂げ、我が國に對する英獨のダンピングも、それが主なる一原因となつてゐる。しかし之を我が國の經濟關係から見ればまだ〳〵大に此の事業を盛んにせなければならぬ理由がある。そは米穀其の他の農産物の多量生産を圖る爲には充分なる施肥を必要とするからであり、農家をして充分なる施肥を實行せしむる爲には價格を低廉にして其の供給を豐富にせねばならぬ。勿論硫安のみが肥料の全部では無くて別に燐酸、堆肥、綠肥等を使用してゐるが、それにしても今ですら約一億圓、將來には一億圓以上にも上るべき輸入を防遏することは第一の急務であるのみならず、農業の進步と共に今後農家の需要は益〻增加するに相違なく、朝鮮、臺灣等にも更に需要を喚起する必要は充分にある。加之若し生産費さへ安ければ、進んでは支那や瓜哇等に輸出せしめ得る望みもある。この故に歐米の狀態

は別とし、少くとも東洋、特に我が國に於ては尙此の事業を發展せしめなければならないのである。

唯だ問題は如何にして其の價格を低廉にするかに在る。關稅政策の運用に依る國家の保護は、此の場合に於ては需要者たる農家の利益と牴觸する。內地企業家を保護することの爲に價格を高むるが如き結果を見るに於ては、外國との農業競爭に於て不利であり、又農家をして豆槽その他に向はしめ、或は施肥を吝むの風を生じて農產額を減退せしむる虞れがある。故に國家の政策は事業の發展を妨げざる範圍に於て價格の低廉を圖るべく働きかけねばならぬのであつて、就中當面に緊切なるは低利の資金と事業の連絡統制とである。高き金利に加ふるに高き公課を以てし、更に原動電力の不廉、包裝及配給機關の不整備等を漫然無關心の狀態に放置するに於ては、根本理想とする農業發展の爲め、他國よりも低價なる肥料を供給し能はぬからである。

（七）重要工業の現勢と對策（下）

上來余輩は工業國策の代表的例題として製鐵、油及肥料の問題に稍〻多くの言を費したが、其の論旨は總ての工業に共通すべきものであり、本書の主旨とする所は敢て箇々の事業を對象としての考案では無い。要は國家及國民經濟の全局より觀察して緩急と輕重の取捨辨別を誤らざる用意だにあらば可なりである。余輩が主として基本工業に就いて立言せるも畢竟此の意味に外ならない。

但し基本工業の種目は上記以外に尙決して少しとせない。其の全部を擧げて之を攻究するは本論の目的上必ずしも其の必要を認めないが、しかし此の機會に於て更に機械工業及電氣動力に關して尙若干の言を添ゆるのことは敢て無用ではあるまい。

余輩の所見にして大なる過誤なくんば、現在多額の輸入を防遏すると共に、將來輸出能力の最も多かるべき事業として、機械工業及化學工業に由る生產物を重視せねばならないと思ふ。それで玆には機械工業に屬する下表を先づ揭げる。

機械類輸入額（單位千圓）

種目	昭和元年	同　二年	同　三年
自動車及部分品	一五、七三三	一八、二八二	三二、二四五
懷中時計及部分品	九、五三〇	七、三七四	七、九〇三
發電機及變壓機類	一〇、六九〇	七、〇三〇	七、四三二
其他機械及部分品	七九、七〇一	七一、五八一	八四、七三三
計	一二五、六五四	一〇四、一六七	一三二、一六三

備考――機械類の統計はその分類法の差異に依り數字を異にす。今唯その一を表出す。

即ち我が國の機械輸入額は年々少くとも一億圓内外を上下して居り、大正十四年の如きは一億六千萬圓にも上つたのであるが、一方輸出額はと見れば僅々一千五百萬圓乃至二千萬圓内外に過ぎない。勿論顧みて二三十年前に於ける我が工業界の狀態を回想すれば、今日二千萬圓の機械を外國に輸出し能ふに至つたことは大なる進歩に相違ない。又此の事實に依り我が國人の技術は習得熟達さへすれば決して世界何れの國にも遜色なく、遂には先進國を凌ぐに到ることの不可能ならざるを示す。例へば我が國民の考案に係る豐田式織布機械が世界的紡績業の中心地たるマンチエスターに据ゑつけらるべく其の特許權を購はれたるが如き、又現に米國航路に使用されつゝある淺間丸は世界の優秀船として各國に承認されつゝあるが如き、その他實例は稀では無い。斯く外國との競爭に對抗し得る十二分の能力を持ちながらも、而かも依然として輸入國の地位に在るは寔に遺憾といはねばならない。

言ふ迄もなく現代は往時の手工業本位の世界にあらずして所謂機械萬能の世の中である。精巧にして而かも價格低廉なる機械こそは鐵道、電氣、紡績、製鐵、造船、其の他總ての産業に重大なる關係を有し、實際的には生産增加の中樞機能たる働きを爲すものである。殊に其の生産品の良質、多量、且つ迅速を旨とすべき近代工業に於ては、優秀なる機械力に依るの外、列國の商品に對抗して國際經濟戰の勝利者たり得る手段はあり得ない。然るに各種産業に缺くべからざる機械の製造が不完全にして尙内地に緊切なる要求をすら滿たすに足らず、高價なる外國品の供給に待つが如きは、我が産業經營の第一歩に於て既に一籌を他に輸すると異らない。

曩に余輩は米國に於ける機械工場の生産額が單に電氣機械の一種目のみにても三十億に上り、獨逸の如きも今より五年前、戰後經營の極めて多難なる時代に在つてすら、既に十億圓を製出しつゝあるに對し、我れは同じ種目に（而かも他と比較にならぬ小工業を併せて）尙五億二千八百萬圓程度の生産しか見出し能はざる事實を指摘して置いたが、此の電氣機械類は我が國現時の工業技術に依り殆んどその全部が内地にて製造し得るものなるに拘はらず、例へば變壓機にせよ、電力變成器にせよ、メートル積算計にせよ、依然需要の大部分を外國から購つてゐるのである。昭和三年の調査に據れば、民間電氣鐵道の使用しつゝある變壓機三百十五箇の中百九十迄が外國品であり、三百九箇の電力變成器中二百十六迄が輸入品である。又メートル積算計の如き千三百六十箇の中、内地品は僅々二百餘に止まり、他は獨、米、瑞等の製品である。既に扇風機や、電熱器の如きは三割以上も内地品が安價となつて居り、電球と共に立派な輸出品化してゐるに對し、他の機械類が尙舶來品崇拜時代の如き狀態を持續しつゝあるは、何としても國家の不利、國民經濟上の大損といはねばならぬ。

この種の實例は一層適切に自動車の上に現はれつゝある。米國に於ては人口五人に對し一臺の自動車を持つて居り、加奈陀は十人に一臺、英國の如きも三十七人に一臺、佛國も亦四十人に一臺の割合となつてゐる。それが我が國に於ては數年來激增したとはいへ、尙人口一千五百餘人に對して漸く一臺といふ有樣で、其の車輛數より見れば米國が二千三百萬臺、英國は一千二百萬臺、佛國九百萬臺に對し、日本はたゞの五萬五千臺しか無い（以上各國共一九二八年一月現在）。斯くの如き貧弱なる數字は蘭領瓜哇及スマトラ邊の近狀と相似たりで文明國中には殆んど見當らない。

隨つて今後自動車の需要は、たとへ一時的變兆を呈するが如き場合ありとしても、大勢上に於ては益〻普及增加するに相違ない。之を我が貿易表に徵するも大正十四年度に於ける自動車及同部分品の輸入額四百六十萬圓なりしに對し、三年後の昭和三年には一躍三千二百萬圓にも上つてゐる。この割合を以て今後十年の後を推定すれば、少くとも其の需要は三十萬臺を超ゆるに至るであらう。而かも其の價格を問へば最低一臺一千圓を下らず、其の優れたるは一萬圓以上の高値を呼んでゐる。平均して一臺二千圓とするも三十萬臺の總額は六億圓である。然るに之を國內に於て製造すとせば嚴密なる計算より見て、其の所要の地金及ゴム、硝子、綿皮等の原料代は一臺約三百圓內外にて事足るのである。それ以上の價格は概ね工賃運賃雜費等であり、工賃の大部分は勞銀である。今假りに將來價格の低落を見込み一臺平均一千圓の安値を以て三十萬臺を作るとして、其の總額は三億圓となり、而して此の內の七割卽ち二億一千萬圓に相當する勞働力は之に依つて活用されるのである。二億一千萬圓の勞働力は一人一ヶ年五百圓宛の給料に換算して實に四十二萬人の工場從業者を使用する事に該當し、一從業者一戶五人の家族を養ふとせば二百萬人以上の人口を消化し得ることになる。單に自動車の一種目ですら斯くの如し。輸入防遏策としても、國民經濟充實策としても、機械工業の有利なるは推して知るべきである。況んや近域に支那を始め前途有望なる需要開拓地を控へつゝあるに於てをや。

轉じて更に電力事業を概觀せんか、これこそは纖維業と共に我が國工業界に於て最も顯著なる發達を示せるものであり、そして我が國產業界の全局面に亙り基礎的作用を爲すと同時に、國民生活改善上にも重要なる性質を有する事業である。我が國が山岳起伏して平野少きは耕作に便ならずと雖も、其の反面には卽ち地勢の傾斜多きを物語り、殊に南北兩方面より來る氣壓の多變に衝擊せられ、雨量の豐かなることに於て水力電氣の絕好條件を具備しつゝある。如何に資源の貧弱を喞つ人々と雖も、此の點に就いては大に天寵に感謝し、環境の勝れたるを祝福せざるを得ぬであらう。帝國統計年鑑及遞信省編電氣事業要覽に依つて近況を見るに、

我が國の電力事業（發電力、單位千キロワット）

	水力	火力	計
大正十三年	一、四七四	七六三	二、二三七
同　十四年	一、八一四	九五四	二、七六八
昭和　元年	一、九六六	一、三三七	三、二〇三
同　二年	二、一二一	一、三五六	三、四六七

外に官廳及自家用施設に係る水火兩者を合して昭和二年約七十八萬キロワットあり。

之を大正の初め約六十萬キロワットなりしに比すれば約六倍、官廳施設及自家用の分を加ふれば正に七倍以上の躍進である。更に電氣事業別投資額を一瞥するに、

電氣事業投資額（單位千圓、昭和二年）

事業別	拂込資本金	社債及借入金	計
電氣供給	七九〇、八五五	五一四、七四七	一、五〇六、〇四〇
電氣鐵道	二六六、五〇二	一九一、二九七	四五七、七九九
供給電氣兼營	一、六一八、七九六	七九九、九九六	二、六七七、一五五

投資總額は既に約四十二億圓に上り、その事業數は約六千、電燈箇數三千二百萬、燭火數六億。而して電動機裝置數は約三十四萬、此の電力約百八十萬キロワットである。殘餘の電力は主として電燈と電車に使用せらるゝ。

産業發展の一大要素たる動力が、豐富にして且つ永久盡くる所なき水力を利用して電化せられつゝあることは、誠に悦ぶべき事實であり、今後全國の水源を活用するに於ては一千萬キロ、若くはヨリ以上を期待し得べしと稱せられ、石炭及石油の有限的なるに比較し一層心强き資源である。唯だ併しながら從來我が國に於て開發せられたる電氣事業は概して各個單獨の企業目的及利害に立脚して施設經營を進め來れるが爲に、當初より特に其需給關係に於て往々調節を缺ける憾みなきにあらず。相互間に送電の連絡統一を缺き、資本の二重投資又は其の設備に於て重複の狀態を呈してゐる所も少くない。之が爲に河水の利用も經濟的ならず、設備や規格もまち〳〵となり、有無共通の便を失ふに止まらず、投下資本の有效率を減殺すること尋常では無い。その結果として電力が高價になる。需要者に對して低廉に供給することが出來ない。低廉ならざるが故に消費を刺戟する力が遲鈍になり、一方事業界の要求が發電力の增加と伴ずして其處に供給過剩の現象を生ずる。我が國最近の狀態は蓋し此の

事實を物語つてゐるのではないか。隨つてそれは絶對的意味に於ての供給過剰でも無ければ、勿論將來の發展を阻止すが如き絶望的のものでも無い。まことは工業の基本動力、殊に四十餘億圓の巨資を投下せる重要事業にも拘はらず、之を不用意に看過し來れる政策的缺陷に其の禍因を見出すべきではないか。

成る程日本の電力事業が他の産業に比し近年眞に目醒しき躍進ぶりを示せることは前述の通りである。而してそれは一面天惠の水力を利用したるに發足し、他面には石炭及石油の高價なると瓦斯の普及未だ至らざるが爲でもあらう。歐米は概して水力に乏しく勢ひ動力は主として火力に依つて居り、從つて多年設備せる大量の火力機關が今も働きつゝあれど、それですら彼等諸國の電力設備は我れに比し大に優つて居る。卽ち一九二五年度の列國の發電力概況を一覽すると、米國の二千二百萬キロを超特級とし、獨逸は當時既に六百萬キロを有し、英は五百萬、佛も四百五十萬キロを使用して居るのであつて其の頃の日本の發電力總計二百七十萬キロよりは遙に多い。彼我の動力作用狀態は根本的に異れるを以て單なる數字のみを比較するは妥當を缺かんも、之を動力設備の全局より見て、火力は固より水力に於ても日本は未だ遙に彼等に劣れるに關はらず、僅かの過剰に悲鳴を擧ぐるが如きは、畢竟する所、一に産業の未發達に基くのであつて本來は甚だ心外とすべきである。我が國の水力電氣の總量一千萬キロ程度の如きは、今後寧ろ易々と消化するまでに各般の産業を興隆せしむるにあらずんば、國際經濟戰に對峙して國民生活の平調を期し難いのである。

電力の需要は將來殆んど無限大である。現在に於ても例へば農村の電化や、家庭の電化は極めて小部分に限られて居り、たゞ數に於て電燈の普及せる以外、電熱及電力の利用率は尙甚だ卑い。故に進んで工業的に農村漁村への電化が行はれたとせば、其の需要は劇增するに相違ないのである。元來我が國民殊に都會人が、今日尙薪炭を燃料とする如きは國家經濟の大局より見て不利益の甚だしきものであつて、一億圓の木材の輸入額やパルプ原料の前途を考ふれば、一日も速に山林擁護の計を怠つてはならないのである。薪炭の消費一年二三億圓を節約する爲には瓦斯及電熱料金を低廉ならしめるが先決要件であり、瓦斯が石炭を原料とするに比し、電力が無限の水力を利用する點に於て、國家經濟上の着眼はヨリ强く後者に注がれねばならない。然るに其の電氣が我が國に於ては瓦斯よりも薪炭よりも高い。所謂電力の過剰とは、之を他面より觀察せば畢竟料金不廉の反映に外ならない。

同時に吾々は國民生活の改善と社會政策上の立場から見て、電熱及電力の普及と低價策が必須の要件なるを痛感するものである。電燈がランプに變つた如く、將來國民は電熱と電力とに依つて必然に生活樣式の改善を促さるべき趨勢に在る。それは決して贅澤の爲ではなくて文化の向上と經濟上の關

係及能率增進の要求に適應せんが爲である。隨つて又國家は社會政策的意味に於て之が普及と低廉策を講ぜねばならぬのであつて、今日既に電氣設備の存在する所、如何なる寒村にも如何なる陋屋にも電燈を見ざるなきに徵しても、それが聽て極めて重要なる國民生活の必要品であり、衣食住と共に不可缺の要具たるに至らんは決して遠き未來の事とは思はれない。既に今日に於てすら電力の總販賣代金は五億圓內外と言れて居る程國民生活の一大要品となつて居るのである。

斯く電氣電力事業が我が產業發展上に於ける基本的要素であり、併せて國民生活上普遍的必需性を有するの事實を認識するに於ては、國家は須らく此の事業に對して一日も速に適當なる方策を講ぜなければならない。

抑も水電事業は其の性質より見て、他の各種產業とは趣きを異にする點が多い。第一に其の水力は國家の所有に屬する河川を利用するものであり、河川は又水運及灌漑等の諸方面に至大なる關係を有するのみならず、其の源泉たる山林に就いても國家として切實なる注意を缺いてはならぬのである。此の意味に於て水電事業の如きは寧ろ國家の手を以て經營するが至當であり、幾多の利用方面を有する河川をして動もすれば一部的にのみ私に使用せしむるは甚だ不經濟、且穩當を缺くともいひ得る。前に吾々は官業整理の急務を指摘し、政府が商工業的事業を行ふことの妥當ならざるを切言したが、水電の場合に於ては事理を異にする。それは郵便及電信の官業たるを容認すると同樣、之を營利事業として見るよりは、國家公共の事業として經營すべき必然的理由を有するが故である。官業の最大なるは鐵道であるが、日露戰役後其の主要線路を國有とせるは主として國防上の見地に出發したのであつて、直接的には必ずしも產業の發展若くは社會政策的施設として打着せられたものでは無い。陸軍造兵廠、千住製絨所、海軍工廠等の如き亦軍備關係に基くものであり、而かも是等の官業は時代の變遷に伴ひ今や民間に於ても十二分に其の機能を發揮し得るのみならず、之を民營に移せばとて、毫も國防上に支障を生ぜず、却つてヨリ善き能率を上げ得る。製鐵所の如きも亦然りである。

之に異りて水電事業は上述の如くその資源が國家の公有物であり、あらゆる意味に於て國民經濟、國民生活と緊切なる普遍的關係を有するものである。故に之を單なる營利的事業と爲すの可否は極めて冷靜に考究さるべきであり、現在此の事業に附帶する各般の缺陷と弊害とは、最初より國家統制の方策を樹立せざりしが爲にもせよ、根本的には國家公營の手段を執らざりし結果とも解し得られる。卽ち資本の二重乃至數重投下といひ、規格の不統一といひ、水利權の爭奪といひ、水運及灌漑上の故障といひ、概ね營利的事業の競爭に起因する事象たらざるは無い。勿論今假りに水電の國有化を計畫すとしても、それは專ら發電及送電を管掌するに止め、之を一般に分つの役目は民間に委ねる。電燈、

電熱及動力用の何れを問はず、需要家の求めに應じて直接に公衆と接觸し配電供給することは、例へば官營煙草が民間當事者の手に依りて販賣せられつゝある如く一定額の利益制限法を設けて事に當らしめば足る。但し政府としては專賣事業に於ける如く水電の經營に依つて何等國庫の收益を圖つてはならい。蓋し電力國有の必要は啻に事業本來の性質に由るのみならず、料金の値下と利用の普及を眼目とし、之に依つて產業を振興し、國民生活の改善を促進する。別言せば卽ち國民經濟の發展と社會政策上の要求に應ずることを絕對的要件とせなければならぬが故である。

既にいへる通り現に我が國に於ける電氣事業投資額は四十億に上つてゐるが、今若し上記の方策に基き此の重要なる設備を國有に移すとせば、水火電に亙り概算二十億乃至二十五億圓內外の買收費を要するであらう——政府は發電及送電設備のみを買收せば足るのであつて、一般需要家に對する電氣電力の供給は總て民營と爲すを可とするが故に、此の方面の事業設備は敢て買收の要なし——假りに之を二十五億と見積り、六分利證券を發行すとせば、現在民營に依るものは約一割の配當、約八分內外の社債利子を當然の支出として採算され、其の間既に多額の利益あるのみならず、別に諸稅公課等を要するが上に、更に各會社個々の經營の爲め電力の過不足に由る損失も亦決して少しとせざるに對して、これを國營と爲すに於ては是等諸般の點に多大の差異を生ずるを以て、民營に比し著しく支出を減少するに相違なく、それだけ料金を低廉とならしめ得べきは極めて明瞭である。加之現在の電力設備は概ね大戰時代物價最高の時に於て計畫せられたるものにて、平均發電所費一キロ五百圓以上にも當つてゐるが、將來政府の手にて新たに施行すべき工事費は大體半額を以て足るべしと言はれて居る。更に冬期渴水時に於て火力の補助を不必要とすべき各大湖水に依る水力の補給、若くは同一目的の爲に必要とする貯水池設備の如きは極めて緊要且適切なる事業なりと雖も、そは諸般の事情に徵し到底營利會社には望み難く、國家の力を以て初めて實現を可能とするのである。故に是等の計畫をして各〻遺憾なからしめ將來大に電力料金の原價を低廉ならしむる爲には國營を有利とするであらう。

無論之を國營に移すに當りては特別會計を設定し、國庫證券に對する元利償還を其の範圍內に於て自辨せしむるが故に、一般歲出上には何等關係なく、厘毛と雖も國民の負擔を增加せずして低廉なる電氣電力を利用し能ふことゝなるのである。

率然として之を聞けば二十五億圓の金額は寔に巨大なるが如しと雖も、實質的には唯だ從來の株券が國家證券と交換するだけであり、國家及國民の富と資產とには些の變動も無いのである。而かもその結果に於ては上述の如く發電原價其の他諸般の差異を生じ、需要者の利益を增進すると同時に、事業の統一に至便ならしめ、需給の關係を圓滑ならしめる。加之我が國の電氣電力事業は尙發達の中途

に在りて今後に必要づけらるべき未開拓の領域、卽ち將來少くとも更に七百萬キロ內外の水電を如何に統制すべきかの問題に對して、根本的解決を與ふる方策は、國營の一事に依つて立どころに大定され能ふのである。現在四十億の投資を巨額なりとする人々は、十年乃至二十年の後に於て八十億にも百億にも達せんとする此の重大事業を如何に見るであらうか。若しも成行きのまゝに放任して深く考慮せざるに於ては益〻湖川水力の利用價格を低下し、水運灌漑等幾多地方的の問題を滋繁ならしめ、此の間、企業者に取りても需要者に取りても不利なる狀勢を迫出する虞れなしとは何人が斷言し得やうか。問題は啻に現在の缺陷と料金の不廉なるに止らずして、實は寧ろその將來に懸つてゐる。故に吾々は之を民間營利事業のまゝに置くよりは、國家公共事業として收益關係を離れ、以て其の普及と低價策に徹底することの妥當なるを思はざるを得ないのである。

固よりこゝに陳ぶる所は畢竟余輩一個の試案であり、率直には國策上より見たる第一案として之を提擧したのであるが、若しも第二、第三案を問ふものありとせば、例へば半官半民事業として適切なる統制策を樹立すること、又は電氣電力事業に限り國家特別の保護及監督法を布くと同時に、其の收益に對して適度の制限を加へる如き方法もあり得る。又統制上の一手段として關係營業會社の共同出資に依る一大監理會社を起し、建設、規格、連絡等を管理せしめ、其の經營を共通的ならしむると同時に、政府は該監理會社に參與し根本的に水利利用の途或は建設經營の監督、土地收用等に對する手續を統一合理的ならしめる。而して事業資金に要する社債に對し政府の保證を與へて低利金融の便を圖ると共に、利益配當其の他に關し公正なる規定を設けて資本主義の弊を排除し需給の調節に任ずる——この方法は結局官民合同の監理組織に依つて事業を經營することになるが——斯くして主要なる發電設備、送電幹線竝に補助機關等を相互に連絡せしめ、規格を統一し、利用能率の增進を圖ることも時宜に適する一案たらんを信ずる。

若し夫れ水源涵養の爲には是れ又國家の政策として山林の保護助長に努力すべきであり、殊に貯水池の設定を條件づけることに依り、灌漑問題及減水季節の準備用等に備ふるは極めて緊切と考へる。又水運問題に關しては愼重なる調査機關を置き、國民經濟の大局より判斷して可否を決すると共に、相當の對應策を設くる等、政府に於て當然に講究すべき各般の肝要なる施設が今日尙ほ等閑に附せられ、或は不用意に放任せられつゝあるは吾々の甚だ遺憾に堪へざる所である。

同時に當面の改善案について一言を附加すれば、不用電力の利用、卽ち例へば現在無駄に放流しつつある深夜水電の如き、產業奬勵の趣旨に基きて適當なる指導と活用方法を促進すべきである。現に一キロ千圓にも當る建設費を投下せる貴重なる水力と其の設備を無價値に眠らしめつゝある如き實例

もあり、一般に午後十時以後は電力に餘裕を生じ、殊に深夜より曉にかけては殆んど需要の大部分が停止の狀態を呈する。故に此の過剩水電を活かすに於ては極めて低廉なる料金を以てしてもヨリ善き經濟は立て得らるゝ筈であり、動力だに低廉ならば夜間作業に可能なる事業も多々見出され得べく、勞務者の如きは二部制又は三部交代制を適宜採用すれば可なりである。既に鐵道、汽船等晝夜間斷なく活動せるもの決して稀ならず、又夜間に電熱を貯へて晝間に之を利用する方法も多々あり、窯業、化學工業、浴場、農家の排水灌漑の如きは、各國に於て既に巧に夜間の電熱及電力を取り入れることに成功してゐる。政府の指導と當業者の開拓宜しきを得ば、あらゆる方面に展開の餘地綽々たるを疑はない。

この他尙各種の手段と方法も考へ得られるが、要するに根本的には料金を低廉にし、サーヴィスの優良と合理化を圖るにある。そして多々益〻電力の供給を豐富にし、國家を擧げて一大電化國たらしむるまでに普及せしめることを理想とする——そは既に露國及伊太利に於て國策となりゝあることに注目を要する——今日我が國は電光卽ち燈火用としての利用と普及については世界有數の地位にまで進んでゐるが、電熱及電力の二者は尙甚だしく遲れてゐる。前來吾々が主張力說せる農村の電化に就て見るも、當業者の誘導と有識者の努力を以てして昭和三年度に於ける此の方面の電力利用高は全國五百萬の農家を通じて總量僅に五萬九千キロに過ぎない。之に比すれば家庭の電熱化の方がまだしも稍〻優つて居り、其の使用戸數約十萬、契約容量十五六萬キロと稱せられる。だが斯かるは尙初期時代の數字といふべくして、現在三四百萬キロワットの電力の如きは農村用と家庭電熱用とに依つて消化さるゝ位の程度にまで進步普及せしむべきであり、之に工業用その他の需要を加へて水力一千萬キロ以上火力を以て之を補充する程の盛況を呈するに至つてこそ、我が國の產業は如實に勃興し、國民の生活狀態は面目を新たにするであらう。否、其の程度に高めることが單なる理想にあらずして、須らく實際上の計畫たらしめねばならぬのである。

繰り返していふ、電氣電力は既に國民生活上の必需品であり、永久に低廉なる動力を供給することは、あらゆる產業の基本的要素である。故に其の普及と低價策とは社會政策上にも重大なる意義を有すると共に、國家及國民經濟の全局に最も緊切なる關係あるを知らねばならない。其處に國家としての方策が當然に急務づけられてゐるのである。單なる供給區域協定問題以上、若くは所謂規格統一問題以上、ヨリ徹底的なる政策の確立と運用とを必要とする所以である。

以上に於て吾々は產業國策の遂行上、最先の急務と認めらるゝ數箇の基本工業を例題として大體の

所見を開陳した。而して製鐵、油、肥料、機械、電力等何れの事業も尙ほ我が國に於ては未完成であり、不統一の憾みを禁じ能はざる狀態に彷徨し、或は低迷しつゝあることを痛言した。それは卽ち我が國の全産業、然り殆んど全部の産業に共通する弱點の總評であり、現實暴露である。それが又我れに相當の能力と技術を持ちながら、依然巨額の輸入の杜絶せざる所以であり、同時に國民經濟を壓迫し國際貸借の均衡を失はしめつゝある主因の第一でもある。而かも其の未完成と不統一とは、一に國家の政策が國民生活の向上發展を基調として考案し運用されてゐない結果に外ならない。此の缺陷を取除くにあらざれば、我が國の工業は何時まで經つても優勢なる外國品に對して弱者の地位に甘んぜねばならない。隨つて又何時まで經つても經濟國難打開の幸運には見舞はれない。故に我が國民はこに一大勇斷を振つて根本的徹底的なる産業爲本主義の國策を確立するを要する。單に豫算案の款項目をいぢくり廻すことが國民經濟建直しの焦點では無い。嵐の前に灰を振りまくが如き施設が決して有意義なる失業救濟では無い。總ては姑息であり、彌縫であり、眼前口頭的であり過ぎる。

眞實なる産業國策は名實共にあらゆる方面に亙つての改造を要求する。形式的の轉換ではなくて本質的なる建直しである。そして大規模に、有機的に、經濟參謀本部を中心として國家總動員を行ふ底の改造でなければならない。所謂經濟參謀本部は卽ち産業總司令部の別語である。總ての組織命令は其處に統制され、其處から發動する。經濟國難に自覺せる內閣は無論その參謀本部であり、總司令部たるの任務を盡すが當然である。而かも我が國民が現に直面しつゝある當相は如何に在るか。時の爲政者が自覺し勇斷するに前立ちて、國民有識者が先づ自覺し勇斷しなければならぬのである。

第十一章　輸出增進策

本章に述ぶる所は前々章の農村振興策、前章の工業發展策と因果共通し、輸入防遏卽輸出增進策たること勿論なれども、今唯だ便宜上、前者と引離して假りに此の一章を置きたるのみ。

(一)　一般的方策

産業國策の究竟目的は改めて說くまでもなく一面には輸入を防遏し、他面には輸出を增進するに在る。前者は先づ順序として國民生活の必需品を自給することに出發すべきであるが、しかし單なる自給を以て事足ると爲すは未だ世界人としての要素を具備せざる島國的見地の域を脫し能はぬ。苟くも國際的經濟戰に對處するに方りては他面輸出を增進し、依つて以て優越的地位を確保しなければならない。輸入防遏と輸出增進とは不可分なる因果的關係を有するものであり、たとへ其の一を充たし得たりとしても、若し他の一を缺くに於ては未だ國民經濟上の施設を完うせるものとはいひ得ない。

前章及前々章に於て、吾々は農工兩産業の現勢を考究するに際し、主として輸入防遏に觀察の焦點を置いたが、是れ唯だ說明の便宜に由るのであつて、其の眞意は無論輸入防遏と同時に、輸出の增進

を考慮し且つ期待しての立案である。例へば農産物の代表的主目として取扱ひたる米の問題にせよ、將た工業の例題として記述せる鐵、油、肥料及機械等の問題にせよ、それは單に外國品の供給に待たざる迄に國産品を製出し、以て自給自足を圖れば足るとするの意味では無い。期する所は國內の需要を滿たすと同時に、廣く海外に販路を開きて大いに之を輸出せんことを要望してのことである。此の意味に於て輸入防遏卽輸出增進策であり、既述の農村振興策も、工業發展策も、本來は決して對內的需給を限度とする政策たるべからずして、ヨリ强く、ヨリ切實に、對外的飛躍を豫想しての國策たらねばならないのである。

さて然らば如何にして輸出增進の目的を達成すべきか。一般的原則よりいふならば、總ての商品を國際化することである。殊に我が國民の日用品をして單なる日本的需要限りのものと見ず、世界的需給關係に適應する國際的商品としての價値性を具備せしめる。第二には氣候、原料關係竝に國民性に最も適當せる工業、殊に經濟的に列國と競爭し得る確信を有すると共に、內外に亙り需要廣き商品の製産を奬勵すべきである。この用意と認識とを實際上に發揮するにあらざれば、列國間の經濟的爭覇戰に突進して其の優强者たることは容易に望まれないのみならず、世界の大勢は如何なる商品、如何なる地域たるを問はず、時々刻々にあらゆる生産物の國際化を促しつゝあるのである。そは南洋の天

産物たる砂糖が我が製菓業者の手に依り加工されて他國に輸出せられ、或は加奈陀及米國の小麥が日本に於て粉と化し、或は全然輸入原料に依るゴムと綿布より成る足袋が麥粉と共に支那方面に供給せらるゝが如く、現前顯著なる例證が極めて明瞭に之を語つてゐるのみならず、他方に在つては日本の特産物と見らるゝ傘、下駄の類すら支那より我が國に輸出されつゝあるが如き現象に徵しても、直ちに首肯せらるゝ事實であらねばならない。

固より箇々の商品、箇々の生産物中には專ら國内用のものもあれば、輸出向きのものもある。併しながら、それは各國民それ〴〵の好尚、習慣、圖樣等の差異に由る第二次的の現象であつて原則的、本質的には生産品の國際化に基礎づけられずして輸出增進の途は見出し能はぬ。現に廣幅物の絹布、綿織布等の如き我が國の重要輸出品が立派なる國際的商品であることは何人にも認知せらるゝ所であるが、これと同樣に我が國の貿易關係を改善し、輸入國の地位より輸出國の地位に轉ぜしめんが爲には、國民の日用品そのものからして先づ國際化せしむる程度にまで開眼しなければならない。此の自覺、此の條件を忘れて輸出の多からんを欲するは鎖國時代の經濟觀に彷徨するものたるを免れない。

然るに我が現在の實情は果して斯くの如き國際商品化の趨勢に適應すべく妥當なる方針を執つてゐるであらうか。又國民の多くが果して此の原則的條件を意識的に體得してゐるか何うか。朝野の識者は頻りに輸出增進の急務を說いて居り、又國民の必要とする衣料、食料及住料等が立派な國際商品として我が國に輸入せられてゐることを十二分に知悉してゐる筈である。それにも拘はらず、我が國の生産物、殊に日用品をして國際化せしむることの必要と努力とに就いては、生絲其の他從來世に知らるゝ特殊品以外、殆んど措いて問はざるが如き觀がある。かゝるは未だ日本をして世界的輸出國たらしむべき根本の要素と資格とに缺如するものといはねばならない。

實をいへば明治以後の政府は大に實業を奬勵し、經濟的對外發展の必要を高唱し來れりと雖も、それは唯だ月並のテーブル・スピーチたるに過ぎずして、具體的には何等徹底的方策が確立されてゐないのである。それ故に國家の外交にせよ、教育制度にせよ、國民經濟の要求に適應すべく基礎づけられてゐないのみならず、當面の主務官廳たる農林及商工兩省の如きすら、明確なる方針と施設とを持合はしてゐない。例へば米、麥、大豆等の輸入國でありながら、我が農作物の國際商品化に關する指導方法に就いては極めて狹き範圍に限られて居るが如きはその一證であり、就中重要なる工業生産物に關しても、ちぎれ〴〵の方策以上に殆んど何ものをも見出し得ざる狀態に在る——殊に現時の消極内閣に至つては曩に田中内閣時代に決定せる各種産業助成の費目を削除し、或は一旦前内閣の貿易局新設豫算を切棄て置きながら、忽ち自ら之を復活するが如き撞着矛盾の行動を演じつゝありて、徒らに其

の無理解又は不見識を暴露しつゝあるを遺憾とする。尚忌憚なく言へば根本的に產業の發展を圖らずして何の輸出增進があらうか。生產の增加を後にして單に貿易局の新設を急ぐが如きは、本末顚倒であり、國產品なくして如何に愛用の途ありや。それは單に消極主義の悲哀を自ら慰むるに過ぎざるのみ——斯くの如くにして貿易の增進を期待するは寧ろ餘りに小說的といはねばならない。

吾等は前に現行敎育の缺陷を指摘して實業化の緊切なるを力說し、又外交及國防の經濟化を提唱したが、顧みて今日の經濟國難に徵する時、我が國の敎育は果して如何なる認識を與へられ得るか。中學、師範、高等學校、殊に多量生產の實況を示しつゝある法科系の敎育機關に依り、如何なる效果が待設けられ能ふか。又例へば我が國現時の外交を見ても、刻下の國情に劃切なる如何の働きを爲しつつありや。日本の海外に要求する所は低廉にして豐かなる原料の供給と我が輸出貿易品の販路開拓である。而して之が爲には支那、露西亞、印度、南洋及米國等に對する外交上の努力が何よりも肝要であらねばならない。然るに近來日支の關係は外觀上好轉を傳へられつゝありとはいへ、其の眞相は果して如何。最も密接なる利害を有する滿蒙問題に就ては全然拱手傍觀せられて之が解決點を見出すべく一步も前進せざるのみならず、恰も滿蒙の存在を忘るゝものゝ如く何一つの努力をさへ傳へられてゐない。その上に新任公使は所謂アグレマンの關係に妨げられて本國に立往生の姿を呈し、帝國の威信を疑はしむるが如き狀態を持ち續け、何よりも重要なる日支關稅條約の交涉を一代理者の手に行はしめてゐる。其の結果として將來對支貿易に不利なる協定を甘受するに至るなきかは識者の深く憂慮して已まざる所である——現に最近の報道に隨へば今回の交涉に由る日支新關稅は甚だしく我が國の諸產業を壓迫し深刻なる打擊を對支通商上に與へる虞れなしとはいへない。互惠協定の實施期間を當初の十年案より極度に短縮して僅に三箇年に讓步したるが如き、日本側互惠品目の範圍を狹隘にし、從來の對支輸出總額の約六割までも支那の關稅自主權を承認したるが如き、更に我が互惠品目の大部分に對して從價二分五厘引上權を留保せしめたるが如き、何れも妥當なる協定とは認め難く、尙この他にも種々の缺陷が既に各方面から指摘されてゐる——是れ卽ち國家の外交が國民經濟の要求に出發せず、貿易の增進を重點として考案運用せられざるが爲に外ならない。

前者と同種の實例は對露外交にも既に示されて居り、就中ポーツマス條約に依つて獲得せる漁業權すら屢〻圓滑なる進展を阻まれてゐるではないか。隨て彼我の經濟的協力よりする東露の開發は前途遼遠であり、同方面に於ける外交上の施設と對策とは殆んど何ものをも見出し能はざる實情に在る。更に印度の綿布關稅引上といひ、濠洲に於ける我が絹布の壓迫等といひ、問題は各國それ〴〵の政策に立脚するにもせよ、此の間我が國の外交が經濟產業の見地に如何なる働きを爲したりやと問はゞ、

單なる形式的交渉以外、事前に於て有意義なる活動を示せる事實あるを殆んど知り能はぬ。

羅馬は一日にして成らずといふが、凡そ産業の振興にせよ、輸入の防遏、輸出の增進にせよ、之を實現せんが爲には國家及國民の何れもが其の目的を達成するに必要なる方策を確立し、あらゆる努力を集中するにあらずんば結局砂上の樓閣たるに過ぎない。故に日本をして輸出國たらしむるには、國家百般の施設が之に適應すべく準備づけられねばならぬと同時に、一般國民も亦廣く世界を相手として活躍するだけの用意を缺いてはならない。此の準備と用意とを持合はずして徒らに輸出增進を口にすとも、そは單なる机上の雄辯であり、實際的には何の用をも爲さない。然るに我が國の現狀は上述の如く國家として未だ明確なる具體的方策が無く、教育も外交も其の他所要の機構が此の目的を達成すべき基礎の上に運行されてゐない。斯くては何程輸出增進の急務を高調したればとて、なか〳〵に實績の擧るを期し能はぬ。

それで吾々は先づ一般的原則論として我が國民日用品の國際化を圖ること、そして國家の方策と各般の施設を確立改善するの要務を略述したのである。前內閣は其の一手段として輸出補償制を立案し之を現內閣に引繼いだが、それは固より輸出奬勵の局部的方法に過ぎない。又輸出品に對する運賃の低減若くは拂戻の如き、既に各國に採用せられつゝありて、是れ又局部的補助の一方法に過ぎないのである。更に根本的なる要件としては矢張り積極的産業發展策に依る輸出適當品の多量生産と良品低價であり、如何に輸出を增加せんと欲するも世界的需要を有する適品無くば海外に供給すること不可能なると同時に、如何に國産を奬勵すとも、良品低價にあらざれば以て輸入を防遏し、國際經濟戰に對抗し能はぬのである。故に根本的には一日も速に産業立國策を樹立し、國家全局の機構を産業經濟本位化せしむると共に、國民全部が輸出國民としての要素を具備するまでに自覺開眼しなければならない。そして國家は外交、國防、教育、交通、金融、その他あらゆる機關を通じて國際經濟戰に對處すべき施設を講じ、適切なる指導、奬勵及保護を與へる。いはゆる國際貸借の改善も、金解禁に伴ふ善後策も、國民經濟の擴充も、失業問題の解決も、眞實には這般の積極的方針を措きて其の可能性ありとは覺えない。隨つて消極政策の手に持ち扱はるゝ局部的國策の如きは本質的に無價値なる閑戲にあらずんば貧弱なる彌縫策に過ぎざることを悟らねばならない。

（二）四箇の觀點と我が國の地位

輸出增進に關する一般的方策に就ては既に前節に略述したが、我が國一部の人士間には吾々の提唱しつゝある積極的政策に對し今も尙種々の悲觀論や懷疑見を挾むものがあり、之が爲に國家として執

るべき當然の對策も、政府に於て行ふべき當然の施設も阻碍され、若しくは極めて姑息なる枝葉末節の事のみに心を奪はれつゝある。而して是等の人々の主張する所を聞けば、第一は依然原料問題に躊躇し、第二は技術問題、第三は資本問題、第四は販路の問題等に低迷しての消極論たらざるは無く、而かも其の大部分が論者自身の頭腦的錯誤にあらざれば、舊時代の鎖國的經濟觀に出發する謬見多きを憾む。

第一の原料問題については既に前章工業發展策の中に說明して置いた通り、現に英獨佛等の何れを見ても、皆原料の輸入國であり、大に輸出を增進せんと欲せば、原料品輸入の更に多きを必要とする關係に在る。試みに英獨兩國の例を取るならば、

英國の輸出入主要種目（單位十萬磅、一九二八年）

	輸入額	輸出額
食料及煙草	五、三一九	五四二
原料及粗製品	五、三四八	七〇一
完成（製造）品	三、一八〇	五、七八六

獨逸の輸出入主要種目（單位百萬麻、一九二八年）

	輸入額	輸出額
食料及煙草	四、一九六	六〇八
原料及粗製品	七、二四七	二、二六九
完成（製造）品	二、四五八	八、五〇〇

一目して英獨共に巨額の原料及粗製品輸入國たるを知り得ると同時に、之を加工製造して完成品と爲し、以て輸出貿易の大宗たらしめつゝある事實を看取し得やう。假令原料購入の爲に對外支拂額の增加を招くにもせよ、そは單に一時的假拂たるに過ぎずして、製造工業の設備及能力だにあらば短期間に之を加工し完成品化する事に依り、大なる利益を獲得し多數國民に生活の途を與へ能ふことは、我が國の紡績事業に徵しても極めて明白である。この意味よりいへば、原料輸入は我が國に取つての榮養素であり、之を攝取し消化するの多々益〻大なる程、國民經濟を優强ならしむる所以である。隨つて經濟外交の要點は圓滑に豐富低廉なる原料を外國に求めるにある。

第二の技術問題に關しては歐洲大戰當時の試錬に依り既に製作工業の大部分は製造可能なることを立證し、舶來品萬能の思想も今や漸次に局部的に限縮せられて居る。例へば製鐵、造船、飛行機、發

電機、變壓機、窒素肥料、レーヨン等々の如何なる工業と雖も、邦人が有する技術能力の優秀なるは事實上に判明して居り、世界何れの國民と比較しても根本素質には決して遜色は無いのである。曾て製鐵事業中最も至難と認められたる武力板薄板の如きも國内生産の發達に依り漸次輸入を減少し、又獨逸の專賣視せらるゝ化學染料の如きも、既に其の或るものは獨逸品と對抗し得るまでに進んでゐる。最も技術の精巧を要する時計類の成功は言はずもがな、極めて鄙近なる實例としては我が國のシャツ、メリヤス類が世界の本場と呼ばるゝマンチエスターに進擊し、廣島縣の萬年筆が歐洲の市場にまでも羽翼を擴げつゝある。又多年純輸入品を以て目されたる毛織物類殊に洋服地の如きも、英國製優等品に劣らざる國産品を身に纒ひ得る時期に達してゐるのであつて、邦人の能力と技術とは我が國民自らが評價しつゝあるよりも遙に高く、遙に優れたる實質的進歩を示してゐる。然るに此の間、尙巨額の輸入を防ぎ能はざるは卽ち我が國の産業方策、就中工業國策に缺如せる結果に外ならずして必ずしも技術上の罪では無い。別言せば産業に對する爲政者の指導、保護、統制等の未だ到らざるが爲であり、國民それ自らの有する天分は十二分に英獨と對抗し、或は彼等を凌駕し得る程に豐かなりと稱するも敢て過言ではあるまい。

第三は資本の問題であるが、是れ又我が朝野の間には頭腦硬化病の發作かと推せらるゝ程の錯覺が廣く流行してゐる。消極内閣の標榜しつゝある非募債主義の如きは其の顯著なる實例の一つであり、消費經濟にのみ拘泥して生産經濟を理解せざる鎖國時代の緊縮節約論が、如何に無價値の努力たるかは既に眼前の事實に照らして炳焉火を睹るよりも明かである。彼等口を開けば忽ち國債の增加を詛ひ或は保護政策の非を鳴らし、或は財源の窮乏を嘆ぐを常とするも、生産公債の增加は毫も憂ふるに足らざるのみならず、之を活用する事に依りて國富を增進し國民經濟を裕福ならしむることは、恰も原料の輸入を榮養素として輸出の繁榮を圖ると同樣であり、寧ろ多々益々辨ずるに足るものあるを思はしめる。假りに吾々が前に提擧せる試案の如く二三の主要なる基本工業を振興し以て當面の輸入を防止するとしても、之に要する資金は既記の如く鋼鐵、肥料、機械、自動車等概算年額三億圓の製作に對して約四億圓を投資せば足るのである。又假りに國内製出を可能とする全額年産十億圓の工作品を作るとして、其の所要資本は十二三億圓にて足れりとする。固より原則的には民間を督勵して是等の企業に當らしむべきであるが、之が爲には或る期間、各國に行ひつゝあるが如く適當なる助成補給、關稅政策、其の他種々の方面より其の達成を促進する途を講すべきである。簡明率直に國家が此の投下資本に對し十年間平均年五分の補助を與ふるとしても其の金額は每年六七千萬圓に過ぎないのである。凡そ工業の原料は鑛石といひ、農林産といひ、石炭といひ、總て勞働の結晶に外ならない。故に

工業に依る十億圓の生産は其の大部分勞働賃金とも稱し得られるのであつて、男女工平均一日一圓の勞銀として前記製作に依り實に三百三十萬人の勞働者及其の家族に生計の途を與へる。そは社會政策より見ても極めて重大の意義を有するのみならず、其の目標とする十億圓の工作品は現に外國より輸入されつゝある商品卽ち日本に需要すると同時に外國の消費にも共通するものなるが故に、國内の入用を充すと共に、直ちに輸出貿易に轉換し得る國際商品である。隨つて之に基礎づけらるゝことに依り、輸出增進の活力素となることは毫も疑ふの餘地は無い。

思ふに如何なる悲觀論者にもせよ、我が帝國の實力を以てして五億乃至十億程度の資金が不相應の巨額だとは考へぬであらう。民間の一紡績會社や、一電力會社ですら、二億三億の資本は必ずしも大なりとせず、況んや政府自ら之を行ふにあらずして唯だ適當なる指導及保護を與ふべく確たる方策だに樹立せば可なりとするのである。又假りに電力國有の一事を實行するとしても、之に依つて何等國民の負擔を增加する虞れなきは前に說ける通りである。要するに問題は資本難にあらずして一に國策の有無如何に依つて決定する。國策だに定まらば資金は内外何れの方面よりも供給され、別に預金部其の他よりする低資金融の方法も立つ。たとへ、保護政策の可否は別論としても、現今世界の實勢は各國競つて保護政策を採用せざるなく、輸入防遏、輸出增進に對する關稅及金融等の施設を始め、外交に、教育に、交通運輸に、國家の全機構を擧げて經濟的保護主義の徹底化に努力を集中しつゝある時代に直面してゐるのである。獨り我が國に限つて呆然自失、或は姑息彌縫、僅に其の日暮しの小計を以て足れりとするが如きは、斷じて國民生活を多幸ならしむる途とは信ぜられない。

第四は販路の問題である。現今世界の人口は約十九億と推算されてゐるが、其の中亞細亞方面のみにても十億内外の人間が居を構へつゝある。支那に四億、印度に三億、其の他印度支那に、南洋に、西伯利に、我が生産品の販路は頗る廣い。假りに歐米兩大洲に對しては我が特産品の供給に主力を注ぐことゝし、其の他の國際競爭品の輸出を見合はすとしても尙決して天地の狹隘なるを憂ふるに及ばないのである。單に滿洲のみに就ていふも、二十年前一千萬と稱せられたる人口は近く三千萬に上るの盛況を呈しつゝありて、朝野の對策だに宜しきを缺かずんば將來極めて有望なる發展地域たるを疑はない。凡そ貿易の主眼は低廉なる原料品を得ることゝ、相手國民に必要なる商品を他の競爭者よりも安價に供給するに在る。而して我が國は亞細亞大陸を對岸に控へて彼地より原料の輸入に至便なる地位を占むると共に、未だ近代的産業未開國の多數の人民を同じ地域に擁しつゝあるが故に、需要供給の兩面に於て甚だしく他に劣らざる寧ろ有利なる立場を惠まれてゐるのである。併しながら此の有利なる立場も腕を拱きて之を傍觀するに止まらば、單に空想を地圖上に描くの愚觀を脫せざるのみな

らず、其處には歐米各國より來る熾烈なる經濟的侵略に放任するの結果となる。故に國家の外交は當然に此の有利なる立場を活かすことを第一義として運用されねばならない。そして一方には我が國が必要とする原料の供給を圓滑ならしめ、他方には我が生產品を國際化し各目的地の需要に適合せしむべく誘導するの役目を引受ける。それが卽ち吾々の要求する外交の經濟化である。

斯くして我が國の產業が振興し、優良且安價なる國際的商品を多量に生產するに至つたとせば、販路の擴張は必然的であり、地理的にも人文的にも亞細亞に國する日本は十億の顧客を對象として潑溂たる活氣を呈するに相違なしと信ずる。此の曉に至らば單に對米向きの生絲だけが貿易の大宗では無く、又綿織物や麥粉乃至今日の工作品其の他の少額なる雜貨類が支那及印度向きの輸出品とは限らない。鐵、機械、汽船、肥料、人絹織物、化學工業品等々の何れもが殆んど無限的需要を亞細亞大陸の將來に持つてゐるのである。啻に工業生產物のみでは無い。世人が輸出不能なるかの如く考へつゝある米穀ですらが、支那は近年大なる輸入國となりて一年六百萬石を海外の供給に仰いで居るのみならず、安南、緬甸を除ける他の各國卽ち瓜哇にせよ印度にせよ、皆米の輸入國たるを見忘れてはならない。それ故に吾々は國民全般が日用品の國際化を圖ると共に、農と言はず工と言はず品質の改良と價格の低廉とに切念し、大量生產に由る積極的經濟に邁進せんことを力說して已まざる次第である。

敍べて玆に來れば所謂原料問題も、技術問題も、資本問題も、販路の問題も、總て悲觀するに足らず、消極的なる懷疑論者の見解の如きは、神經衰弱病者に目擊する所の危惧心に異らざるを知り得やう。本來我が國はその地理的關係に於て、又その氣候に於て、產業發展上極めて好適なる環境に在るのみならず、國民の智能は世界何れの國民にも負けを取らず、その人口の饒多なるだけ、それだけ生產力を强盛ならしむる爲の强味であるやうに仕向けねばならない。現に英獨の如きは日本以上の輸入國であり、殊に大戰の深傷を蒙りて瘡痍未だ癒えざる狀態に在るに拘はらず、既に着々として國勢を回復し輝かしき更生の機運を打開しつゝある。他國の行ふところ我れ之を爲し得ざるの理無し。然るに何故に我が國に於て之を至難とし、何故に深刻なる不景氣の永續を喞たねばならぬか。結論は寧ろ簡明である。其處には未だ產業國策が確立してゐないからである。政治上の組織運用が經濟化されてゐないからである。外交も敎育も國防も其の他の機關も國民經濟の擴充を基調として構成されてゐないからである。輸出增進策は結局輸入防遏策と同一の論理、同一の約束、同一の內容を要件づける。區々たる一局一部の小施設に依つて大勢を轉換せんとするが如きは得て望む能はざる所、根本的には飽く迄も積極進取の政策を堅持貫徹して國內生產を豐富低廉ならしむること以外に別の方法も手段もあり得ない。それは卽ち產業立國策の徹底を意味し、國民の總勞力を動員することに歸着する。之が

爲には爲政者が率先行政の全機構を刷新し指導統制の任に當ることから開始されねばならない。これ吾々が本書に於て各般の方面に亙り所見を記述せる所以であつて、其の全部的趣旨が軈て輸出增進策の講究に外ならないのである。

(三)　我が國輸出品の一瞥

上に說ける所は輸出增進策としての根本的要件を明かにし、之に對する一般國民の正しき理解を促すと同時に、國家が必要とする方針と施設の如何に在るべきかを概說したのである。

翻つて我が國の輸出狀態を見るに、大正十四年の輸出總額二十三億圓は暫らく別として、それ以後に在つては特別輸出品を除き左の如き數字を示してゐる。

昭和元年	二十億四千四百萬圓	(朝鮮臺灣共二十一億一千九百萬圓)
同　二　年	十九億九千二百萬圓	(同　上　二十億六千五百萬圓)
同　三　年	十九億七千二百萬圓	(同　上　二十億三千八百萬圓)

世界的不景氣の影響を受けて近年減退の傾向を呈すと雖も、概觀的には平均二十億圓內外の輸出額を示しつゝある。而して其の輸出品目を總括的に分類し、約數的に表示すれば左の如し。

生絲及絹布類	九億圓
綿絲及綿布類	四億五千萬圓
天　產　物	二億圓
工作品及其の他	四億五千萬圓

即ち生絲及絹布類が總輸出額の四割五分を占め、次では綿絲及綿布類が約二割三分となつてゐる——此の中生絲のみにて總輸出額約三割七分、綿布類が同じく約二割二分に上り、兩者合して十二億圓內外に達する——隨つて天產物及工作品等に屬する幾百種の輸出品が尙甚だ振はざるは一見何人にも推知し得る所である。

假りに之を以て前節に揭げたる英獨の輸出入主要種目と對照せよ、英は邦貨に換算して五十七億圓以上の完成品を輸出し、獨逸も亦同じく四十億圓以上の製造品を海外に供給してゐるのである。然るに我が國に在つては他國の原料品たる生絲が輸出の大宗にして天產物の二億圓も亦概ね他國に取りての原料又は粗製品として輸出さるゝものであり、其の上生絲といひ天產物といひ我が國獨得の生產であつて他の追隨を許さない品物のみである。斯く總輸出額の大半を占むる二種目、金額にして十億圓以上のものが原料又は半原料の形に依つて海外に持ち出され、完成品としての價格を有せざることは

我が國民に對して如何なる事實を教訓するか。そは工業生産の未だ國際化せざる證據であり、製造工業の發達を促すべき餘地極めて多きを物語るものではないか。

更に試みに英國の例を藉りて彼れが重要輸出品目の概算額を瞥見すとせよ。

（單位千圓——百萬圓以下約數——一九二八年度）

綿絲及綿製品	一、四五三、〇〇〇
毛絲及毛製品	五六九、〇〇〇
其他織物及衣類	五八六、〇〇〇
鐵鋼製品	六六八、〇〇〇
機械類	五三七、〇〇〇
船車及飛行機	四七〇、〇〇〇
石炭	三九一、〇〇〇
食料品	三四四、〇〇〇
化學製品	二五四、〇〇〇

我が國の綿絲及綿布類輸出額は四億五千萬圓内外に上り生絲に次ぐの地位を占めてゐるが、それでも英國が十四億五千萬圓を輸出するに比較すれば尚彼れが三分の一にも達せない。而かも其の原料たる棉花輸入高に於ては彼我兩國共に左程の大差なく、卽ち英は一九二七年六十八萬佛噸を印度、米國及埃及等より輸入しつゝあるに對し、我れは同年度に五十七萬佛噸を各國より購つてゐるのである。

然るに其の輸出金額に於て斯くの如く格段の開きを生ずるは我が内地消費高の多きに由ること一理なれども、一面には彼れが高級品の生産を主とするに對し、我れは此の點に一歩を輸せるが爲である。但し戰後英國紡績業の沈滯せるに反し、我が國のそれが著しき躍進を示し、着々前者の領域に踏込みつゝあるは聊か意を强くするに足る（最近印度が綿布關税引上を斷行し、殊に英印間に特惠協約を設けたるは、事實上我が紡績事業の進出に對する防衞戰とも解せられる）。

元來日英兩國は歐亞其の地を異にすとはいへ、彼我の環境頗る相似し、國情その他共通的なる點が極めて多い。而して其の英國が綿製品を以て輸出貿易の首目とし、次では鐵、機械、船車乃至化學製品等を以て輸出産業の重要品目と爲しつゝあることは、我が國より觀て好箇の參考たらねばならない——同國の特種製品たる或種の織物及衣服類竝に石炭等の如きは暫らく別問題とするも——就中毛織物及機械類の如きに至つては技術能力の許す限り何れの國と雖も生産可能なるものであり、船車及飛行機も亦同樣である。英國は多年造船業を以て世界に雄飛し、綿布、製鐵及造船の三大事業を貿易の横綱大關格としたのであるが、近年之に加ふるに自動車及飛行機等を以てし、造船業の頽勢を補ひつつある。然らば我が日本は如何といふに、邦人本來の實力に於ては製鐵にせよ造船にせよ、既述の如く國際的技術戰に優位を贏ち得るまでに進展しつゝあり、勞働賃金も彼れに比し遙かに低廉なるに拘

はらず、未だ大に輸出能力を發揮するに至らざるは何故か。

約言するに我れは英國に酷似する地位に在りて其の技能に何等遜色なしと雖も、僅に綿布綿製品の一品目を除き他は悉く遠距離より英國の後塵を拜してゐるに過ぎない。否、單に後塵を拜してゐるだけでは無い。彼れが巨額の輸出品も我れに於ては尙輸入國の狀態を呈し、若しくは極めて微々たる對外的生產を示しつゝあるに止まる。これ卽ち我れに產業國策なく、爲政者として執るべき緊要なる積極的施設が等閑に附せられつゝある結果といはざるを得ない。換言せば民間に於ては旣に相當の業績を擧ぐるものありと雖も、國家の力を以て適當なる指導、保護及統制を行はず、折角國民の持合はしつゝある技能と勞力とを此の方面に集中せしめざる缺陷の致す所に外ならないのである。

勿論、精密にいへば各國の產業には皆それ〴〵の歷史があり特色もあり、需給の關係、風土嗜好等の差異に依つて甲國の利とする所、必ずしも乙國に適すとは斷ぜられない。故に日英兩者の國情は酷似するにもせよ、彼れが傳統を移して直ちに我が用を爲すとは限らず。我が國としては又他國に見る能はざる天產物もあれば、國民の特技と稱し得べき長所もあり得る。現に蠶絲、綿紡織、水產業等の如きは我が國民の特長又は優良產業として世界に定評があり、樟腦、綠茶、薄荷、除蟲菊等の如き天產物や、玩具、眞田、ブラシュ等の如き小工業も亦我が國の輸出品として相當の聲價を有つてゐる。

唯だ遺憾なるは蠶絲及綿紡織等の數種目以外、我が國產又は特技として認めらるゝものが何れも其の價格高からず、世界的商品として其の輸出量の多大なるを期待し難きことである。故に國家の產業方針を如何に取り定むべきかに關しては矢張り主要農產物及基本工業の增進を主眼とし、先づ輸入を防遏すると同時に輸出の伸展を圖らなければならない。是れ吾々が前章及前々章に於て此の方面の問題に多くの言を費したる所以であり、而して我が國の輸出增進策を考案するに方り、特に英國の例を引用し重要產業の國際化を要望せる所以でもある。

以上は我が國の輸出狀態を鳥瞰すると共に、今後の方針につき一言したのであるが、更に此の機會に於て現在我が國が重要と爲しつゝある輸出產業に關し以下少しく所見を附加する。蓋し箇々の品目に亙り一々縷述することは本書の目的とする所にあらざれども、前に例題を擧げて農業及工業發展策を說きたると同樣、玆にも二三の例題として簡單に要旨を述べ置くのみ。

（四）蠶絲政策の確立

今日我が國の輸出產業を語るに方り、例題の第一に擧げらるべきは無論蠶絲業である。然るに世上往々斯業の前途に關し疑問の眼を注ぐものあり、例へば支那生絲との競爭を憂懼し、又は人造絹絲の

壓迫を云々し、若くは桑園の枯衰、勞銀の騰貴、産繭增進率の停頓等を懸念するが如き屢〻吾々の耳にする所である。仍て一應我が蠶絲業の概況を通觀し今後の對策に關する私見を加へることゝする。

そも〳〵蠶絲業は初めより日本限りの産業では無く、廣く見渡せば支那、印度、中央亞細亞より黑海を經て巴爾幹諸邦に及び、更に南歐伊、佛、西等に行はれたものであつて、前世紀の中葉後一八七五年頃は東南歐殊に佛伊兩國が養蠶の中心地と目せられ、世界總産額の約半數を産出してゐたのである。然るに其の後蠶病の蔓延に禍ひされ、且つ産業革命の影響や勞銀の騰貴等に祟られて漸次に凋衰し、而して前者に取つて代つたものは卽ち支那であつた。二十世紀の初頃には支那の蠶絲が嶄然世界の市場を壓して居つたのであるが、其の後日本の擡頭凄じく大正年間に入りて遂に日支地を易へ、間もなく日本の生絲は全世界總産額の過半數を突破して其の六割五分以上に達し、支那は漸く二割乃至二割五分内外を上下する狀態となつた。斯くの如く歷史の示す所は既に支那が日本の敵にあらざる事實を證明して居るのであつて、我が國の蠶絲業が斯くも長足の發展を遂げたるは第一に國民の特技、第二蠶種の改良、製絲工業の進步等科學的知識の應用、第三朝野の奬勵と努力、第四農家の生業特に副業として好適なること等々幾多の理由があり、隨つて我が國民それ自ら懈怠せざる限り、假令支那生絲の復興的機運に際會すればとて遠き未來はいざ知らず、遽に現在の優越的地位より轉落するが如きことありとは覺えず、又斷じて轉落してはならないのである。

それで現在我が國の養蠶業の概況を見れば、

我が國養蠶業の現勢

年次	養蠶戸數（千戸）	掃立枚數（千枚）	繭産額（千貫）	繭價（千圓）	桑作面積（千町）
昭和元年	二、〇六一	一七、九六一	八六、七二五	六六一、四五三	五七二
同二年	二、一〇三	一八、四二九	九〇、八六二	四九六、九三二	五九五
同三年	二、一六五	一八、八八九	九三、八五八	五五一、六八四	六〇九

繭の價格は近年漸落步調を呈すれど、其の産出量は比年增加し、斯業に從事する農家は全國農村戸數の三分の一を超えてゐるのである。

次に製絲業の概況は左表の如くである。

我が國製絲業の現勢

	（單位）	大正十四年	昭和元年	昭和二年
製絲場數	（一千）	一八五	九二	八三
從業員數	（千人）	五四五	四八五	四九六

繰絲釜數	（千箇）	五三五	四二七
生絲數量	（百萬貫）	八	九
同　價格	（百萬圓）	九五六	八五六
屑物價格	（百萬圓）	三〇	二四
價格合計	（百萬圓）	九八六	八八〇

此の他に眞綿數量六萬乃至九萬貫、價格二百萬圓乃至五百萬あり。
昭和元年及同二年分は自家產のものを含まず。

多年農家の副業と見られ、養蠶に製絲に、主として婦女子の勞力に依り其の指頭から繰り出さるゝ此の一種目を以て年產八億圓乃至十億圓近くの生產を爲しつゝあることは、確に世界の驚異であり、容易に他國の追隨を許さゞる我が獨壇場でもある。而してそれが如何なる形に於て外國に輸出さるゝやと見るに、

生絲及絹物類輸出額（單位千圓——百萬圓以下約數）

年次	生絲類	絹物類	合計
大正十四年	九一三、000	二一七、000	一、0三0、000
昭和元年	七五一、000	一三八、000	八八九、000
同　二年	七五四、000	一四五、000	八九九、000
同　三年	七四六、000	一三九、000	八八五、000

生絲の輸出先きは米國が全體の九割五分以上を買ひ入れ殘餘は佛國その他に分たる。

即ち生絲の輸出額は嶄然我が對外貿易上の首座を占めてゐるが、絹物類は前者に比して尙甚だ少額の憾みを禁じ能はぬ。我が國に於ける絹織物の總生產額は昭和二年度に於て純絹物四億一千百萬圓、絹綿交織五千八百萬圓、合計約四億七千萬圓となつてゐるが、其の中の輸出額は上表に在る通り一億四千五百萬圓である。故に總產額に對する輸出割合は約三分の一に止まり、輸出生絲に對しては五分一の金額にも足りない。殘餘は即ち內地消費である。

斯くの如く我が國の蠶絲業は世界獨得のものであり、其の價格は國際市場の形情及需給關係の如何に依り高低あるを免れずと雖も、數量に於ては蠶絲共に增產の趨勢著しくして何等悲觀を要とせぬ。唯だ半製品たる生絲が依然輸出の大宗を爲し、而かも其の完成品たる絹織物の輸出額が未だ前者の五分の一にも達せざるは、斯業に從事する人々に對して更に大なる努力と開拓とを期待さるべき事實たらねばならない。それは勿論各國の關稅政策其の他の事情に妨げられつゝあるが爲めなれども、半面

には我が絹織物の國際化、就中製織、染色、販賣組織、嗜好、研究等に關し、尙十二分に海外の需要に適合せしむるに至らざるの憾みを感ぜずには居られない。これ斯業の發展と輸出增進の爲に特に最善の計慮を必要とする所である。

養蠶、製絲及貿易の概況は既に述べた通りであるが、然らば我が國の蠶絲業は唯漫然として樂觀せば可なりやといふに實は決して左樣では無い。否、吾々は今にして速に蠶絲政策を確立するにあらずんば、折角築ぎ上げたる堅固なる地盤も他日或は動搖するに至らんことを虞るゝ點に於て、世の悲觀論者とは異れる別箇の事由を見出すのである。例へば前記支那生絲との競爭に對しては殆んど完全に日本の優勝に歸したるにもせよ、もと〳〵國土廣大なる支那の事であり、地價も安く殊に其の中南部は養蠶の好適地なるのみならず、人口多く勞銀亦低廉なるが故に自然我が國よりも安價なる蠶絲を供給し得る可能性を有つてゐる。隨つて我が國それ自らが妥當なる對策を準備せず、單に眼前の安逸を保つを能事とするに於ては國際的需供關係よりする鋭敏なる刺戟作用に促進され、既に占め得たる日本の地位も將來絶對に逆轉せずとは限らない。歷史的には我れ勝てりと雖も、漫然捷利の甘酒に陶醉して居つては逆襲又逆襲、漸次受太刀とならねばならぬ恐れなしとは何人が保證し得やう。此の故に日本としては今に於て豫め激烈なる競爭戰の迫出に善處すべき對策を講じ、能ふ限り未然に之を防止すると同時に益〻海外に於ける需要の增加を喚起することに努力せなければならぬ。

しかも其の對策は唯だ一ありて二あるを知らず。卽ち飽く迄も科學的研究を進めると共に極度の經濟的節約法を採用し、以て品質の優良と多量生產主義を實現することである。再言せば多量生產に依つて生產原價を低下し、品質の優良と相待つて低廉なる支那生絲を凌駕する。價格だに低廉ならば啻に支那生絲の脅威を受くる危險なきのみならず、海外の需要は益〻增進するに相違なく、品質の優良なる限り何ものも我が牙城を侵すことは出來ない。單に日本の利害のみを標準とする時は輸出貿易の首座を占むる生絲の如きは其の價格の高きが上にも高かるべきを欲すと雖も、他に競爭者の出現を豫想せらるゝ場合に在つては獨り相撲を取り能はぬ。又假りに價格を低廉ならしむるとしても、多量生產主義に依る原價の切り下げは毫も生產者を苦しめず、それが必然需要を刺戟し增加するが故に益〻生產者の利潤を多からしむべきは經濟の通則として何等疑ひを容れないのである。

此の理は所謂人造絹絲の壓迫に對しても同樣である。世界的普及性を有する人造絹絲の將來は後に述ぶるが如く大に注目すべき事業であるが、之を蠶絲と比較すれば兩者各〻品質を異にし、隨つて需要の範圍にも自ら別がある。たとへ外觀的に酷似するにもせよ、種々微妙細微の點に於て到底人造品を以て天然絲の價値を滅却し能はざるは、如何に人造樟腦や、養殖眞珠を以てしても本來の實物を無

價値ならしめ能はざると同じであり、寧ろ實際的には却つて天然絲の特長をヨリ尊重せしむることゝもならう。現に米國は世界各國中人造絹絲の最大生産國であるが、而かもこれが爲に我が生絲の需要は少しも減退せず、卽ち大正十四年に於ける生絲の對米輸出量は約五十萬俵であつたが、昭和三年には六十一萬餘俵に增加してゐる——米國の統計調査に據れば、過去十年間に於て、毛物の需要には殆んど增減なきも、綿絲は二割を增加し、而して此の間生絲は二倍、人造絹絲は十五倍の需要增を示してゐる。此の事實は毛及綿絲が單に實用向需要限度に止まれるに對し、一般の嗜好は絹物又は絹物類似品に向ひつゝあることを物語るものと解せられる。故に天然絹絲の將來は其の價格だに可及的低廉なるに於ては、何等悲觀の要なきのみならず、益〻需要增加の趨勢に在りと認め能ふと同時に、其の價格が高ければ高い程、消費量の增大を望み難くして、生絲に對する愛好者も已むなく人造絹絲を代用することになる。卽ち問題は主として唯だ價格の點に在るのみである。

斯く推究し來れば我が蠶絲業に對する一部の懷疑論は餘りに神經過敏に過ぐといはねばならぬが、さりとて現勢のまゝに放慮して差支なしとの見解も亦無條件的には成立しない。特殊の事情に依りて世界的好景氣時代が到來し永續するか、又は生絲に對する新たなる需要方面が發見されるか、或は少くとも米國の財界が特に躍進的繁榮を告ぐるか、ともあれ何等か特別の理由なき限り、絲價の低廉なることを要求せらるべき環境に立つものとして今後の對策を講ずるにあらずんば、我が國に取りて萬全の計とはいはれない。それには何としても多量生産主義が第一要義であり、多量生産主義にして而も品質の優良なるを期するには科學的及經濟的方法に基き邦人の特技を利用して其の目的を達成する以外に別の手段はあり得ない。此の意味に於て現消極內閣が極めて少額なる養蠶の科學的助成費をすら削除せるが如きは蓋し拙策である——尙勞銀の昂騰、桑園の枯衰、產繭增率量の停頓等を理由として早くも斯業の前途に失望の嘆聲を發するものありと雖も、そは餘りに現狀に拘泥せる片面觀たるを免れない。勞銀は元來物價の高低に伴ひて上下するのみならず、勞働能率だに增進せば敢て深く憂ふるを要せず、殊に我が國の蠶業は半ば農家の副業たる性質を有するが故に實際上には融通性もある。又桑園、蠶繭、製絲等の問題に關しては、これこそ更に科學的研究に依り改良進步を圖るべきものであり、我が國が支那其の他に對し大なる强味の一つは此の點に存在する——

それで問題の焦點は如何にして多量生産、品質優良、以て斯業の將來を隆盛ならしむべきかに歸着すると共に、それは當然に蠶絲政策確立を要求せずんば已まないのである。試みに我が國が斯業に對して最も緊要とする施設を例示すれば、

(1)　桑園の改良

（2）蠶兒飼育法の改良
（3）蠶種の改良と配給法の改善
（4）製絲及加工業の改良
（5）繭取引、製絲及貿易關係の統制竝に組合組織の改善
（6）共同倉庫の設立
（7）養蠶、製絲及輸出に對する金融の改善、特に其の金利引下
（8）其の他各種の指導、奬勵及保護

玆には是等各事項に關し細かに所見を說くの遑なけれど、要するに其の總てに通じて科學的實驗と經濟的經營とに基き第一に良質多產、第二に加工完成、第三に輸出增進の實績を擧ぐるに在る。吾々の信ずる所に依れば、如上の諸施設を合理的に行ふに於ては少くとも現在蠶絲の生產額を二倍以上三倍にすること敢て不可能とせず。隨つて其の價格を相當の程度に低廉ならしむるとも、以て農家及製絲業者の利益を減少せざるのみか、今日よりも確に多くの收得を齎すに相違ないと思ふ。何となれば生產增加、價格低廉の結果として必然的に需要の增大を來たし輸出の累進を期待し得るからである。

併しながら以上の施設は區々片々たる一時凌ぎの小策や姑息不徹底なる申譯的のものであつてはならない。首尾一貫し經緯相聯絡せる確乎たる方策として運用されなければならない。語を新たにせば卽ち徹底的及積極的なる蠶絲政策を樹立し、內閣の更迭又は政黨政派の關係等に累せらるゝことなく國家及國民經濟上の大方針として實現し遂行するにあらざれば、以て其の完きを期し難いのである。幸に這般の政策だに確立されたとせば、支那絲との競爭も人造絹絲の壓迫も左までの問題では無く、最近絲價の暴落や繭安の爲に惱みつゝある農家の困難も、將來は根本的に救はれ得ると共に、十億圓內外の輸出額をして十數億乃至二十億圓に增加せしむることも單なる机上論では無いと信ずる。

（五）綿紡織と人造絹絲に就て

我が輸出貿易の第二位を占むるものは綿絲及綿布類である。凡そ我が國に於て何等政府の保護に依らずして而かも世界列國に對し毫も遜色なき實績を擧げたるものは何ぞやと問はゞ、何人も指を棉花工業に屈すべきを疑はない。他の殆んどあらゆる事業が直接政府の庇蔭の下に立ち、然らざるも關稅其の他の方法に依り擁護せられつゝある中に、我が紡績業が獨立獨步、毅然として國際市場に躍進しつゝあるは確に人意を强くするに足る。

それは綿絲が國民の必要品であることに主なる强味があり、紡績の業が我が國土に適し我が國民の

特技たる長所を有することも大なる原因の一つに相違ない。而かも其の原料を外國より購入して國内の需要を滿たし、そして外國へも輸出するのである。此の點からいへば純國產にして且つ世界總產額の六割五分をも占むる生絲業者が、頻々政府の保護を求めて已まざるが如きは寧ろ憂ふべき現象といはざるを得ない。そは卽ち製絲家の經營或は組織に何等かの缺陷があり、若くは健全なる企業たらしむる上に何等か不合理なる事由の伏在せるが爲か。ともあれ、綿紡の自由なる發展と比較すれば一見生絲業者の甚だ不甲斐なきを聯想せずには居られない。故に益〻蠶絲政策を確立すると共に事業統制の緊要なるを痛感せしめるのであるが、綿紡に至つては之に異り、時に消長は免れざれども常に自力自營、而して常に進取的であり、積極的であり、奮つて海外貿易の尖端に突進し、濶步しつゝあるを壯とすべきである。

故に事の綿絲紡織業に關する範圍に於ては、最早や吾々が叨々の辯を要しないのである。其の基礎に於て、資本及經營的材能に於て、技術に於て、他の如何なる事業よりも堅實性を持つて居る。故に國家として經濟政策上の任務は、將來に於て更に一層の發展を期すると共に、海外に在つて國際經濟戰に打勝つべき努力に助成すること以外、他は總て當業者に一任して可なりである。

但し現時の綿絲紡織業が既に理想的にして完全無缺の狀態に在りやといへば、未だ容易に然りと答ふることは出來ない。例へば英國の斯業者は年々約七億圓の棉花を輸入して之を綿絲布に完製し、原料代に倍加する十四億圓餘を海外に輸出する。卽ち棉花輸入額を差引きて毎年七億圓以上の利益を國民經濟に提供しつゝあるのであつて、此の一點は我れに於て尙甚だ彼れに及ばざるを遺憾とする。參考の爲め大藏省貿易統計に據り、我が綿紡織事業の概況を揭げて置く。

綿紡織事業概況（單位一千圓——百萬圓以下約數）

年次	棉花輸入額	綿製品輸出額			
		綿絲	綿織物	メリヤス類	其他共合計
大正元年	二〇一、〇〇〇	五三、〇〇〇	二六、〇〇〇	九、〇〇〇	九三、〇〇〇
昭和元年	七二六、〇〇〇	七一、〇〇〇	四一六、〇〇〇	二九、〇〇〇	五三〇、〇〇〇
同　二年	六二五、〇〇〇	三九、〇〇〇	三八四、〇〇〇	三二、〇〇〇	四六九、〇〇〇
同　三年	五五〇、〇〇〇	二六、〇〇〇	三五二、〇〇〇	三四、〇〇〇	四二六、〇〇〇

今より十九年前の大正元年當時に比し斯業の變遷が如何に在るかは上表に依つて大略察知し得やうが、此の間棉花輸入額が二億圓より五億五千萬圓卽ち二倍七分强を增せるに對し、綿製品輸出が同期間約四倍七分を示せるは大いに喜ぶべきである。併しながら其の原料輸入額と製品の輸出額とを比較

して、尚一年一億二千萬乃至二億圓の入超を示すは、前記英國が七億圓内外の出超となりつゝあるに對し、等しく世界的紡績工業國の地位を占めつゝ尚餘りに多くの開きがあり、甚だ物足らぬ感じを禁じ能はぬのである。

この事實は言ふ迄もなく英國の紡績設備は殆んど我が國の夫れに十倍し、更に多年の精練を重ねた爲めと、一面には我が國内の需要多量の爲め、彼我同律に論じ能はざるに由る。併しこゝに特に留意すべきは彼國の設備は數に於てこそ十倍すれ、既に其の大半は老朽的であり、其の上勞働組合の運動に煩されて其の生産費が漸次に高まりし結果、諸外國の競爭に押されて今や最も困難なる事態に陷つてゐることである。現に同國全體の紡績會社過去三ヶ年間の平均配當率は僅かに百分の一内外と言れて居る程の狀況にある。之に反し我が國は其の設備こそ六七百萬錘に過ぎないが、何れも最新の工場であつて其の能率は前者よりも遙に優良なるが上に、更に豐富低廉なる勞働者を有する事に依り、此の數年間猛然として世界の各市場に突進し、印度、支那は勿論バルカン半島、南亞方面迄もその販路を開拓し、英米等の先進國を假令一部分たりとも凌駕し得たるは明かに我が國の紡績工業が世界の經濟戰に打勝ちつゝある證據と認められる。此の意味に於て吾々は是非共今一歩を進めて、假令直ちに英國の實例の如くならずとするも、せめて近き將來に於て原棉と同額なる製品を輸出し得る迄に其の發展を希望して已まないのであり、又それは決して望みなき空想にあらずと思ふ。

さはあれ、英國の紡績業者が既に我れに對して多大の脅威を感じ、百方防衞策に苦慮しつゝあると同時に、我が國の前面にも漸次支那の同業者の接踵し來りつゝあるを知らねばならぬ。又各國の關稅政策其の他種々の對抗的氣勢を示すあり、殊にランカシアー多年の潛勢力と其の精練熟達せる經驗中には吾々に於て未だ及ばざる點少からず、更に彼れに學びて大に發奮せなければならぬのである。そして粗製品より上級品へ、生地より染色ものへと益〻進化向上すると共に、ヨリ一層販路の開拓に努力し、當面の難局に屈することなく勇往激勵すべく、政府としても又金融、爲替若くは動力及戾稅等について適當なる方策を講じ、以て輸出の增進に助成して然るべきである。

次ぎに上に蠶絲及綿紡績業の一斑を述べたる序を以て玆に少しく人造絹絲の事を加へて置く。其の生産及輸出額に於ては未だ前兩者に比し大なる懸隔ありとはいへ、其の事業相似せる點より見て、又我が國に好適なる輸出品として頗る有望視せらるゝ點より考察し、人造絹絲の將來は特に注目の價値ありと思ふ——所謂人造絹絲の稱呼は今日甚だ妥當を缺くの感ありて、世界的にはレーヨンと呼ぶを可とするも、暫らく通俗に隨ふのみ——

曾てエヂソン翁は半世紀後の世界を想像してレーヨンの需要が天然絹絲に取つて代るべしと豫言し

たが、それは固より一場の戯言にあらずんば、此の新事業に對する最大級の形容詞でもあらう。だが人造絹絲の發展は世界の發明王をして斯く迄に豫言せしむる程に驚異的であり、纖維工業に對する革命的記錄を示しつゝある。

そして最近の業績を見れば、

人造絹絲生産高（單位百萬封度）

	一九二七年	一九二八年	一九二九年
米國	七五	九八	一三三
英國	三八	五二	五九
伊國	三六	四七	五三
獨逸	三一	四一	四五
佛國	二一	三〇	三七
和蘭	一六	一六	二〇
日本	八	一二	一八
白國	一三	五	一五
瑞典	一〇	一二	一二
其他各國共、合計	二六七	三四五	四二四

米國の一雜誌に據る。但し日本の生産實數は本表よりも多きこと次表に掲ぐるが如し。

米國の人絹生産高は上表の如く世界の第一位を占めてゐるが、其の消費高も亦我が國より輸出する生絲を凌駕し、之に次ぐは英伊獨佛であり、日本も此の數年來生産及消費共毎年五割以上を增加しつゝあるのみならず、昨昭和四年に至つて貿易の形勢一變し、從來の輸入國より輸出國に好轉するに至つた。

我が國の人絹事業概況（單位千封度）

	生産	輸入	輸出	消費
昭和二年	一〇、〇〇〇	七九九	三七	一〇、六七二
同　三年	一六、〇〇〇	二二六	六八	一六、一八八
同　四年	二五、〇〇〇	二二四	二五二	二五、三七二

かくして昨年度に於ける人絹織物の輸出は約四千八百萬ヤード、外に斤量單位のもの約十五萬斤を加へて其の價格二千八百萬圓餘に上つてゐる。勿論一面には尙輸入品の跡を絶たざる事實を見逃し能はずと雖も、年々激增しつゝある國内の需要を滿たし、其の上に輸出超過を示すに至れるは主として國家の保護政策に基くにもせよ、之を多とすべきであり、今後に於ては更に大いに支那其の他の方面に販路を擴張し得べき可能性あるを十二分に認められる。

改めて說く迄もなく人絹は純然たる化學工業品たるが故に蠶絲、棉花及麻等に比し、氣候風土又は蟲害等に依り直接生產に影響を及ぼすこと少く、隨つて價格の高低にも彈力多く、且つ世界何れの地に於ても企業し得る便利があり、これこそ專ら科學と技術とに依る國際戰裡の產業である。此の意味よりいへば生絲及綿紡織事業に特殊の長所を有する日本としては、將來前兩者と共に最も有望なる產業たるや疑ひなく、而かもそれは互ひに併行して各國の需要を喚起し能ふものである。これ吾々が玆に此の事業に關し一言を添へたる所以に外ならない。

精しく言ふならば固より此の事業にも根本的には其の原料たるパルプの問題があり、一時的には市價の變動も昨年來尋常では無い。しかし蠶、棉、麻の何れもが二割乃至三割の操短を行ひつゝある受難期に際し、たとへ若干の操短と義務輸出を要制さるゝにもせよ、各社概ね相當の利益を擧げ堅實の發展性を認められつゝある人絹事業の將來は頗る心强きものがあると思ふ。故に今後の要件としては、製紙用パルプと共に速に此の方面の原料供給の途を講じ、科學的研究を遂ぐると同時に、益〻其の技術を精良にし、進んで海外販路の開拓を圖らねばならない。それには政府としても相當の施設を講じ指導奬勵の任を盡して然るべきである。

（六）造船と化學工業に就て

既記英國の實例に隨へば、彼れが輸出品の主目は綿製品其の他の衣料に次ぎて鐵、機械、造船乃至化學製品等にある。日本には日本特殊の事情あるが故に必ずしも彼れが先蹤を逐ふを要せずと雖も、所謂東洋の英國として目せらるゝ我が國が大體に於て同樣の方針に依ることの有利なるは重ねて語を勞する迄も無いと思ふ。而して吾々は是等の各產業中、

製　鐵（第十章參照）

機　械（同　上）

の事は既に前に之を略說したるを以て、玆には少しく造船事業及化學工業について記述する。

世人の知る通り我が國の造船事業は明治以來最も顯著なる發達を示せるもの〻一つである。當初殆んど總ての軍艦と汽船とを外國に註文したる日本が、今は世界最優秀の軍艦も商船も自らの手に製造し得るまでに進步するに至れるは、海國たる日本として固より必然の結果であらねばならない。現今世界各國の商船所有數は昭和三年ロイドの調査に依れば、

米國	一四六三萬噸
日本	四一四
獨逸	三七七
伊國	三四三
佛國	三三四

の順序であつて日本は世界第三位に在る――歐洲大戰前には獨逸が世界の第三位を占め、日本は漸く第七位に置かれてゐたが――而して歐洲戰爭時代には海運事業の熱狂的好景氣に際會し、我が國の船舶總收入實に四億五千萬圓(大正七年度)にも上つたのである。それが海軍の充實と共に我が國の造船業を刺戟し長足の發展を遂ぐべく力づけたことは言ふ迄もないのであつて、戰後の反動期に入り此の方面の打擊は痛刻を極めたとはいへ、現在我が國に於ける造船業は一千噸以上の建造能力を有するもの十九、船臺七十七、船渠四十六、其の公稱資本二億三千萬圓、拂込一億六千五百萬圓、外に社債七千六百萬圓、借入金五千五百萬圓と稱せられる。そして其の投資に依る造船能力は一ヶ年少くとも五十萬噸を下らないのである。

然るに斯くまで發達せる我が造船業の近情如何と問へば近年甚だ振はず、之を世界的に見るにロイドの調査では、

各國造船概況（單位千噸）

	一九二六年	一九二七年	一九二八年
英國	六四〇	一、二二六	一、四四六
米國	一五一	一七九	九一
日本	五二	四二	一〇四
獨逸	一八一	二九〇	三七六
佛國	一二一	四四	八一
伊國	二二〇	一〇一	五九
和蘭	九四	一二〇	一六七
丁抹	七二	七二	一三九
瑞典	五四	六七	一〇七

英國は依然トップを切つてゐるが、之に次ぐは復興途上に在る獨逸であり、日本は無殘にも上記九ヶ國中の最低位に落ちつゝある――昨年は新造船十六萬噸、本年は十二萬噸臺になつたが明年は軍縮問題と關聯して更に低下の趨勢に在る――斯くして總能力五十萬噸の建造設備を持ちながら、僅に十萬噸内外しか活用されず、甚だしき時は四五萬噸臺の造船にも甘んぜざるべからざるが如き苦境に立つに至つては、國家及國民經濟上漫然看過し難き逆勢ではないか（而かも他方に在つては一昨年の如き

二十五隻一千百萬圓以上の汽船を外國から購入してゐるのである)。

それは勿論、世界的不況時代の現象に相違なく、隨つて此の種の受難は單に日本限りの問題では無い。現に英國の如き其の建造能力の巨大なるに比して利用率は極度に低下し到る所に悲鳴を上げてゐるが、然し事業本來の性質よりいふならば、少くとも我が日本に關する限り、造船業の將來は有望且つ多幸であらねばならぬ筈である。否、朝野の協力に依り之を有望且つ多幸ならしめむべく導かねばならないのである。

蓋し我が國の船舶は其の隻數及噸數に於てこそ世界の第三位に在れ、中には多くの老朽船を含むが故に實質的には第四位の獨逸に劣り、隨つて海運收入も彼れに比すれば少額である。現今優秀船の競爭時代に方りて通商交易の利を得んが爲には、勢ひ老朽船の淘汰を餘儀なからしむこと必然なるを以て、自然造船業の前途を多望にする可能性あるのみならず、炭用船が漸次ディゼル船に變更さるゝは經濟上必然の理にして已に世界共通の現象である。然るに我が國には尙ディゼル船の所有甚だ少くして今後此の方面の需要及改造も當然に活氣を呈するであらうことを推定せしむる理由がある。加之、其處に適當なる施設をだに講ずるならば、世界一半の需要をして我が國に差向けしむることも決して至難では無い。英國の造船業が世界的である以上、例へば我が紡績が英國と角逐しつゝある如く、日本の同業者が彼れと同樣の立場に進み、同樣の利益を博し能はぬといふ制限は絕對に存在せず。況んやその技術及能力に於て我れ既に彼れに遜らず、別して勞銀は我れ尙遙かに彼れに比し低廉なるに於てをやである。

だが問題は是れも亦價格の點と、而して販路の開拓如何に在る。主として我が海軍方面の註文に期待を懸け、依つて以て斯業の繁榮を望むが如き時代は既に過去に入らんとしてゐる。それよりは國際的經濟戰の利器として大に飛躍するだけの自信と計畫を必要とするのである。之が爲には第一に其の主要材料たる鋼鐵の製造を盛んにし、その生產價格を外國よりも低廉ならしむるを絕對條件とする。之に次では經營の改良を求める。例へば資本の二重乃至數重投下を防止すべく企業の合同又は統制を行ふが如き、規格を定めて所要材料及業務の部分的作業或は製造を行ふが如き、當業者それ自身に於て率先改善の實を擧ぐると同時に、政府としても動力、金融其の他の政策に於て宜しく之を開導するの方策を執るべきである(最近消極內閣が造船業資金貸附利子補給法の名の下に僅々八萬圓程度の豫算を計上して足ると爲せるが如きは餘りにも姑息の小計といはざるべからずして、眞實には果して國策の重要義を理解せるや否やをすら疑はしめる)。

次に化學工業について一言せんか。斯業の淵叢は獨逸を筆頭とすべきであるが、歐洲戰爭中製品の輸入杜絶するや、その刺戟に依り我が國に於ても相當の進展を促したに拘はらず、戰後忽ち獨逸品に壓せられ現時多くは關稅の保護の下に漸く殘喘を保つが如き感なしとせない。所謂化學工業の範圍は頗る廣汎にして既述の人造肥料及人造絹絲の如き其の一種目に屬し、國內の生產大に見るべきものありと雖も、工業藥品、染料、醫藥品、化粧品材料等の如き亦何れも化學工業の一科を爲すものたるを見忘れてはならぬ。而して我が國は其の工業原料たる曹達類のみにても昭和三年度一千三百萬圓、智利硝石六百萬圓以上を輸入し、染料も人造藍、塗料等を加へて三千萬圓以上の輸入がある。但し部分的に見れば工業藥品に屬する硫酸の如き年產一千八百萬圓內外に上り、國內の需要を滿たして餘剩百萬圓內外を輸出し、硝酸、鹽酸、醋酸等も稍〻自給の域に達しつゝある。但し其の生產原價は獨逸に比して尙遙かに高い。

我が國には人造肥料其の他化學工業の基本的要素とも云ふべき硫酸の原料たる硫化鐵鑛を產出し、又硫黃も石炭も敢て事缺かない。獨英佛の如きは硫黃が無く、硫化鐵鑛も不足し之を他國の供給に仰いでゐるのである。卽ち部分的には我が國の方が化學工業に於て有利の立場に置かれてゐるのであるが、唯我が國に取り苦痛とする所は曹達灰及苛性曹達の原料たる鹽の缺乏を告ぐることである。換言せば化學工業の二大要素たる酸とアルカリの中、酸は我れに於て不足せざれど、アルカリを缺く。隨つて鹽專賣法の利害如何が極めて切實なる問題となつて來るのである。我が國は多雨多濕の爲め海鹽の製造を妨げ、且つ岩鹽の產出なきを以て一部を臺灣より移入する外、更に不足を支那より輸入してゐるが、しかし一面より考ふれば政府の專賣の爲め却つて製鹽業の發達を阻止し、又海外よりの自由なる輸入を抑塞してゐる憾みもある。政府の方針は重きを食料用途に置いてゐるやうであり、事實に於て我が國現時の消費は鹽の大部分を漬物用、味噌用、醬油用、魚類用等に充當され、工業用は未だ全需要額の一割內外に過ぎざる狀態に在れど、其の代りに別に一千三百萬圓もの曹達類を外國から輸入してゐるのである。此の點に於て鹽專賣法の存在が動もすれば化學工業の發展に不良なる影響を與へつゝあることは大に考慮せねばならぬ。須らく政策を一新するか、又は適法を設けて更に工業用鹽類の生產に關する關東州の鹽業政策を助成し、又は支那鹽の輸入を便ならしめんことを必要とする。

右は化學工業に關する一應の所見を陳べたに過ぎないが、獨逸は此の一工業の爲にすら戰後數年ならずして四億圓以上を輸出し、英國の如きも二億五千萬圓を對外的に收獲しつゝある。元來化學工業は原料其の他に基因する國際的障壁を科學的に打ち破りて人類の經濟生活を自由なる世界に解放するとまで言はれてゐる。我が國の爲政者は近視眼的事象に沒頭せず、宜しく永遠の計を此の方面に運ば

ねばならない。そして現に存在する各種研究所の如きも統一的組織的に大擴張をなし、部門を定めて發明及改良の進展奬勵を督勵し、列國に比して遜色なき事を期せねばならぬ。

(七) 水産業の改良と畜産

現在我が國は世界に於ける五大水産國の一を以て目せられ、英、米、加奈陀及那威と共に、斯界の優者たる地位に在る。若し單に其の漁獲高よりいふならば、五大水産國中に在つても、日本は確に世界の王座を占め得る資格があり、專門家の說に隨へば、現地球上に於て收獲せらるゝ總水産額の四分の一は日本國民の手に掌握してゐるといふ。然るに之を貿易の方面より見ると五大水産國中最も漁獲高少なき那威が年額約八千萬圓を海外に輸出し、加奈陀も亦約六千萬圓を各國に送り出してゐる。之に對して我が國は如何と問ふに、下表の如く魚貝類その他あらゆる水産物を合して約五千萬圓内外である。

我が國水産輸出額（單位一萬圓）

年次	一般水産物（魚貝昆布其他）	罐詰魚介（カニ其他）	特殊水産物	合計
昭和元年	二、二六五	一、三九九	九三三	四、五九八
同　二年	二、〇一三	一、七三七	一、一〇七	一七、八二
同　三年	一、七三七	一、一〇七	一、三〇四	一、一五八　四、九五三
				五、一四八

特殊水産物は魚油及鯨油、寒天、沃度、沃度加里、珊瑚及其の加工品を含む。

右表の外、露領において漁獲せるものゝ中、鮭、鱒及蟹を合せて海外に輸出するもの年額約三千萬圓内外がある。故に之を前表と合すれば我が水産輸出總額は八千萬圓内外となり、綿絲及綿布類に次ぎて輸出品中の第三位を占めるのであるが、顧みて我が海國たる自然の地位と環境とを考ふるときは如何。

繰り返す迄もなく我が國は四面環海、殊に世界三大漁場の一と稱せらるゝベーリング海に近接し、加ふるに支那海及日本海の大漁場を有し、太平洋面には魚族の繁殖に好適なる潮流に惠まれてゐるのであつて、陸地とは正反對に、天然の恩寵は正に天下に冠たりといふも決して過言ではあるまい。之を以て古來魚類は我が國民の保健上最要の食料となつて居り、獸肉に代つて食膳の用に供せられつゝある關係上、其の漁獲高の極めて多量なるべきは當然たらねばならぬ。

農林省の統計表に據れば、